

平成 28(2016)年度研究年報

第 13 号

平成 30 年 1 月

首都大学東京 健康福祉学部



首都大学東京

首都大学東京
平成 28 (2016) 年度
研究年報

第 1 3 号

平成 3 0 年 1 月

序

研究年報(第13号)の発刊にあたって

首都大学東京は「大都市における人間社会の理想像の追求」を大学の使命として、①都市環境の向上、②ダイナミックな産業構造を持つ高度な知的社会の構築、③活力ある長寿社会の実現をキーワードに掲げ教育研究を推進している。

その中で、健康福祉学部・大学院人間健康科学研究科では、各学問分野で「あらゆる世代・地域の人々が、自分の能力を発揮し活躍できる優しい社会」を目指した研究が実施されている。理論と検証、更に実践的知見を礎として各分野における学問体系を確立・深化させることはもちろん、異なる分野間の学問交流を通じて有機的・融合的な研究・教育が機動的・弾力的に行われていることも本学部・研究科の特徴である。更に、研究成果を広く世界に発信すると共に、世界中の「健康増進」に向けた様々な先進的な活動を行っている。又、東京都医学研究機構及び東京都健康長寿医療センターとの連携や、都立病院をはじめとした医療機関や福祉施設、更に地方自治体との教育・研究における協力関係や学術情報のネットワーク化など、地域保健医療の拠点として積極的な展開を図るとともに、研究成果の社会還元を進めている。

今回発刊する研究年報第13号は、平成28年度の研究活動の成果を取りまとめたものである。この冊子を通して、本学部・研究科での研究活動に対する理解を深めて頂きたい、又、本学部・研究科のより一層の発展のためにご指導ご鞭撻頂きたい、と願っている。

平成30年1月

首都大学東京

健康福祉学部長・人間健康科学研究科長

波 邊 賢

目次

学部長

教 授 渡 辺 賢……………3

看護学科

学科長	西 村 ユミ…………… 7
教 授	安達 久美子…………… 10
教 授	勝野 とわ子…………… 12
教 授	河原 加代子…………… 13
教 授	斉藤 恵美子…………… 14
教 授	習 田 明 裕…………… 16
教 授	猫 田 泰 敏…………… 18
教 授	山本 美智代…………… 19
准教授	飯 塚 哲 子…………… 20
准教授	石 川 陽 子…………… 21
准教授	木 村 千 里…………… 22
准教授	島 田 恵…………… 24
准教授	園 部 真 美…………… 26
准教授	種 吉 啓 子…………… 27
准教授	菱 沼 由 梨…………… 28
准教授	廣 川 聖 子…………… 29
准教授	福 井 里 美…………… 30
准教授	増 谷 順 子…………… 31
准教授	三 浦 里 織…………… 32
助 教	新 井 清 美…………… 33
助 教	川 添 美 花…………… 36
助 教	佐 藤 香…………… 37
助 教	高 嶋 希 世 子…………… 38
助 教	前 田 耕 助…………… 39
助 教	三 輪 聖 恵…………… 40

理学療法学科

学科長	網 本 和…………… 44
教 授	浅 川 康 吉…………… 47
教 授	新 井 光 男…………… 49
教 授	易 勤…………… 50
教 授	竹 井 仁…………… 52
教 授	新 田 収…………… 54
教 授	山 田 拓 実…………… 58
准教授	池 田 由 美…………… 60
准教授	宇 佐 英 幸…………… 61
准教授	来 間 弘 展…………… 62
准教授	古 川 順 光…………… 63
助 教	神 尾 博 代…………… 64
助 教	信 太 奈 美…………… 65

作業療法学科

学科長	石 井 良 和…………… 69
教 授	大 嶋 伸 雄…………… 70
教 授	菊 池 吉 晃…………… 72
教 授	小 林 法 一…………… 75
教 授	小 林 隆 司…………… 78
教 授	ボンジェ・ベーター…………… 81
准教授	石 橋 裕…………… 82
准教授	伊 藤 祐 子…………… 84
准教授	井 上 薫…………… 86
准教授	蘭 牟 田 洋 美…………… 88
准教授	谷 村 厚 子…………… 90
准教授	橋 本 美 芽…………… 91
准教授	宮 本 礼 子…………… 93

放射線学科

学科長	福 士 政 広…………… 98
教 授	小 倉 泉…………… 104
教 授	加 藤 洋…………… 105
教 授	齊 藤 秀 敏…………… 107
教 授	白 川 崇 子…………… 109
教 授	妹 尾 淳 史…………… 110
教 授	古 川 顕…………… 112
准教授	井 上 一 雅…………… 114
准教授	眞 正 浄 光…………… 118
准教授	関 根 紀 夫…………… 122
准教授	乳 井 嘉 之…………… 123
准教授	沼 野 智 一…………… 124
准教授	明 上 山 温…………… 128

注)所属・職位は平成29年4月現在

《表記方法等》

1 研究活動の掲載期間は、2015 年4月から 2016 年3月までである。

2 論文には、査読付きの業績を記載している。

【記載対象】学術論文、国際会議プロシーディングス、大学・研究機関紀要、研究会・シンポジウム資料、
その他学術会議資料、学位論文等

【読み方】氏名：タイトル．掲載媒体，掲載箇所，発表年月

3 著書は、著書、編書、訳書、共著、共編、共訳を含んでいる。

【記載対象】単行本、事典・辞書、地図、音楽資料、映像、画像等

【読み方】氏名：タイトル．担当範囲，出版社，出版年月

4 Misc (Miscellaneous, 種々雑多なもの)は、基本的に査読なしの業績を含んでいる。

【記載対象】研究論文、速報・短報・研究ノート等(学術雑誌、大学・研究機関紀要)、
研究発表要旨(国際会議、全国大会、その他学術会議)、機関テクニカルレポート、
プレプリント、総論・解説(学術雑誌、国際会議プロシーディングス、大学・研究所、
商業誌・新聞・ウェブメディア等)、講義資料(セミナー、チュートリアル、講習、講義他)、
書評、文献紹介、会議報告、その他記事

【読み方】氏名：タイトル．掲載媒体，掲載箇所，発表年月

5 講演・口頭発表等は、講演や国内会議、国際会議などにおいて発表された業績を含んでいる。

【記載対象】口頭発表(一般、招待・特別、基調講演)、ポスター発表、シンポジウム・ワークショップパネル
(公募、指名)、公開講演、セミナー、チュートリアル、講習、講義、メディア報道

【読み方】氏名：タイトル．発表の場，発表年月

6 競争的研究費の課題は、分担研究者となっている業績を含んでいる。

【読み方】氏名：研究費の種類「タイトル」，期間・年月

7 社会貢献活動は、イベント、番組、新聞雑誌など、社会的に貢献した業績を対象としている。

【読み方】氏名：活動内容・タイトル．主催・媒体名，期間・年月

8 外国語で発表された論文等は、原則としてそのまま表記している

健康福祉学部長

講演・口頭発表等

- 1) 渡辺 賢:モルモット盲腸紐スキンド平滑筋標本に対するプロテインホスファターゼ 2A 阻害薬の収縮抑制効果, 第 58 回日本平滑筋学会総会, 20160819.
- 2) 渡辺 賢:ホスファターゼ2A 阻害薬による平滑筋収縮抑制のメカニズム, 第 94 回日本生理学会大会, 20170329.

委員暦

- 1) 日本生理学会 評議員(199403-)
- 2) 日本平滑筋学会 評議員(200907-)
- 3) 日本保健科学学会 理事 (201505-)
- 4) 日本平滑筋学会 理事(201508-)
- 5) 日本体力医学会 編集委員会 委員 (201509-)
- 6) 日本生理学会 副理事長・庶務担当 (201603-)
- 7) 日本平滑筋学会 広報委員会・広報委員長(201608-)

看護学科

論文

- 1) 西村ユミ:「そうではなくて」という思考のスタイル——現象学と看護研究の関係を捉え直す——. 看護研究, 49(4):324-335, 201607.
- 2) 西村ユミ:臨床哲学のゆくえ、看護師の志向性とともに患者に会う——フィールドワーカーの経験. 現代思想, 11:125-135, 201611.
- 3) 新井清美, 西村ユミ, 福井里美, 三浦里織, 飯塚哲子:演劇ワークショップを取り入れた学習効果に対する評価尺度の作成. 日本保健科学会誌, 19(3):111-119, 201612.

著書

- 1) 木村敏:臨床哲学対話 いのちの臨床 木村敏対談集 1. 8, .29-70:, 青土社, 201703.

Misc

- 1) 西村ユミ:私を揺り動かし、意味に気づいていく——看護教員の語り、現象学的分析の試み. 看護教育, 57(4):268-274, 201604.
- 2) 河原智江, 久保恭子, 西村ユミ:研究対象者に対する研究倫理を考える? 研究対象者に対する倫理的配慮の問題点. 看護研究, 49(3):206-209, 201606.
- 3) 西村ユミ:特集 看護と哲学——共同がもたらす新たな知. 看護研究, 49(4):256-257, 201607.
- 4) 河原智江, 西村ユミ, 久保恭子:研究対象者に対する研究倫理を考える? 研究対象者に対する倫理的配慮の範囲と取り組むべき課題. 看護研究, 49(5):410-414, 201608.
- 5) 西村ユミ:患者への応答性としての看護実践. 医学哲学・医学倫理, 34:69-74, 201609.
- 6) 西村ユミ:思わず、うなづかされる. 看護研究, 49(6):487-489, 201610.
- 7) 河原智江, 西村ユミ, 久保恭子:研究対象者に対する研究倫理を考える?、研究対象者の立場に立った研究倫理教育の検討. 看護研究, 49(7):598-603, 201612.

講演・口頭発表等

- 3) 西村ユミ, 前田泰樹:「提案してみる」から「なっていく」看護管理——看護部長のワークの研究——. 第 42 回 日本保健医療社会学会大会, 20160515.
- 4) 西村ユミ:クリティカルケアに関わる看護師の回復に向けてー現象学的視点からのアプローチ. 第 12 回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 20160604.
- 5) 西村ユミ:生活体験を明らかにする研究ー現象学的看護研究からケアへ. 第 10 回日本慢性看護学会学術集会, 20160717.
- 6) 西村ユミ:現象学、看護学の視点から見たケアサイエンス. 日本学術会議健康・生活科学委員会主催、日本看護系学会協議会共催 公開シンポジウム, 20160723.

- 7) Saori, Miura., Satomi, Fukui., Yumi, Nishimura., Naoko, Iimura: CURRENT STATE OF ACTIVITIES AND ROLES OF CERTIFIED NURSES IN CANCER CHEMOTHERAPY NURSING IN JAPAN. International Conference on Cancer Nursing 2016 (ICCN 2016), 20160904.
- 8) 福井里美, 飯塚哲子, 新井清美, 三浦里織, 西村ユミ: 演劇ワークショップ急性期看護技術演習に理学療法と協働で取り組む可能性の検討. 第 26 回日本保健科学学会学術集会, 20161008.
- 9) 西村ユミ: 看護ケアの現象学——実践を語ることの意味. 慈恵看護研究会, 20161013.
- 10) Yumi Nishimura, Hiroki Maeda :Reformation of nursing management and nursing practices: a study of a nursing director's work. 22nd Qualitative Health Research Conference, 20161017.
- 11) Hiroki Maeda, Yumi Nishimura: Collaborative work by nurses for responding to the intercom in an emergency ward. 22nd Qualitative Health Research Conference, 20161019.
- 12) 西村ユミ: 看護の現象を追究するということ—ケアの現象学. 岩手看護学会学術集会, 20161105.

競争的資金等の研究課題

- 8) 西村ユミ: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「遺伝性疾患をめぐる病い経験の実態と新たな課題への対応方法に関する研究」, 2016-2018.
- 9) 榊原哲也: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(B))「医療現象学の新たな構築」, 2016-2018.
- 10) 前田泰樹: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「急性期病院における協働実践についてのワークの研究」, 2016-2018.
- 11) 飯塚哲子: 首都大学東京 傾斜的研究費(部局分)「急性期医療場を学ぶ多分野医療学生用の演劇ワークショップ型学習支援プログラム構築」, 201606-201703.

社会貢献活動

- 1) 第 42 回日本保健医療社会学会大会: ラウンドテーブル・ディスカッション「問題経験としての“病い”への接近と理解の可能性」の企画にかかわりコメンテータを行う, 20160515.
- 2) 第 13 回北区ナースヘルスケアネット交流会: 「自分の看護を見つけるー実践に語りから成長へー」を講義, 20160723
- 3) 東京都立板橋看護専門学校 職場内研修: 「専門学校における看護教育の現場を現象学からとらえる」を講義, 20160829
- 4) 福島県立医科大学看護研究講演会: 「現象学的看護研究: 記述から実践へ」を講義, 20160909
- 5) 日本質的心理学会第 13 回大会: 会員企画シンポジウム「対人サービス専門職における「ジェネラリスト」と「スペシャリスト」を再考する」を企画し、司会及び指定討論, 20160924.
- 6) 慈恵看護研究会: 教職員約 200 名を対象に「看護ケアの現象学ー実践を語ることの意味ー」について講義, 20161013
- 7) 日本質的心理学会第 13 回大会質的研究法セミナー: 「現象学的看護研究ー理論と分析の実際」を講義, 20161028
- 8) 現象学から学ぶ: 生きられたく身体」との交流. 第 2 回北海道肢体不自由児療養セミナー, 20161112.

- 9) 第 36 回日本看護科学学会学術集会:若手研究推進委員会企画研修として、「若手ステップアップ研修—査読経験者から学ぶ論文作法・投稿・査読対応」を企画, 20161210.
- 10) 鳥本靖子, 大澤絵里, 西村ユミ, 綿貫成明, 岩國亜紀子, 坂井志織, 濱吉美穂, 丸尾智実:若手研究者の小さな一歩が社会の歩みとなるために. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 20161211.
- 11) 看護を再発見するための「考える技法」. 2016 年度全国看セミナー 日本看護協会出版会, 20161126.
- 12) 平成 28 年度広島県看護職員養成講習会:「看護ケアの語りと現象学」を講義, 20170117
- 13) 看護を再発見するための「考える技法」. 2016 年度全国看セミナー 日本看護協会出版会, 20170211.
- 14) 日本看護協会出版会『教養と看護』: 看護師向け公開サイトの編集協力、及び「谷川俊太郎へのインタビュー」他、複数人との対談 20170215.
- 15) 千葉看護学会研究活動推進委員会企画第 13 回教育・研究セミナー:「現象学入門」を講義, 20170311

論文

- 1) Shrestha S, Adachi K, Shrestha S: Translation and validation of the Karitane Parenting Confidence Scale in Nepali language. *Midwifery*, 36:86-91, 2016.
- 2) Shrestha S, Adachi K, Petrini MA, Shrestha S, Rana Khagi B: Development and evaluation of a newborn care education programme in primiparous mothers in Nepal. *Midwifery*, 42:21-28, 2016.

Misc

- 1) 安達久美子, 佐藤香:【産後ケア報告から見えてきた今後の課題】文献から見えてきた産後ケアの課題. *助産師*, 70(3):15-17, 2016.
- 2) 安達久美子, 谷口初美, 岡本喜代子:海外だより モンゴル・ネパール・カナダの助産師/来日報告. *助産師* = The Journal of Japanese Midwives' Association: 日本助産師会機関誌, 70(3):29-31, 2016.
- 3) 安達久美子, 中山幸, 島田真理恵, 葛西圭子:『助産業務ガイドライン』を院内助産で活用しよう. *助産師* = The Journal of Japanese Midwives' Association: 日本助産師会機関誌, 70(3):26-28, 2016.
- 4) 安達久美子, 毛利多恵子, 葛西圭子, 田村千亜希, 今村理恵子, 岡本登美子, 岡本喜代子, システム化プロジェクト委員会:全国助産所分娩基本データ収集システム 2015 集計結果報告. *助産師*, 71(1):79-81, 2017.
- 5) 安達久美子:若年母への支援 米国における若年母への支援. *思春期学*, 35(1):50-53, 2017.

講演・口頭発表等

- 1) 安達久美子:若年母への支援 米国における若年母への支援. 第35回日本思春期学会, 2016.
- 2) 安達久美子, 金澤貴子, 潮田千寿子, 竹内道子, 小川久貴子:若年母を支援するうえで、支援者が感じる難しさ. 第35回思春期学会, 2016.
- 3) 小川久貴子, 潮田千寿子, 田幡純子, 鈴木小弥香, 金澤貴子, 竹内道子, 安達久美子, 内田朋子:10代で妊娠した女性を支援するWEBサイトから発信する情報メールの現状と課題. 第57回母性衛生, 2016.
- 4) 竹内道子, 潮田千寿子, 金澤貴子, 田幡純子, 鈴木小弥香, 内田朋子, 小川久貴子, 安達久美子:10代で妊娠した女性を支援するWEBサイトの立ち上げ. 第57回母性衛生, 2016.
- 5) 佐藤香, 安達久美子:日本の文献からみた産後ケア. 第26回日本保健科学学会, 2016.
- 6) 安達久美子, 佐藤香:海外文献からみた産後ケア. 第26回日本保健科学学会, 2016.
- 7) Fumiko Nimura, Kumiko Adachi:Traveling while pregnant: Japanese pregnant women's experiences. 19TH Eafons, 2017.
- 8) Kiyo Sakamoto, Kumiko Adachi:New identity formation in women who give birth in their teens. 19TH Eafons, 201703.
- 9) 佐藤洋子, 末次美子, 岡本喜代子, 安達久美子, 野口ゆかり, 吉本祐子, 井上彩香, 谷口初美:モンゴル助産師の妊婦肥満に関する認識. 第31回日本助産学会誌, 2017.
- 10) 安達久美子, 潮田千寿子, 金澤貴子, 竹内道子, 小山久貴子:10代で出産した女性への支援者養成講座を開催して. 第31回日本助産学会, 2017.

- 11) 本田沙織, 山崎めぐみ, 楊麗芳, 安達久美子: 日本人女性と中国人女性の妊娠および分娩経過の比較. 第 31 回日本助産学会誌, 2017.

競争的資金等の研究課題

- 1) 小川久喜子 分担 安達久美子: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「10 代女性の周産期を中心とした育児支援システムの構築」, 201404-2017.
- 2) 安達久美子: 文部科学省 科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「妊婦の恥骨結合上端開角(PSA)の測定による妊娠中のリラキシン量推定の試み」, 2014-2018.
- 3) 河内浩美 分担 安達久美子: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「子どもの性的成熟に対する母親の育児困難感尺度の開発」, 2015-2019.
- 4) 島田真理恵 分担 安達久美子: 厚生労働省 平成 28 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「産後ケアガイドラインの作成及び産前・産後支援のあり方に関する研究」, 2016-2017.

論文

- 1) 末永裕代, 勝野とわ子:開腹手術後高齢者の握力の継時的な変化. 日本保健科学学会誌, 19(4): 186-194, 201703.
- 2) 米村法子, 福井里美, 勝野とわ子:熟練した精神科看護師による統合失調症者の術後疼痛の判断. 日本保健科学学会誌, 19(4):167-175, 201703.

著書

- 1) 勝野とわ子:老年看護学技術(改訂第2版). 2, 睡眠、不眠:, 南江堂, 201609.

講演・口頭発表等

- 1) 木舟雅子, 宮永和夫, 比留間ちづ子, 小山恵子, 勝野とわ子, 小野寺敦志, 干場功, 秋元和美, 遠藤百合子, 伊藤耕介:若年認知症専門員研修事業について 5 年間実践しての報告. 日本認知症ケア学会誌, 201604.
- 2) 加藤智子, 勝野とわ子:てんかんをもつ人の自己管理を継続できる要因. 日本看護科学学会学術集会講演集, 201611.
- 3) 勝野とわ子, 出貝裕子, 末永裕代, 青山美紀子, 菅野裕佳子, 河原加代子:若年認知症家族介護者の健康の推移と在宅介護継続の関連 介護負担感、うつ、QOL の視点から. 日本看護科学学会学術集会講演集, 201611.
- 4) 岩瀬和恵, 勝野とわ子:特別養護老人ホームで高齢者の看取りにおける看護師の迷い. 日本看護科学学会学術集会講演集, 201611.
- 5) 森優貴乃, 松崎かさね, 勝野とわ子:What motivates nurses working in long-term care facilities in Japan?. 20th EAFONS, 20170309.

競争的資金等の研究課題

- 1) 勝野とわ子:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「若年認知症家族介護者の健康支援に関する看護技術開発」, 2015-2017.
- 2) 山岸直子:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「独居の高齢 2 型糖尿病患者への Person-centered care モデルの開発」, 2015-2017(分担).

著書

- 1) 河原加代子:序章,第1部総論編 第2章在宅看護の対象者,第2部実践編 第6章在宅看護技術,系統看護学講座統合分野在宅看護論(第5版):2-6,36-50,174-195,医学書院,東京,201701.
- 2) 河原加代子:第一部 看護行為に共通する援助技術 3.健康学習を支援し成長を促す技術,ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術(第6版):メディカ出版,42-53,大阪,201701.

講演・口頭発表等

- 1) 河原加代子:序章,第1部総論編 第2章在宅看護の対象者,第2部実践編 第6章在宅看護技術,系統看護学講座統合分野在宅看護論(第5版):2-6,36-50,174-195,医学書院,東京,201701.
- 2) 河原加代子:第一部 看護行為に共通する援助技術 3.健康学習を支援し成長を促す技術,ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術(第6版):メディカ出版,42-53,大阪,201701.
- 3) Hayano K.; Kawahara K.; Kurosawa Y.; Hirahara Y.; Shuda A.: Development of an “Autonomik Nervous System Balance Adjustment Model” Using Breathing Exercises, 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, 201703.
- 4) Hayano K.; Kawahara K.: The Conceptual Structure of Community Empowerment for Health Support According to the Disaster Cycle in an Affected Region, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, Japan, 201703.
- 5) 鳥居真由美, 河原加代子:人生の終末期の生き方の意思決定の特徴と関連する要因,第21回日本在宅ケア学会,201607.
- 6) 田中道子, 河原加代子:医療的ケアを必要とする子どもの体調の変化に初めて直面した母親の半田に関する研究,第21回日本在宅ケア学会,201607.
- 7) 中野理恵, 河原加代子:膝 OA および膝痛を抱える高齢者の QOL に関する評価法の検討,第21回日本在宅ケア学会,201607.
- 8) 鳥居真由美, 河原加代子:一地域の住民を対象とした人生の終末期の生き方の意思決定の特徴,第26回日本保健科学学会,201610.
- 9) 田中道子, 河原加代子:医療的ケアを必要とする超重症児を養育する母親の判断の特徴,第26回日本保健科学学会,201610.

競争的資金等の研究課題

- 1) 河原加代子:平成28年度科学研究費 基盤研究(B),患者－看護師相互作用プロセスにおけるケア効果を引き出す最適プロセス設計の開発,代表,採択
- 2) 河原加代子:平成28年度科学研究費 基盤研究(B),福島原子力災害による長期避難者への健康支援と評価:アクションリサーチ,分担,採択.

その他

- 1) 河原加代子:平成28年度訪問看護ステーション管理者・指導者育成研修 研修報告書:東京都福祉保健財団,201703

論文

- 1) 鈴木良美, 斉藤恵美子, 澤井美奈子, 岸恵美子, 掛本知里, 中田晴美, 五十嵐千代, 麻原きよみ: 保健師選択制導入前後における学生の技術到達度と実習体験に関する評価. 日本公衆衛生雑誌, 63(7), 355-366, 201607
- 2) 本田浩子, 斉藤恵美子: 発達障害者の親の負担感に関する要因の検討. 日本公衆衛生雑誌, 63(5), 252-259, 201605
- 3) 板倉葉子, 斉藤恵美子, 村松弘康: 診療所の禁煙外来受診者の自己効力感と禁煙継続との関連. 日本禁煙学会雑誌, 11(2), 22-30, 201604
- 4) 伊澤貴美子, 呉珠響, 斉藤恵美子: 脂肪肝有所見男性と非有所見男性の比較: 職域の定期健康診断の結果から. 日本公衆衛生看護学会誌, 4(2), 112-120, 201511

Misc

- 1) 鳩野洋子, 嶋津多恵子, 丹野久美, 富山紀代美, 宮崎美砂子, 斉藤恵美子, 椎葉倫代: 公衆衛生看護の日常活動・実践研究における倫理に関する実態調査の結果報告. 日本公衆衛生看護学会誌, 5(3), 266-272, 201612

講演・口頭発表等

- 1) Suzuki, H., Yaeda, J., Kawata, S., Irie, M., Tomita, M., Saito, E. Process of Appeared Effectiveness for Child Abuse Prevention by Public Health Nurses Through Home Visitations: A Qualitative Analysis using Modified-Grounded Theory Approach. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars: 35, 2017 March. Hong Kong.
- 2) Oh, C., Saito, E. Difficulties encountered in daily life among low-income elderly Korean residents in Japan International Health Nursing, 2016 Dec. Merboulle.
- 3) Kanzaki, Y., Saito, E., Characteristics of older adults at risk for social isolation receiving nurse monitoring. International Collaboration for Community Health Nursing Research 2016 Symposium. 2016 Sept. Kent.
- 4) Kawata, S., Saito, E., To Examine Effectiveness of the Sex Education Program to Improve of Health Literacy. The 3rd Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing. 2016 July. Busan.
- 5) 富樫和枝, 斉藤恵美子. 大学生の精神保健についてのスクリーニング検査に関する文献検討. 第 5 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 87, 201701
- 6) 鳩野洋子, 嶋津多恵子, 丹野久美, 富山紀代美, 宮崎美砂子, 斉藤恵美子, 椎葉倫代. 保健師の日常活動・実践研究における倫理に関する実態調査: 第 1 報 日常活動における倫理的ジレンマや倫理的行動. 第 5 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 141, 201701
- 7) 嶋津多恵子, 鳩野洋子, 丹野久美, 富山紀代美, 宮崎美砂子, 斉藤恵美子, 椎葉倫代. 保健師の日常活動・実践研究における倫理に関する実態調査: 第 2 報 実践研究における倫理的課題と組織環境. 第 5 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 141, 201701
- 8) 斉藤恵美子, 中田晴美, 森豊美, 栗原せい子, 鈴木良美. 保健師教育課程選択制導入前後の学生実習での技術到達度の比較(第 3 報): 保健師の自由回答からの分析. 第 5 回日本公衆衛生看護学会学術集会

会講演集, 193, 201701

- 9) 吉田和樹, 今井治彦, 呉珠響, 斉藤恵美子, 鈴木良美. 一教育機関の保健師学生の実習での体験と技術到達度の自己評価:保健師教育課程選択制導入前後の比較. 第 5 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 194, 201701
- 10) 水本ゆきえ, 表志津子, 平松知子, 斉藤恵美子, 横川正美, 岡本理恵, 市森明恵, 塚崎恵子, 京田薫. 介護予防事業としてのフットケアの現状と課題. 第 75 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 521, 201610

競争的資金等の研究課題

- 1) 斉藤恵美子:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(B))「降雪地域の高齢者の心身機能向上を目的とした歩行機能サポートプログラムの構築と評価」, 2013-2016. (分担)
- 2) 斉藤恵美子:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「保健師選択制を先駆的に実施した自治体と大学との協働による学生の到達度評価」, 2014-2016. (分担)

論文

- 1) 河西洋子, 石川陽子, 習田明裕, 志自岐康子:交代制勤務を行う看護師のヒヤリ・ハット、インシデント、アクシデントに関連する要因. 日本保健科学学会誌, 19(1):14-23, 201606.
- 2) 藤田厚美, 習田明裕:回復期リハビリテーション病棟看護師の多職種連携実践能力に関連する要因. 日本看護科学学会誌, 36th:229-237, 201612.
- 3) 大田博, 石川陽子, 習田明裕, 志自岐康子:他施設が公開した新人看護職員研修への参加と離職傾向・看護技術習得自信度との関係 新人看護職員研修事業「医療機関受入研修事業」に焦点をあてて. 医療職の能力開発, 4(1):11-19, 20170120.

著書

- 1) 志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕, 金壽子:基礎看護技術. メディカ出版, 2017.
- 2) 志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕:看護学概論. メディカ出版, 2017.

Misc

- 1) 前田耕助, 習田明裕, 高橋久美子:足部への異なる温度による温熱・寒冷刺激が左前頭部の脳血流動態に及ぼす影響. 日本保健科学学会誌, 19:22-22, 201609.
- 2) 前田耕助, 野村亜由美, 三輪聖恵, 習田明裕:自作動画を用いた振り返り学習法の検討 ウェブサイトによる視聴の試み. 日本保健科学学会誌, 19:22-22, 201609.
- 3) 加藤智史, 習田明裕:「セラピューティックタッチ」に関する国内文献の動向. 日本保健科学学会誌, 19:24-24, 20160926.
- 4) 岡島志野, 習田明裕:手術室看護師が抱える倫理的課題の最新報告—手術看護認定看護師へのインタビューから—. 日本手術看護学会誌, 12(2):178-178, 20160930.
- 5) 野村亜由美, 石川陽子, 習田明裕:積極的/能動的な参加を目指した Bespoke Nursing System(BeNUR)の開発. 日本看護科学学会学術集会講演集, 36th:193-193, 201611.
- 6) 中村幸代, 習田明裕:病気を抱えながら就業した看護職の体験. 日本看護科学学会学術集会講演集, 36th:197-197, 201611.
- 7) 林幸子, 習田明裕:未治療の未破裂脳動脈瘤を持つ人の病気の不確かさとその関連要因. 日本看護科学学会学術集会講演集, 36th:374-374, 201611.
- 8) 森田牧子, 川添美花, 廣川聖子, 渡辺多恵子, 習田明裕:在宅精神障害者の不適切な介護状態や虐待を認識した訪問看護師の困難感の分析. 日本看護科学学会学術集会講演集, 36th:491-491, 201611.
- 9) 森田孝子, 習田明裕, 添田英津子, 萩原邦子, 古米照恵:移植看護教育の実態調査から今後の教育の方向性を考える. 日本看護科学学会学術集会講演集, 36th:432-432, 201611.
- 10) 宮崎貴子, 習田明裕:臨地実習指導者の役割遂行に関連する要因の検討. 日本看護科学学会学術集会講演集, 36th:264-264, 201611.

- 11) 今西誠子, 習田明裕, 赤澤千春, 谷水名美, 林優子, 萩原邦子:腎移植看護に携わる看護師の倫理的ジレンマ. 日本臨床腎移植学会プログラム・抄録集, 50th:122-, 2017.

論文

- 1) The influence of older primiparity on childbirth, parenting stress, and mother-child interaction. Japan Journal of Nursing Science, 13(2):229-239, 201604.

講演・口頭発表等

- 1) 猫田泰敏: 大学生のメンタルヘルス教育の開発と評価. 日本公衆衛生学会, 201610.
- 2) 猫田泰敏: 看護実践における疫学・臨床疫学の機能と役割に関する一提案. 日本公衆衛生学会, 201610.
- 3) 猫田泰敏: 精神科外来へ通院する患者の肥満の頻度と肥満に関連する要因の検討. 日本精神科医学会, 201611.

論文

- 1) 山本美智代, 中川薫, 加藤久美子, 大久保嘉子, 米山明: 東日本大震災発災時の首都圏での外来看護師長の働きー身体や知的に障害のある人の看護に焦点をあててー. 小児保健研究, 75(5):586-593, 2016.
- 2) 中川薫, 山本美智代, 大久保嘉子, 米山明, 加藤久美子: 首都圏在住の重症心身障害児者の家族がもつ防災意識ー福祉避難所の認知度, 避難意識, 避難所生活への要望ー. 小児保健研究, 75(5):621-628, 2016.

競争的資金等の研究課題

- 1) 山本美智代: 文部科学省 科学研究費(基盤 C)「在宅障害児者が不測の事態に備える教育プログラムの開発とその効果に関する研究」, 2015.04-2019.03.
- 2) 中川薫: 文部科学省 科学研究費(基盤 C)「障害児者の受けた震災被害と支援に関する文献研究ー既存の知見の体系化」, 2015.04-2018.03.
- 3) 種吉啓子: 文部科学省 科学研究費(基盤 C)「子どもの在宅療養を支援する小児看護専門看護師の教育カリキュラムの検討」, 2014.04-2017.03.

論文

- 1) 福井里美, 西村ユミ, 飯塚哲子ほか:成人看護学演習に演劇ワークショップを取り入れた学習効果に対する評価尺度の作成. 日本保健科学学会誌, 19(3):111-119, 201612.

著書

- 1) 飯塚哲子:地域に根ざす民衆文化の創造－「常民大学」の総合的研究. 0, 第1部 B 戦後 第9章 三枝博音「鎌倉アカデミア」の発足と展開そして今, 201703.

講演・口頭発表等

- 1) 飯塚哲子:看とりについて考える. わたしの Death Education, 20161119.
- 2) 飯塚哲子:いのちの音を聴く・いのちの誕生 . 地域連携体験授業, 20170125.
- 3) 福井里美・飯塚哲子・三浦里織・西村ユミ:演劇ワークショップ急性期看護技術演習に理学療法学科と協働して取組む可能性の検討. 第26回日本保健科学学会学術集会, 20161008.

競争的資金等の研究課題

- 1) 新藤浩伸:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究C)「地域資源の掘り起こしと学習文化活動の循環プロセスに関する実証研究」(分担), 201404-201703.
- 2) 飯塚哲子:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究C)「医療系－保健医療福祉－専門職の基礎教育に関する連携教育プログラムの開発」, 201404-201703.

社会貢献活動

- 1) 飯塚哲子:東京都荒川区内中学校体験授業講師. 20140401-201703.
- 2) 飯塚哲子:東京都教育委員会主催事業デス・エデュケーション講師 . 20140401-201703..
- 3) 飯塚哲子:早稲田大学エクステンション協力事業公開講座講師. 20140401-201703.

論文

- 1) 河西洋子, 石川陽子, 習田明裕, 志自岐康子:交代制勤務を行う看護師のヒヤリ・ハット、インシデント、アクシデントに関連する要因. 日本保健科学学会誌, 19(1):14-23, 2016.

著書

- 1) 福井トシ子, 齋藤訓子, 編集 福井トシ子, 齋藤訓子, 鳥海和輝, 石川陽子, 高島尚子, 三輪恭子, 光田信明:診療報酬のしくみと考え方. 9, 第1章, 第3章 25:, 日本看護協会出版会, 2016.
- 2) 志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕, 川村佐和子, 石川陽子他:看護学概論. 9, 第4部 17 国際看護:, メディカ出版, 2017.

講演・口頭発表等

- 1) 野村亜由美, 習田明裕, 石川陽子:積極的/能動的な参加を目指した Bespoke Nursing System(BeNURS)の開発. 日本看護科学学会, 2016.

競争的資金等の研究課題

- 1) 奥島美夏:日本学術振興会 基盤研究(B)「ASEAN 経済統合・EPA 下の保健医療人材の東アジア域内移動と職場適応の実証研究」, 2014-2019.
- 2) 石川陽子:日本学術振興会 基盤(C)「異文化看護能力の開発に向けた基礎的研究」, 2016-2020.

論文

- 1) Kimura C, Masuya J. : Significance of nursing students' experiences as health volunteers in communities: A qualitative study . International journal of nursing and clinical practice, 4:232, 2017.
- 2) Yamazaki A, Tsumura A, Mine H, Kimura C, et al.: Feasibility and short-term impact of the “Case Study in-house Group Training Program for Family Nursing” at medical facilities, International Journal of Nursing Practice, 23(1): e12503,2016.

Misc

- 1) 勝野とわ子, 木村千里, 園部真美, 増谷順子: The 19th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 参加報告. 首都大学東京 傾斜的研究費(部局長裁量経費)看護学科 成果報告書 看護教育・研究の国際化推進と人材育成, 9-12, 201703.

講演・口頭発表等

- 1) Kimura C, Sonobe M, Ikeda M, Azuma T, Watanabe M, Hamasaka M, Hirata N: A qualitative study of primary school students' learning through sexuality and relationship education (SRE) program based on collaboration by midwives and school teachers in Japan. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, 201703.
- 2) Kimura C, Masuya J.: Journey to acquire helping spirit: A qualitative study on experiences of university graduates in volunteering for childrearing families and elderly. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, 201703.
- 3) Sonobe M, Kimura C: Practice and Evaluation of a Home-visit Mother/Child Support Program using the Postnatal Promotion Guide. The 2nd MMIRA Conference 2016, 201608.
- 4) 徳谷理恵, 奥村三津子, 山本茂子, 堀江友紀, 前田由紀, 津村明美, 峰 博子, 木村千里, 山崎あけみ: 家族看護ケーススタディ研究受講後の中堅看護師の看護実践における変化. 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 201702.
- 5) Masuya J, Kimura C: Learning from volunteering activities of students at university nursing departments: a comparison between dementia and child care support volunteers. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, 201703.
- 6) Sonobe M, Kimura C, Ikeda M, Azuma T: Second-year elementary school students' learning through fetal and childbirth education by midwives and school teachers The 3rd International Society of Caring and Peace Conference, 201703.

競争的資金等の研究課題

- 1) 山崎あけみ: 文部科学省: 科学研究費補助金 基盤研究(B): 研究分担者「地域完結型医療のためのケースメソッドを用いた協働型家族看護研修プログラムの構築」, 2016-2019.
- 2) 木村千里: 公立大学法人首都大学東京 傾斜的研究費(部局分・部局競争的経費)「家族形成期にある困難家族を支援する看護職のコンピテンシー」, 201604.-201703.

- 3) 飯塚哲子:公益財団法人 日本健康アカデミー 健康知識・教育に係る公募助成金:研究分担者「近隣中学校との地域連携協働事業・健康保健教育支援「生命学」体験授業のプログラム開発」, 2016-2018.

社会貢献活動

- 1) 広がれ、こども食堂の輪！推進委員(201703-)
- 2) 荒川区 子どもの居場所・子ども食堂推進委員会(201703-)
- 3) 家族看護ケーススタディ研修:ファシリテータ育成研修(201612.)
- 4) 荒川区子育て支援ボランティア 新規ボランティア研修(201702-)
- 5) 足立区立小学校 学童期・思春期の健康教育(201301-)

委員歴

- 1) International Journal of Nursing and Clinical Practice 編集委員(201603-)
- 2) Journal of Public Health and Epidemiology 査読委員(201507-)

Misc

- 1) 島田 恵:訪問看護の見える化を目指す 第4回教育現場では(在宅看護論). ほうもん看護, (229):201607.
- 2) 島田 恵, 石井佳子:地域包括ケアシステムにおけるこれからの外来看護-HIV/AIDS 看護における外来プライマリナーシングの取り組みから-. 日本エイズ学会誌, 18(3):208-212, 201608.

講演・口頭発表等

- 1) 杉野祐子, 下司有加, 城崎真弓, 大野稔子, 島田 恵, 池田和子:中核拠点病院連絡員養成事業におけるHIV 感染症看護師の臨床実習とその評価. 第10回日本慢性看護学会, 201607.
- 2) 石井佳子, 島田 恵:外来患者の受療継続を支援する外来看護師の実践. 第18回日本在宅医学会大会, 201607.
- 3) 島田 恵:HIV 感染症/エイズの基礎知識 地域支援のために. みんなの輪, 201609.
- 4) 石井佳子, 島田 恵:慢性疾患患者の受療継続を支援する外来看護に関する文献検討. 第26回日本保健科学学会, 201610.
- 5) Fumiko Kagiura, Megumi Shimada, Teruhisa Fujii, Seiji Saito, Yoshiko Ogawa, Tature Sakata, Kazuko Ikeda, Masayuki Kakehashi: Factors for Japanese HIV positive patients to continue medical care. 19th IUSTI Asia-Pacific Conference, 20161201.

競争的資金等の研究課題

- 1) 池田和子(分担):厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究 分担研究「HIV 医療包括ケア体制の整備に関する研究～コーディネーターナースの立場から～」, 2011-.
- 2) 大金美和(分担):厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金「血液凝固因子製剤による HIV 感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究 分担研究「HIV 感染血友病等患者の医療福祉と精神的ケアにおける課題と連携に関する研究」, 2011-.
- 3) 加瀬田暢子:文部科学省 科学研究費「HIV 陽性者へのセクシャルヘルス支援に関する看護師向け教育プログラムの開発研究」, 2013-.
- 4) 鍵浦文子:公益財団法人医療科学研究所 2015年度研究助成「HIV/AIDS 患者が受診中断に至る過程の解明」, 201504-201703.

社会貢献活動

- 1) 島田 恵:日本エイズ学会 認定制度審議会 副委員長および編集委員
- 2) 島田 恵:日本慢性看護学会 評議委員
- 3) 島田 恵:東京都訪問看護管理者・指導者育成研修事業 運営委員会 座長
- 4) 島田 恵:東京都エイズピアエデュケーション スーパーバイザー
- 5) 島田 恵:慢性疾患セルフマネジメントワークショップ リーダー

論文

- 1) Sonobe M, Usui M, Hiroi K, Asai H, Hiramatsu M, Nekoda Y, Hirose T: Influence of older primiparity on childbirth, parenting stress, and mother-child interaction. Japan journal of nursing science : JJNS, 13(2):229-239, 201604.

講演・口頭発表等

- 1) Sonobe M: Practice and Evaluation of a Home-visit Mother/Child Support Program using the Postnatal Promotional Guide. 第2回日本混合研究法学会年次大会, 201608.
- 2) Kimura C, Sonobe M, Ikeda M, Azuma T, Watanabe M, Hamasaka M, Hirata N: A qualitative study of primary school students' learning through sexuality and relationship education (SRE) program based on collaboration by midwives and school teachers in Japan. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, 201703.
- 3) Sonobe M, Kimura C, Ikeda M, Azuma T, Watanabe M: Second-year elementary school students' learning through fetal and childbirth education by midwives and school teachers. The 3rd International Society of Caring and Peace Conference, 201703.
- 4) Sonobe M, Usui M, Hirose T: Early Intervention to Support Parenting during Pregnancy. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, 201703.

競争的資金等の研究課題

- 1) 臼井雅美, 島袋香子, 園部真美, 田久保由美子, 金子あけみ: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「家族システムケアアプローチを用いた周産期家族支援プログラムの開発研究」, 2015-2017.

社会貢献活動

- 1) 園部真美, 木村千里: 「産前産後のお母さんの心の健康と赤ちゃんとの関わり」. 荒川区育児支援ボランティア養成講座, 201609-.
- 2) 園部真美: 性と生の授業「体の変化といのちの始まり」. 足立区東伊興小学校, ————201611-.
- 3) 木村千里, 園部真美: 「母乳育児を支える: 今どきの母乳育児」. 荒川区育児支援ボランティア養成講座, 201702-.
- 4) 園部真美: 性と生の授業「いのちのきずなのお話」. 足立区東伊興小学校 201702-.

競争的資金等の研究課題

- 1) 種吉啓子:基盤研究 C 子どもの在宅療養を支援する小児看護専門看護師の教育カリキュラムの検討

社会貢献活動

- 1) 種吉啓子:日本保健科学学会誌査読者. 14, 2007-.
- 2) 種吉啓子:東京北医療センター看護研究講師. 10, 200906-.
- 3) 種吉啓子:東京都立足立特別支援学校 大学講座. 10, 2010-.
- 4) 種吉啓子:日本小児看護学会誌専任査読者. 14, 201107-.
- 5) 種吉啓子:EPA 看護師候補者学習会講師. 10, 201301-201711.
- 6) 種吉啓子:日本小児看護学会 学術・研究推進委員会委員. 14, 201310-201706.
- 7) 種吉啓子:日本質的心理学会第 14 回大会運営委員. 14, 201704-201709.

その他

- 1) 社会福祉士免許取得, 201703.

委員歴

- 1) 一般社団法人 日本小児看護学会 学術・研究推進委員会委員(201310-201706)

論文

- 1) Hishinuma, Y., Horiuchi, S., Yanai, H.: Development and assessment of the validity and reliability of a scale for measuring the mentoring competencies of Japanese clinical midwives: an exploratory quantitative research study. Nurse Education Today, 41:60-66, 201606.
- 2) 寺尾洋介, 平田美和, 菱沼由梨, 原田竜三, 高野海哉, 富岡晶子: 2015 年度オープンキャンパスにおける自ら学ぶ意欲を持つ受験生獲得に向けた看護学科「高齢者体験」企画の実施. 東京医療保健大学紀要, 11(1):45-50, 201612.

競争的資金等の研究課題

- 1) 菱沼由梨: 文部科学省 科学研究費補助金(若手研究(A))「若手指導者のための臨床指導ガイドの開発 - 助産における臨床教育の基盤づくり」, 201604-202103.
- 2) 島田真理恵, 分担 菱沼由梨: 厚生労働省 平成 28 年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業「産後ケアガイドラインの作成及び産前・産後の支援のあり方に関する研究」, 201610.-201703.

社会貢献活動

- 1) 菱沼由梨: 日本助産学会誌 査読委員. 201104.～
- 2) 菱沼由梨: 日本保健科学学会誌 査読. 201604.～
- 3) 菱沼由梨: 看護研究指導(講師). 哺育会 浅草病院 クリニカルラダー レベルⅡ研修, 201610.
- 4) 菱沼由梨: 看護研究指導(講師). 哺育会 浅草病院 クリニカルラダー レベルⅢ研修, 201610.
- 5) 菱沼由梨: 母乳ケア講習会 講師. 201702.

著書

- 1) 廣川聖子:看護技術. 9, 訪問看護におけるリスクマネジメント:その他のリスクマネジメント-自傷・自殺:, メヂカルフレンド社, 201704.

講演・口頭発表等

- 1) 森田牧子, 川添美花, 廣川聖子, 渡辺多恵子, 習田明裕:在宅精神障害者の不適切な介護状態や虐待を認識した訪問看護師の困難感の分析. 第36回日本看護科学学会学術集会, 20161210.

競争的資金等の研究課題

- 1) 廣川聖子:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「自殺未遂歴がある精神科訪問看護利用者を対象とした自殺予防支援プログラムの開発」, 2015-2018.

社会貢献活動

- 1) 廣川聖子:精神科訪問看護がよりよくわかる研修会. 11,14, 201309-.
- 2) 廣川聖子:サリン被害者検診. 11,14, 201310-.

委員暦

- 1) 日本社会精神医学会 評議員(201408-)

論文

- 1) 福井里美:Did Japan's Cancer Control Act drive the spread of psychosocial care nationwide? 9th World Research Congress of the European Association for Palliative Care:352, 201606.
- 2) 新井清美, 西村ユミ, 福井里美, 三浦里織, 飯塚哲子:成人看護学演習に演劇ワークショップを取り入れた学習効果に対する評価尺度の作成. 日本保健科学学会誌, 19(3):111-119, 201612.
- 3) 米村法子, 福井里美, 勝野とわ子:熟練した精神科看護師による統合失調症者の術後疼痛の判断. 日本保健科学学会誌, 19(4):167-175, 201703.

Misc

- 1) Fukui, S., Morita, M., Yoshida, M., Okuhara, H., Endo, K.:Did Japan's Cancer Control Act drive the spread of psychosocial care nationwide? 9th World Research Congress of the European Association for Palliative Care.. 9th World Research Congress of the European Association for Palliative Care.:352, 201606.
- 2) 福井里美, 飯塚哲子, 新井清美, 三浦里織, 西村ユミ:演劇ワークショップ急性期看護技術演習に理学療法学生と共同で取り組む可能性の検討. 日本保健科学学会学術集会, 19(S):20, 201609.
- 3) 福井里美, 守田美奈子, 吉田みつ子, 遠藤公久, 奥原秀盛:診断後 10 年以上の乳がん女性サバイバーがピアサポート活動に関わり続ける経験. 日本がん看護学会誌, 31(S):237, 201702.

競争的資金等の研究課題

- 1) 福井里美:学術研究助成基金助成金 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「がん闘病生活 10 年間ににおけるサポートグループ参加と当事者間支援の実際とその意味」, 201304-201703.
- 2) 福井里美:首都大学東京 平成28年度傾斜的研究費(部局分)部局競争的「がん化学療法によるしびれの生活経験—看護師と作業療法士による支援に向けて」, 201604-201703.

社会貢献活動

- 1) 福井里美:都立がん・感染症センター駒込病院看護部 看護研究研修コース「質的研究」, 10, 20140611-201606.
- 2) 福井里美:非営利特定法人がんサポート・コミュニティー がんサバイバーのためのサポートグループファシリテーター, 200804.-201603.
- 3) 福井里美:非営利特定放任 がんフォーラム山梨 理事
- 4) 福井里美:山梨県健康増進課がん対策推進係主催 がんピアサポーター養成研修会講師 20161008
- 5) 福井里美:一般社団法人がん相談研究会 監事
- 6) 福井里美:一般社団法人カウンセリング学会 カウンセリング研究 査読委員
- 7) 福井里美:日本保健科学学会誌 編集委員

論文

- 1) Junko Masuya, Kikuko Ota and Yuriko Mashida: Practice of Horticultural Activities Training Program for the Staff in the Nursing Home. International Journal of Nursing & Clinical Practices, 3(1):1-3, 201612.
- 2) 増谷順子: 地域で暮らす若年性認知症患者へのボランティアを通じた看護大学生に対する教育実践の検討. 老年看護学, 21(2):67-74, 201702.

講演・口頭発表等

- 1) 増谷順子, 太田喜久子, 真志田祐理子: 認知症ケアに携わる看護・介護職への園芸活動研修プログラムの実践. 第17回日本認知症ケア学会大会, 20160604.
- 2) 増谷順子, 太田喜久子, 真志田祐理子: 高齢者施設における看護・介護職への園芸活動研修プログラムの実践. 慶應義塾大学 SFC Open Research Forum 2016, 20161118.
- 3) Junko Masuya, Chisato Kimura, Fusae Fujita: Exploration of service-learning by university student volunteers: Experiences in volunteering for childrearing families and the elderly in communities.. The 20th EAFONS, 201703.

競争的資金等の研究課題

- 1) 太田喜久子: 日本学術振興会 科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「ハプティクス技術を活用した介護ロボット開発過程における評価ツールの作成」, 201604-201803.
- 2) 増谷順子: 首都大学東京 平成28年度 傾斜的研究費 部局分 若手奨励経費「認知症高齢者に対する「園芸活動支援方法」の教材開発と認知症ケアへの普及に向けた実践的研究」, 201604-201703.

社会貢献活動

- 1) 増谷順子: 慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員. 14, 20140401-.
- 2) 増谷順子: 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科非常勤講師. 10, 20150401-.

論文

- 1) 新井清美, 西村ユミ, 福井里美, 三浦里織, 飯塚哲子:成人看護学演習に演劇ワークショップを取り入れた学習効果に対する評価尺度の作成. 日本保健科学学会誌, 19(3):111-119, 201612.

Misc

- 1) 三浦里織, 福井里美, 西村ユミ, 飯村直子:がん化学療法看護認定看護師の活動状況と経年による役割変化. 日本がん看護学会誌, 30:213-, 201601.
- 2) Saori Miura:Current state of activities and roles of certified nurses in cancer chemotherapy nursing in Japan. International Society of Nurses Cancer Care, 201609.
- 3) 福井里美, 飯塚哲子, 新井清美, 三浦里織, 西村ユミ:演劇ワークショップ急性期看護技術演習に理学療法学生と協働で取組む可能性の検討. 日本保健科学学会誌, 19:20-20, 201609.

社会貢献活動

- 1) 三浦里織:NPO 法人ニューマン理論・実践研究・研究会 理事 2016.4～.
- 2) 三浦里織:がん医療研修機構 理事 2015.4～.
- 3) 三浦里織:学研秀潤社「ナーシングキャンパス」編集委員 2013.4～.
- 4) 三浦里織:日本看護協会 認定看護師教育機関認定確認更新審査ワーキンググループ委員 2016.4～.

論文

- 1) 新井清美, 森田展彰, 大谷保和, 田中紀子:ギャンブル障害の深刻化に影響する要因の検討. 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 51(3):153-172, 201606.
- 2) 新井清美, 森田展彰, 田中紀子, 佐藤拓:病的ギャンブリングの認識における変化のプロセス ギャンブル問題が深刻化する過程に焦点を当てて. アディクションと家族, 31(2):150-158, 201606.
- 3) 新井清美, 西村ユミ, 福井里美, 三浦里織, 飯塚哲子:成人看護学演習に演劇ワークショップを取り入れた学習効果に対する評価尺度の作成. 日本保健科学学会誌, 19(3):111-119, 201612.

Misc

- 1) 新井清美:つながりなおす依存症社会 支援に大きな地域差. 信濃毎日新聞, (48350):26-27, 201701.
- 2) 新井清美:つながりなおす依存症社会 「家族への支援必要」声相次ぐ. 信濃毎日新聞, (48380):1-1, 201702.
- 3) 新井清美:ギャンブル依存への対応. 松本市民タイムス, (14958):20-20, 201702.
- 4) 森田展彰,新井清美,山口玲子,大宮宗一郎,望月明見,受田恵理,渡邊敦子,山田理絵,小池純子:更生保護施設における薬物事犯への支援に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)「刑の一部執行猶予制度下における薬物依存症者の地域支援に関する政策研究」分担研究報告書, :99-128, 201703.
- 5) 新井清美:薬物依存症家族への支援—2008 年全国家族調査との比較—. 日本アルコール関連問題学会雑誌, 18(2):15-18, 201703.
- 6) 新井清美:薬物依存症家族への支援—全国家族調査の結果を踏まえた, 相談機関別の支援—. 日本アルコール関連問題学会雑誌, 18(2):19-23, 201703.
- 7) 新井清美:求められるギャンブル依存症対策. 月刊金融ジャーナル, 730:82-83, 201703.
- 8) 宮岡等, 森田展彰, 新井清美, 田中紀子, 川口由起子, 朝倉崇文, 稲村厚, 蒲生裕司:病的ギャンブリングの実態調査と回復支援のための研究. 厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)「様々な依存症の実態把握と回復プログラム策定・推進のための研究」分担研究報告書,51-122, 2016.
- 9) 樋口進, 成瀬暢也, 森田展彰, 吉岡幸子, 新井清美, 岡崎直人, 平山智恵:アルコール依存症家族の支援に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)「アルコール依存症に対する総合的な医療の提供に関する研究」分担報告書, 171-259, 2016.
- 10) 和田一郎, 新井清美:神奈川県子どもの貧困実態調査報告書. 2016.

講演・口頭発表等

- 1) 成瀬暢也, 森田展彰, 吉岡幸子, 新井清美, 平山智恵, 岡崎直人:受刑中の薬物事犯者の家族の実態と必要な支援に関する研究 全国の保護観察所家族会参加者の調査より. 精神神経学雑誌, 201606.
- 2) 成瀬暢也, 森田展彰, 吉岡幸子, 新井清美, 平山智恵, 岡崎直人:受刑中の薬物事犯者の家族の実態と必要な支援に関する研究 全国の保護観察所家族会参加者の調査より. 精神神経学雑誌, 201606.
- 3) 新井清美, 森田展彰, 内藤献, 杉山 三郎, 西村直之:ギャンブリング問題を持つ者が電話相談に至る要因

の検討 パチンコ・パチスロ問題の電話相談からの分析. 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 201608.

- 4) 森田展彰, 新井清美, 田中紀子, 川口由起子:ギャンブル障害のある人の家族の実態とニーズ. 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 201608.
- 5) 吉岡幸子, 新井清美, 森田展彰, 成瀬暢也:アルコール・薬物依存症の家族支援～全国家族調査の結果を踏まえて～. 第 38 回日本アルコール関連問題学会秋田大会, 20160909.
- 6) 吉岡幸子, 成瀬暢也, 森田展彰, 新井清美:アルコール依存症・薬物依存症家族の支援に関する全国調査その 1 アルコール依存症家族の背景と支援の必要性. 第 38 回日本アルコール関連問題学会秋田大会, 20160909.
- 7) 新井清美, 成瀬暢也, 森田展彰, 吉岡幸子:アルコール依存症・薬物依存症家族の支援に関する全国調査～その 2～—薬物依存症家族の背景とニーズ—. 第 38 回日本アルコール関連問題学会秋田大会, 20160909.
- 8) 森田展彰, 新井清美, 吉岡幸子, 成瀬暢也:アルコール依存症・薬物依存症家族の支援に関する全国調査～その 3～—家族の精神健康を中心とした分析—. 第 38 回日本アルコール関連問題学会秋田大会, 20160909.
- 9) 成瀬暢也, 森田展彰, 吉岡幸子, 新井清美:アルコール依存症・薬物依存症家族の支援に関する全国調査～その 4～—刑の一部執行猶予制度に伴う家族支援—. 第 38 回日本アルコール関連問題学会秋田大会, 20160909.
- 10) 新井清美, 渡邊敦子, 岡坂昌子:大学生のアディクション問題の実態—アルコールとギャンブルの問題に関する検討—. 第 38 回日本アルコール関連問題学会秋田大会, 20160910.
- 11) 新井清美, 田中紀子, 森田展彰:ギャンブル障害の当事者や家族に対する心理教育・心理療法. 平成 28 年度日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 20161007.
- 12) 新井清美, 森田展彰, 内藤献, 杉山大三郎, 西村直之:ギャンブリング問題を持つ者が電話相談に至る要因の検討—パチンコ・パチスロ問題の電話相談からの分析—. 平成 28 年度日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 20161008.
- 13) 福井里美, 飯塚哲子, 新井清美, 三浦里織, 西村ユミ:演劇ワークショップ急性期看護技術演習に理学療法学生と協働で取組む可能性の検討. 日本保健科学学会誌, 20161008.
- 14) 森田展彰, 新井清美, 田中紀子, 川口由起子:ギャンブル障害のある人の家族の実態とニーズ. 平成 28 年度日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 20161008.
- 15) 吉田和樹, 新井清美, 前田耕助, 高嶋希世子:東日本大震災における福島県被災地域内の地域包括支援センターの災害支援の実態 保健師活動に着目して. 日本看護科学学会学術集会講演集, 201611.
- 16) 鈴木勲, 和田一郎, 玉井紀子, 新井清美:児童自立支援施設に入所する非行児童の被虐待経験とその支援のあり方に関する研究. 日本子ども虐待防止学会 第 22 回学術集会おおさか大会, 20161126.
- 17) 和田一郎, 鈴木勲, 玉井紀子, 新井清美:児童相談所における非行児童の被虐待体験とその支援に関する研究. 日本子ども虐待防止学会 第 22 回学術集会おおさか大会, 20161126.
- 18) 吉田和樹, 新井清美, 前田耕助, 高嶋希世子:東日本大震災における福島県被災地域内の地域包括支援センターの災害支援の実態. 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 20161211.
- 19) 吉岡幸子, 新井清美:アルコール依存症・薬物依存症家族支援に関する全国調査～その 1～—アルコール依存症家族の相談機関別の特徴—. 第 5 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 20170122.
- 20) 新井清美, 吉岡幸子:アルコール依存症・薬物依存症家族支援に関する全国調査～その 2～—薬物依存症

競争的資金等の研究課題

- 1) 新井清美:文部科学省 科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「病的ギャンブリングに関連する要因とリスク判断のためのアセスメントツールの開発」, 2015-2017.
- 2) 森田展彰:科学技術振興機構 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域「全国調査データベースを用いた児童虐待の予防・早期介入システムの開発」, 201511-201903.
- 3) 新井清美:首都大学東京 傾斜的研究費(部局分・若手奨励経費)「大学生アスリートのアディクション問題に関する研究―実態の把握と本人の重症化・周囲への連鎖を防止するための予防教育の検討―」, 201606-201703.
- 4) 飯塚哲子:首都大学東京 傾斜的研究費(部局分)「急性期医療場面を学ぶ多分野医療学生用の演劇ワークショップ型学習支援プログラム構築」, 201606-201703.

社会貢献活動

- 1) 新井清美:EPA 看護師候補者学習会講師 201309-201609.
- 2) 新井清美:東京都中小企業振興公社と共同開発 2015-.
- 3) 新井清美:平成 28 年度神奈川県子どもの貧困実態調査 201604
- 4) 新井清美:第 63 回日本病跡学会総会の執行委員 201606.
- 5) 新井清美:日本アルコール関連問題学会査読者 201609
- 6) 新井清美:第 36 回日本看護学会学術集会実行委員 201612.
- 7) 新井清美:アスリートとアディクション. 平成 28 年度日本トップリーグ連携機構 若手研修会?, 20170114.
- 8) 新井清美:ギャンブル依存症とは. 長野県精神保健福祉センター ギャンブル依存症家族講座, 20170119.
- 9) 新井清美:薬物依存症の家族調査からの報告. 第 1 回アルコール・薬物家族支援フォーラム in 東京〜支え合う家族の力〜, 20170219.
- 10) 新井清美:アディクションと支援. 埼玉県中央児童相談所研修会, 20170317.
- 11) 新井清美:行動上のアディクションの理解と対応. 第 2 回依存症支援者向け研修会, 20170318.

受賞

- 1) 新井清美:日本アルコール関連問題学会 第 5 回小杉好弘記念賞「アルコール依存症・薬物依存症家族の支援に関する全国調査〜その 2〜 ―支援につながった薬物依存症家族の背景とニーズ―」, 201609.
- 2) 新井清美:アスリートアディクション対策プロジェクト委員

Misc

- 1) 森田牧子, 川添美花, 廣川聖子, 渡辺多恵子, 習田明裕:在宅精神障害者の不適切な介護状態や虐待を認識した訪問看護師の困難感の分析. 日本看護科学学会学術集会講演集, 36th:491-491, 201611.

講演・口頭発表等

- 11) 川添美花, 山村礎, 中川知佳, 原優子, 丸山拓亮, 横山友希乃, 小野智子, 加藤千恵子, 小林恭子, 太田みどり, 中野隆史:大学生の保健センター利用状況と学業転帰に関する検討. 第54回全国大学保健管理研究集会, 2016.10.
- 2) 三輪聖恵, 川添美花:わが国における看護技術としての「搞便」に関する文献検討. 第26回日本保健科学学会学術集会, 2016.10.

競争的資金等の研究課題

- 1) 川添美花:文部科学省 研究活動スタート支援「大学生の保健センター利用動態及び援助要請行動に関する研究」, 2015-2016.

社会貢献活動

- 1) 東京都荒川区 自殺予防事業 201604-201703.

講演・口頭発表等

- 1) 佐藤香:より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究. 日本助産師会 平成27年度子ども・子育て支援推進調査研究事業, 201604.
- 2) 佐藤香:日本の文献から見た産後ケア., 20161008.

委員暦

- 1) 日本助産師会 子ども・子育て支援推進調査研究事業(201604-201703)
- 2) 公益社団法人 全国助産師教育協議会 選挙管理委員会(20161-201703)

講演・口頭発表等

- 1) 吉田和樹, 新井清美, 前田耕助, 高嶋希世子: 東日本大震災における福島県被災地域内の地域包括支援センターの災害支援の実態～保健師活動に着目して～. 日本看護科学学会学術集会, 201611.

競争的資金等の研究課題

- 1) 高嶋希世子: 日本学術振興会・文部科学省 科学研究費助成事業「終末期にある思春期小児がん患者の意思決定を支える看護の構造とプロセスの解明」, 201604-201903.

論文

- 1) 前田耕助, 大黒理恵, 大河原知嘉子, 樺島稔, 齋藤やよい: 電法による背部への温度刺激が脳血流動態に及ぼす影響. 日本看護技術学会誌, 15(3):245-254, 201701.

講演・口頭発表等

- 1) 前田耕助, 習田明裕, 高橋久美子: 足部への異なる温度による温熱・寒冷刺激が左前頭部の脳血流動態に及ぼす影響. 日本保健科学学会, 20161008.
- 2) 前田耕助, 野村亜由美, 三輪聖恵, 習田明裕: 自作動画を用いた振り返り学習法の検討. 日本保健科学学会, 20161008.
- 3) 吉田和樹, 新井清美, 前田耕助, 高嶋希世子: 東日本大震災における福島県被災地域内の地域包括支援センターの災害支援の実態 保健師活動に着目して. 日本看護科学学会, 20161210.

競争的資金等の研究課題

- 1) 前田耕助: 文部科学省 若手研究 B「脳血流動態を効果指標とした温度を活用した看護援助の開発」, 201604-202003.
- 2) 前田耕助: 公立大学法人首都大学東京 平成 28 年度傾斜的研究費(部局・競争的経費)「看護援助技術の実践能力の向上を目指した自作動画の作成と振り返り学習法の効果」, 201604-201703.

講演・口頭発表等

- 1) 前田耕助, 野村亜由美, 三輪聖恵, 習田明裕: 自作動画を用いた振り返り学習法の検討 ウェブサイト視聴による試み. 第26回日本保健科学学会, 2016.
- 2) 三輪聖恵: わが国における看護技術としての「摘便」に関する. 第26回日本保健科学学会, 2016.

社会貢献活動

- 1) 三輪聖恵: 広域多摩イノベーションプラットフォーム事業(2015-) がん・感染症センター 東京都立駒込病院 看護管理者研修講師 2017.

理 学 療 法 学 科

論文

- 4) 松田雅弘, 稲葉彰, 万治淳史, 網本 和, 和田義明, 平島富美子: パーキンソン病患者に対する理学療法と tDCS(経頭蓋直流刺激)を併用したときの動作緩慢と歩行へ及ぼす効果の検討: 理学療法学 43 巻 2 号 184-5(2016.04)
- 5) Fujino Y, Amimoto K, Sugimoto S, Fukata K, Inoue M, Takahashi H, Makita S; Prone positioning reduces severe pushing behavior: three case studies: Journal of Physical Therapy Science 28 巻 9 号 Page 2690-2693(2016.09)

著書

- 2) 脳卒中理学療法の理論と技術・改定第二版:「高次脳機能検査」p232-254, メジカルビュー2016 年 6 月
- 3) 図解 運動療法ガイド:「高次脳機能-Pusher」p 508-517, 文光堂、201703
- 4) 理学療法評価学テキスト:「高次脳機能・精神知能検査」p 139-148, 南江堂、201703

Misc

- 8) 網本 和: 理学療法関連用語 正しい意味がわかりますか? Trail Making Test: 理学療法ジャーナル 50 巻 11 号 Page 1029(2016.11)
- 9) 藤野雄次, 網本 和: 高次脳機能障害に対する認知リハビリテーションの技術 腹臥位によって座位バランスの改善をみた pusher 現象を伴う重度左片麻痺の 1 例: The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 53 巻 5 号 401-404(2016.05)

講演・口頭発表等

- 12) Fukata K, Amimoto K, et al; The Relationship Between Subjective Postural Vertical and Trunk Impairment Scale (TIS) in Patients with Acute Stroke. 25th European Stroke Conference, P008, 2016,4.
- 13) Kunieda Y, Amimoto K, et al; Early Mobilization prevents pneumonia complication in acute stroke patients. P010, 25th European Stroke Conference, P008, 2016,4.
- 14) Inoue M, Amimoto K, et al; Analyses of the subjective postural vertical in frontal and sagittal planes with respect to the sitting pressure distribution in early after stroke patients. P158, 25th European Stroke Conference, P008, 2016,4.
- 15) Watanabe S, Amimoto K; Perception of biological motion and acquisition of motor skill in patients with unilateral spatial neglect. P224, 25th European Stroke Conference, P008, 2016,4.
- 16) Numao T, Amimoto K, et al; Effects of a Head Mounted Display Adaptation on Reaching Behaviour: Implications for a Therapeutic Approach in Unilateral Neglect. 18th International Conference on Cognitive Neuroscience and Neuropsychology, P62, London United Kingdom Sep 29-30, 2016, 18 (9) Part XIII
- 17) Fujino Y, Amimoto K, et al; Relationship between Pushing Behavior and Subcortical White Matter Lesion in the Acute Phase after Stroke. 18th International Conference on Cognitive Neuroscience and Neuropsychology, P96, London United Kingdom

- 18) Nakamura M, Amimoto K, et al; Relationship Between Vertical Perception And Activities Of Daily Living In Patients With Neglect And Pusher Behaviour, ACPT congress 2016, Kuala Lumpur, Oct.7-8, Malaysia
- 19) 脳血管障害患者における映像傾斜と体外離脱体験が垂直認知能力に及ぼす影響
中村 学, 網本 和, 遠藤敦士 理学療法学 Supplement Vol. 2015 (2016)
- 20) 急性期脳血管障害患者における摂食嚥下機能に関与する因子の検討
藤野雄次, 網本 和, 深田和浩, 高橋洋介, 間野政行, 森下元賀, 牧田茂, 高橋秀寿 理学療法学 Supplement Vol. 2015 (2016)
- 21) Pusher 現象に対する両下肢固定による立位での能動的課題の介入効果～シングルケースデザインを用いた検討～ 井上真秀, 藤野雄次, 杉本 諭, 網本 和, 深田和浩, 三浦孝平, 直井亜莉菜, 高石真二郎, 牧田 茂, 高橋秀寿 理学療法学 Supplement Vol. 2015 (2016)
- 22) 脳血管障害患者における矢状面での主観的身体垂直の相違についての検討
高橋洋介, 深田和浩, 角屋亜紀, 藤野雄次, 播本真美子, 井上真秀, 蓮田有莉, 三浦孝平, 高石真二郎, 牧田茂, 高橋秀寿, 網本 和 理学療法学 Supplement Vol. 2015 (2016)
- 23) 発症早期の脳血管障害患者における主観的垂直認知の特徴
深田和浩, 網本 和, 藤野雄次, 井上真秀, 播本真美子, 蓮田有莉, 高橋洋介, 角屋亜紀, 三浦孝平, 牧田茂, 高橋秀寿 理学療法学 Supplement Vol. 2015 (2016)
- 24) 脳卒中片麻痺患者の片側坐骨支持能力の特性
澤広太, 萩野俊太郎, 石井健史, 川口俊太郎, 小林武司, 遠藤大, 中村学, 網本 和, 伊藤貴史 理学療法学 Supplement Vol. 2015 (2016)
- 25) 補足運動野に対する経頭蓋直流電気刺激と免荷トレッドミル歩行練習の組み合わせが脳卒中後片麻痺患者の歩行能力に与える効果 万治淳史, 吉満倫光, 湯澤元樹, 諸持修, 松田雅弘, 稲葉彰, 和田義明, 網本 和 理学療法学 Supplement Vol. 2015 (2016)
- 26) パーキンソン病患者に対する tDCS(経頭蓋直流刺激)が歩行へ及ぼす即時的効果の検討
松田雅弘, 稲葉彰, 万治淳史, 網本 和, 和田義明, 平島富美子 理学療法学 Supplement Vol. 2015 (2016)
- 27) 森梨沙, 網本 和; 健常者に対する側方傾斜面上での座位練習が身体垂直認知に与える影響: JARM2016 1375(2016.06)4
- 28) 廣澤全紀, 網本 和, 新藤恵一郎, 堀田 富士子, 砂田瑞季, 高城翔太, 松島栞, 佐藤義尚, 尾森優太; 直流前庭電気刺激の刺激極性と時間経過が主観的身体垂直に及ぼす影響
JARM2016 1353(2016.06)
- 29) 播本真美子, 藤野雄次, 深田和浩, 網本 和, 高石真二郎, 牧田茂, 高橋秀寿; Lateropulsion 様症状を呈した患者における姿勢の違いが垂直知覚に及ぼす影響 症例報告: JARM2016 1170(2016.06)
- 30) 河合はるか, 網本 和; バーチャルリアリティーによる視覚変容下でのアダプテーションが上肢リーチ課題に及ぼす影響について: JARM2016 1146(2016.06)
- 31) 頭部および下腿の固定が主観的身体垂直認知(SPV)に及ぼす影響: JARM2016 1145(2016.06)
万治淳史, 寒河江由美, 松田雅弘, 網本 和; 脳卒中後運動性失語患者に対する経頭蓋直流電気刺激の効果: JARM2016 1138(2016.06)
- 32) 藤野雄次, 網本 和, 西元淳司, 高橋秀寿, 牧田茂; 大腿切断患者の幻肢痛に対するミラーセラピーと

経皮的電気刺激の効果 シングルケーススタディ: JARM2016 1113(2016.06)

- 33) 網本 和: 下肢麻痺の基本と訓練の実際 片麻痺症例の体幹下肢機能への理学療法: JARM2016 S273(2016.06)

競争的資金等の研究課題

- 12) 首都大学東京傾斜的研究費(部局競争的)2016-.
- 13) 科研費 挑戦的萌芽 2016-2018.

論文

- 1) 朝倉智之, 浅川康吉, 高橋麻衣子, 李範爽, 中澤理恵, 勝山しおり, 山路雄彦, 今井忠則, 外里富佐江, 臼田滋: 理学療法学専攻・作業療法学専攻学生に対する卒業生による研修会がキャリア意識に与える影響. 理学療法群馬, (27):10-15, 201608.
- 2) 岡前暁生, 原田和宏, 岡田誠, 松和弘, 村岸亜伊子, 和田智弘, 和田陽介, 浅川康吉, 道免和久: ショートステイ利用前後における要介護者の ADL と介護者の介護負担の変化. 理学療法学, 43(4):323-332, 201608.
- 3) 亀井実, 浅川康吉: 介護職員の作業関連性腰痛が介護動作に及ぼす影響. 理学療法科学, 31(5): 667-671, 201610.
- 4) Maruya K, Asakawa Y, Ishibashi H, Fujita H, Arai T, Yamaguchi H: Effect of a simple and adherent home exercise program on the physical function of community dwelling adults sixty years of age and older with pre-sarcopenia or sarcopenia. Journal of physical therapy science, 28(11):3183-3188, 201611.
- 5) 岡前暁生, 原田和宏, 岡田誠, 和田智弘, 内山侑紀, 和田陽介, 浅川康吉, 道免和久: ショートステイ利用前後の要介護者の神経精神症状の変化および神経精神症状の 2 日間評価の信頼性・妥当性の検証. 理学療法学, 44(1):19-27, 201702.
- 6) 正源寺美穂, 加藤真由美, 北岡和代, 浅川康吉, 植村小夜子, 小林素子, 甲斐正義, 石田和生, 稲垣嘉信: 独居高齢者の生活行動センシング指標の開発にむけた縦断的検討による心身機能および生活行動スピードの推移(Longitudinal study examined to physiological and psychological transition for the development of sensing indicators of daily livings among solitude elderly persons). 金沢大学つるま保健学会誌, 40(2):95-99, 201702.

著書

- 1) 浅川康吉 (編集 田中康之、清水順市): 地域包括ケアシステムにおける PT・OT の役割. 実践事例 17 介護予防事業に関する住民主体の介護予防への取り組み:, 文光堂, 201606.
- 2) 浅川康吉 (編集 牧田光代、金谷さとみ): 標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学(第 4 版), VI 章 QOL の増大に向けて 第 5 節 自主グループ活動への支援:, 医学書院, 201702.
- 3) 浅川康吉 (総編集 島田裕之、編集 牧迫飛雄馬、山田実): 高齢者理学療法学. 第 2 章 時期(場所)による理学療法の特徴 第 5 節 予防期 :, 医歯薬出版株式会社, 201703.
- 4) 浅川康吉 (編集 潮見泰蔵): 脳卒中に対する標準的理学療法介入(第 2 版). 実践編 第 16 節 廃用症候群の予防:, 文光堂, 201704.

講演・口頭発表等

- 1) 正源寺美穂, 加藤真由美, 北岡和代, 浅川康吉, 植村小夜子, 小林素子, 甲斐正義, 石田和生, 稲垣嘉信: 独居高齢者の転倒リスクを捉えるセンシングモデルの開発 排泄行動からの検討. 日本老年看護学会学

術集会抄録集, 20160701.

- 2) 浅川康吉: 特別講演 地域包括ケア時代の健康づくり: 地域リハビリテーションの視点から進める健康寿命延伸へのアプローチ. 日本医療福祉学会、日本保健医療学会合同全国大会, 201608.
- 3) 浅川康吉: 転倒予防. 平成 28 年第 3 回呼吸療法セミナー, 群馬呼吸療法認定士会, 20161022.
- 4) 浅川康吉: 東京都介護予防推進広域アドバイザー業務(平成 27 年度)の紹介. 日本予防理学療法学会サテライト集会シンポジウム 各市町村(自治体)における取り組み事例, 20161113.
- 5) 浅川康吉, 加藤真由美, 正源寺美穂, 北岡和代, 植村小夜子, 小林素子, 甲斐正義, 石田和生, 稲垣嘉信: 人感センサを用いた居宅内歩行速度の計測. 第 4 回日本支援工学理学療法学会, 20161126.
- 6) 加藤真由美, 正源寺美穂, 植村小夜子, 浅川康吉, 北岡和代, 小林素子, 甲斐正義, 石田和生, 稲垣嘉信: 独居高齢者の在宅生活を支援するセンシングモデルの開発 センサ作動回数を指標とできるかの検討. 北陸公衆衛生学会誌, 201612.
- 7) 浅川康吉: 地域にひろげよう筋トレの輪! 住民主導型事業「鬼石モデル」の経験から. 千葉県介護予防の推進に資する専門職育成研修会, 20161204.
- 8) 藤井一弥, 藤井一弥, 小林将生, 佐藤みゆき, 浅川康吉: 歩行能力により分類した回復期リハビリテーション病棟入院患者の特徴について クラスター分析を用いた検討. 日本理学療法学会大会(Web), 2017.
- 9) 植村小夜子, 加藤真由美, 正源寺美穂, 北岡和代, 浅川康吉: 独居高齢者の在宅生活を支援するセンシングモデル開発 台所センサの反応回数からみた生活行動パターン. 日本看護研究学会近畿・北陸地方会 学術集会抄録集, 201703.

競争的資金等の研究課題

- 1) 浅川康吉: 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究C「超音波エコー画像による高齢障害者の高度萎縮筋の回復予測方法の開発」, 201404-201703.

社会貢献活動

- 1) 浅川康吉: 地域包括支援センターにおける介護予防機能強化推進事業(介護予防推進広域アドバイザー業務). 20160401-20170331.
- 2) 浅川康吉: 東京都地域リハビリテーション専門人材育成研修. 20160401-20170331.

委員歴

- 1) 日本地域理学療法学会 副代表幹事(201504-)

論文

- 1) 崎野祐吾, 白谷智子, 井手夏葵, 植田良, 新井光男:肩甲骨への抵抗運動による静止性収縮促通手技が脳卒中後片麻痺患者の足関節背屈自動関節可動域に及ぼす効果、PNF リサーチ. 17(1) 12-17. 201703
- 2) 榎本一枝, 白谷智子, 赤木聡子, 竹澤美穂, 田中敏之, 新井光男:肩関節運動障害に対する抵抗運動による静止性収縮の促通手技が自動関節可動域に及ぼす後効果. PNF リサーチ. 17(1) 6-11.201703
- 3) 田中敏之, 白谷智子, 榎本一枝, 宮原隆登, 新井光男:脳卒中後片麻痺患者に対する骨盤への中間域での静止性収縮手技が昇段能力に及ぼす影響. PNF リサーチ. 17(1) 1-5.201703
- 4) Shiratani T, Arai M, Kuruma H, Masumoto K :The effects of opposite-directional static contraction of the muscles of the right upper extremity on the ipsilateral right soleus H-reflex, ,J bodyw Mov Ther in press DOI: <http://dx.doi.org/10.1016.201608>
- 5) Arai M :The Effects of Different Force Directions and Resistance Levels during Unilateral Resistive Static Contraction of the Lower Trunk Muscles on the Ipsilateral Soleus H-reflex in the Side-lying Position. J Nov Physiother. 6(3) 100090.201606

原著

- 1) 易 勤, 佐藤巖, 三輪容子, Ke Ren, Yidan Dai, 木下正信, 永川裕一, 土田明彦。膵頭神経叢の分布形態の再検討。胆膵の病態生理 32(1):1-4, 2016
- 2) 永川 裕一, 易 勤, 細川勇一, 佐原八束, 瀧下智恵, 土田明彦。膵頭部癌手術に必要な外科解剖。消化器外科 39(7):1059-1070, 2016
- 3) 岸和田昌之, 易 勤, 伊佐地秀司。膵癌取扱い規約第7版の解説と主な変更点: 外科の立場から。膵臓 31(6):791-798, 2016
- 4) Ren K, Kinoshita M, Dai Y, Wang H, Yi K, Itoh M, Yi SQ. A new model for localized pancreatitis, ventral pancreatic duct ligation in the adult house musk shrew, *Suncus murinus*. Academia J Biotechnol 2016; 4(2): 055-061. DOI: 10.15413/qjb.2015.0242
- 5) Yi SQ, Ren K, Kinoshita M, Takano N, Itoh M, Ozaki N. Innervation of extrahepatic biliary tract, with special reference to the direct bidirectional neural connections of the gallbladder, sphincter of Oddi and duodenum in *Suncus murinus*, in whole-mount immunohistochemical study. Anat Histol Embryol 2016; 45(3): 184-188.: 10.1111/ahe.12186.

講演・口頭発表等

- 1) 易 勤, 佐藤巖, 三輪容子, Ke Ren, Yidan Dai, Kai Yi, 藤原基, 木下正信: 膵臓の形態形成とその血管系。第122回日本解剖学会総会・全国学術集会, 長崎大学坂本キャンパス(長崎), 20170328-20170330.
- 2) 易 勤, 島田和幸, 佐藤巖, 三輪容子, Ke Ren, Yidan Dai, Kai Yi, 藤原基, 木下正信: Mesopancreasの本体は? 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会, 長崎大学坂本キャンパス(長崎), 20170328-20170330.
- 3) 藤原基, 伊藤正明, Kai Yi, Ke Ren, Yidan Dai, 木下正信, 易 勤: 胎児ラットにおける上腕二頭筋腱と付着部の形態学的変化について。第122回日本解剖学会総会・全国学術集会 2017年3月28~30日 長崎大学坂本キャンパス(長崎)
- 4) Yidan Dai, Kazuyuki Shimada, Kai Yi, Ke Ren, Motoi Fujiwara, Masanobu Kinoshita, Shuang-Qin Yi: The distribution and ramification of the coronary artery in fetus pigs. 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会, 長崎大学坂本キャンパス(長崎), 20170328-20170330.
- 5) Ke Ren, 木田雅彦, Kai Yi, Yidan Dai, 藤原基, 木下正信, 易 勤: ブタの胸鎖乳突筋。第122回日本解剖学会総会・全国学術集会, 長崎大学坂本キャンパス(長崎), 20170328-20170330.

競争的資金等の研究課題

- 1) 首都大学東京人間健康科学研究科: 平成28年度傾斜的研究費(部局長裁量経費)。「スunksの腸内細菌叢の解析と抗肥満特性についての研究」

社会貢献活動

- 1) 易 勤:日本膵臓学会「膵癌取扱い規約委員会」委員

論文

- 1) 平尾利行, 竹井 仁, 佐久間孝志, 妹尾賢和, 近藤貴揚: 磁気共鳴画像法(MRI)を用いた閉鎖筋の筋活動分析. 理学療法科学, 31(2):297-302, 201604.
- 2) Takei J: A Maximum Muscle Strength Prediction Formula Using Theoretical Grade 3 Muscle Strength Value in Daniels et al.'s Manual Muscle Test. in Consideration of Age: An Investigation of Hip and Knee Joint Flexion and Extension. Rehabilitation Research and Practice, 2017: Article ID 3985283, 9-, 201701.
- 3) 勝又泰貴, 竹井仁, 林洋暁, 市川和奈: 超音波画像を用いた筋膜移動距離と筋硬度測定 of 検者内および検者間信頼性. 理学療法科学, 32(2):215-220, 201704.

著書

- 1) 竹井 仁: 自分でできる! 筋膜リリースパーフェクトガイド. 1, :, 自由国民社, 201606.
- 2) 竹井 仁: 肩こりの9割は自分で治せる. 1, (株)イーストプレス, 20160700.
- 3) 竹井 仁: 運動療法学総論第4版. 1, 関節可動域運動:, 医学書院, 201701.
- 4) 竹井 仁: 内部機能障害への筋膜マニピュレーション理論編. 4, :, 医歯薬出版株式会社, 201703.

Misc

- 1) 竹井 仁: 肩こりに対する私のアプローチ法「運動療法・理学療法の重要性」. Monthly Book Orthopaedics, 29(9):59-68, 201609.
- 2) 松村将司, 竹井 仁: 中高年バドミントン障害に対する評価と筋膜アプローチ. 徒手理学療法, 17(1):19-23, 201704.

講演・口頭発表等

- 1) 遠藤敦士, 今田康大, 見供翔, 竹井 仁: 健康成人男性における片脚立位時の骨盤への抵抗に対する中殿筋各線維の活動の筋電図を使用した比較. . 第51回日本理学療法学会大会, 20160528.
- 2) 今田康大, 遠藤敦士, 須永遼司, 池松幸二, 竹井 仁: 頸椎モビライゼーション手技が頭頸部屈曲運動時の胸鎖乳突筋筋活動に与える影響. . 第51回日本理学療法学会大会, 20160529.

社会貢献活動

- 1) 竹井 仁: 正しい筋膜リリースについて, テレビ朝日, 中居正広のミになる図書館 6, 20160416-.
- 2) 竹井 仁: 肩こりの筋膜リリース, フジテレビ, ノンストップ, 20160427-.
- 3) 竹井 仁: 密教聖地「高野山」の科学: 阿字観が肩こりに効果あり, 日本テレビ, 所さんの目がテン!, 20160501-.

- 4) 竹井 仁:最新・最強ダイエットSP:筋膜リリース, テレビ東京, 主治医が見つかる診療所, 20160509-.
- 5) 竹井 仁:名医に聞いた健康法～肩こり解消の筋膜リリース, TBS, 白熱ライブビビット, 20160517-.
- 6) 竹井 仁:スマートライフ すっきり!“首美人”, NHK 総合, あさイチ, 20160519-.
- 7) 竹井 仁:～お盆は心も身体も健康に！～お寺に学ぶ長寿の秘訣, TBS, 健康カプセル！ゲンキの時間, 20160814-.
- 8) 竹井 仁:表情筋の筋膜リリース, TOKYOMX, エクストリーム Beauty, 20160816-.

委員歴

- 1) 公益社団法人東京都理学療法士協会 副会長(201004-)
- 2) 日本徒手の理学療法学会 理事長(201503-)
- 3) 日本理学療法士協会徒手理学療法部門 代表幹事(201505-)
- 4) 日本理学療法協会運動器分科学会 副代表(201506-)

論文

- 1) Kusumoto Y, Takaki K, Matsuda T, Nitta O:Relation of selective voluntary motor control of the lower extremity and extensor strength of the knee joint in children with spastic diplegia.Journal of physical therapy science, 28(6):1868-1871, 201606.
- 2) Hirano Y, Hayashi T, Nitta O, Takahashi H, Nishio D, Minakawa T, Kigawa H:Prediction of Independent Walking Ability for Severely Hemiplegic Stroke Patients at Discharge from a Rehabilitation Hospital.Journal of stroke and cerebrovascular diseases : the official journal of National Stroke Association, 25(8):1878-1881, 201608.
- 3) 松田雅弘, 楠本泰士, 酒井弘美, 伊藤公一, 田上未来, 阿部紀之, 関 亮祐, 本藤伸男, 山崎友豊, 赤池優也, 二瓶篤史, 新田 収:マイクロビーズ製クッションが脳卒中片麻痺患者に及ぼす即時的効果. 理学療法科学, 31(4):495-499, 201608.
- 4) 三木啓嗣, 新田 収:健常者における目的姿勢の違いが寝返り動作パターンに及ぼす影響 三次元動作解析システムを用いた検討. 日本基礎理学療法学雑誌, 20(1):274-274, 201608.
- 5) 楠本泰士, 高木健志, 津久井洋平, 新田 収, 松田雅弘, 松尾篤:脳性麻痺児における粗大運動機能別の股関節筋解離術前後 5 年間の股関節脱臼の変化. 理学療法学, 43(4):293-299-299, 20160820.
- 6) 高木健志, 新田 収, 楠本泰士, 西野展正, 松尾沙弥香, 若林千聖, 津久井洋平, 干野遥:成人脳性麻痺アトニー型患者における疼痛の質と TENS の効果の関係. 理学療法学, 43(4):300-304-304, 20160820.
- 7) 廣島拓也, 新田 収:片側股関節屈曲制限と座位時の左右上前腸骨棘高低差の関係. 日本保健科学学会誌, 19(2):86-91-91, 20160925.
- 8) Kusumoto Y, Nitta O, Takaki K:Impact of loaded sit-to-stand exercises at different speeds on the physiological cost of walking in children with spastic diplegia: A single-blind randomized clinical trial. Research in developmental disabilities, 57():85-91, 201610.
- 9) 松田雅弘, 新田 収, 田上未来, 楠本泰士:千葉県内の子どもロコモティブシンドロームの現状把握と予防意識の調査. ちば県民保健予防財団調査研究ジャーナル, 5(2):111-119-119, 20161031.
- 10) 平野恵健, 新田 収, 林 健, 高橋秀寿, 宮崎泰広, 木川浩志:回復期リハビリテーション病棟における脳卒中重度片麻痺患者のための Prognostic Scale の開発. 脳循環代謝, 28(1):177-177, 201611.
- 11) 平野恵健, 新田 収, 林 健, 高橋秀寿, 宮崎泰広, 木川浩志:回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中重度片麻痺患者の身体特性の類型化とその予後. 脳循環代謝, 28(1):228-228, 201611.
- 12) 新田 収:「発達障害(ASD,ADHD)における粗大運動の特徴」. 理学療法科学, 31(特別号 7):3-3, 20161105.
- 13) 内尾優, 楠田聡, 内山温, 新田 収:極低出生体重児の自発運動の特徴. 日本新生児成育医学会雑誌, 28(3):703-703, 20161115.
- 14) Kusumoto Y, Hanao M, Takaki K, Matsuda T, Nitta O:Reliability and validity of the Japanese version of the selective control assessment of the lower extremity tool among patients with spastic cerebral palsy. Journal of physical therapy science, 28(12):3316-3319, 201612.
- 15) 長谷川三希子, 新田 収, 猪飼哲夫:福山型先天性筋ジストロフィーにおける Gross Motor Function Measure

の信頼性と妥当性. 理学療法学, 43(6):439-444-444, 20161220.

- 16) 松田雅弘, 田上未来, 楠本泰士, 新田 収:子どもロコモティブシンドロームの現状把握と疼痛・転倒の関連性の調査. 体力科学, 66(1):123-123, 201702.
- 17) Yoshitake Hirano, Osamu Nitta, Takeshi Hayashi, Hidetoshi Takahashi, Yasuhiro Miyazaki and Hiroshi Kigawa:Prognosis and Classification of Severely Hemiplegic Stroke Patients in a Rehabilitation Hospital , Int J Phys Med Rehabil 2017, 5:2,doi:10.4172/2329-9096.1000397.
- 18) 松田雅弘, 田上未来, 窪谷珠江, 新田 収, 楠本泰士:緊急避難用の介助紐の開発について. 植草学園大学研究紀要, 9():135-143-143, 20170331.
- 19) 松田雅弘, 田上未来, 楠本泰士, 滝田結奈, 新田 収:端座位体幹回旋運動角度に対する骨盤肢位と上肢肢位の影響. 理学療法科学, 32(2):255-259(J-STAGE)-259, 201704.
- 20) Hirano Y, Nitta O, Hayashi T, Takahashi H, Miyazaki Y, Kigawa H:Development of a prognostic scale for severely hemiplegic stroke patients in a rehabilitation hospital. Clinical neurology and neurosurgery, 158():108-113, 201707.
- 21) Matsuda T, Koyama T, Kurihara Y, Tagami M, Kusumoto Y, Nitta O:A newly developed floor chair placed on an office chair reduces lumbar muscle fatigue by cyclically changing its lumbar supporting shape. Journal of physical therapy science, 29(9):1649-1652, 201709.

講演・口頭発表等

- 1) 楠本泰士, 新田 収, 松田雅弘, 高木健志:脳性麻痺直型両麻痺児における速度の異なる低負荷立ち上がり運動が歩行時エネルギー効率に及ぼす影響-Single blind randomized crinical trial-. 第 51 回日本理学療法学術大会, 201605.
- 2) 新田 収:発達障害の基本的な理解と理学療法士の役割. 第 51 回日本理学療法学術大会, 20160507.
- 3) 櫻井瑞紀, 渡邊彩美, 松田雅弘, 新田 収:非特異的腰痛者におけるサイドブリッジ持久力テスト時の体幹筋疲労分析. 第 51 回日本理学療法学術大会, 20160507.
- 4) 松田雅弘, 楠本泰士, 酒井弘美, 伊藤公一, 田上未来, 阿部紀之, 関亮祐, 本藤伸男, 山崎友豊, 赤池優也, 二瓶篤史, 万治淳史:マイクロビーズ製クッション(GAI)が脳卒中後片麻痺患者に及ぼす即時効果について. 第 51 回日本理学療法学術大会, 20160507.
- 5) 三木啓嗣, 新田 収:健常者における目的姿勢の違いが寝返り動作パターンに及ぼす影響～三次元動作解析システムを用いた検討～., 20160527.
- 6) Yasaaki Kusumoto,,Atsushi Matsuo,Kenji Takaki Yohei ,Tsukui,Osamu Nitta,Tadamitsu Matsuda,Naoyuki Nakamura:The three years change of the hip dislocation in the children with severe cerebral palsy after selective hip joint muscle release surgery. International Conference on Cerebral Palsy and other Childhood-onset Disabilities, 201606.
- 7) 古川順光, 信太奈美, 来間弘展, 新田 収:呼吸筋トレーニングと静止立位時身体重心動揺の関係. 第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 201606.
- 8) 新田 収, 松田雅弘:発達支援通所事業利用児における6ヵ月間の協調運動の変化 定型発達5歳児と比較検討. 第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 201606.
- 9) 廣島拓哉, 新田 収:骨盤側方傾斜に対する座面補?が座圧減少率に与える影響の検討. 第 51 回日本理学療法学術大会, 20160605.
- 10) 松田雅弘, 田上未来, 新田 収:脳性麻痺両麻痺児に対する HAL を用いた長期間の立位・歩行練習の検証

1 症例の検討. 第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 20160609.

- 11) 古川順光, 神尾博代, 信太奈美, 中俣修, 来間弘展, 新田 收:姿勢変化による吸気筋力発生の違いについて. 第 71 回日本体力医学会大会, 201609.
- 12) 新田 收, 松田雅弘, 古川順光: 幼児における運動発達と感覚異常の関係. 第 71 回日本体力医学会, 201609.
- 13) 櫻井瑞紀, 櫻井瑞紀, 新田 收, 松田雅弘, 妹尾淳史: サイドブリッジ持久カテストにおける T2 値を用いた体幹筋疲労解析. 日本保健科学学会誌, 20160926.
- 14) 平野恵健, 平野恵健, 新田 收, 林健, 高橋秀寿, 宮崎泰広, 木川浩志: 回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中重度片麻痺患者の身体機能尺度の開発. 日本保健科学学会誌, 20160926.
- 15) 内尾優, 三木啓嗣, 藤本泰成, 新田 收: 乳児自発運動評価を目的とした Kinect の妥当性検証. 日本保健科学学会誌, 20160926.
- 16) 中里彩祥子, 楠本泰士, 花尾麻美, 竹田智之, 後藤颯人, 千葉康平, 櫻井大輔, 細田梨恵, 新田 收: 青年期発達障害児における上肢の協調性とボールを使用した運動の関係. 日本保健科学学会誌, 20160926.
- 17) 千葉康平, 楠本泰士, 花尾麻美, 竹田智之, 後藤颯人, 中里彩祥子, 櫻井大輔, 細田梨恵, 新田 收: 青年期発達障害児における協調性と Box and Block Test の関係. 日本保健科学学会誌, 20160926.
- 18) 後藤颯人, 楠本泰士, 花尾麻美, 竹田智之, 千葉康平, 中里彩祥子, 櫻井大輔, 細田梨恵, 新田 收: 青年期発達障害児における立位平衡機能と筋肉量の関係. 日本保健科学学会誌, 20160926.
- 19) 櫻井瑞紀, 新田 收, 松田雅弘, 妹尾淳史: サイドブリッジ持久カテストにおける T2 値を用いた体幹筋疲労解析. 第 26 回日本保健科学学会学術集会, 20161008.
- 20) 内尾優, 三木啓嗣, 藤本泰成, 新田 收: 乳児自発運動評価を目的とした Kinect の妥当性検証. 第 26 回日本保健科学学会学術集会, 20161008.
- 21) Koyama T, Matsuda T, Nakamaru K, Aizawa J, Nitta O: EFFECT OF OFFICE CHAIR WITH ACTIVE BACK REST ON LUMBO-PELVIC POSITION AND BACK MUSCLE FATIGUE. 9th Interdisciplinary World Congress on Lower Back and Pelvic Girdle Pain, 201611.
- 22) Matsuda T, Koyama T, Tagami M, Nitta O: Impact of an office chair with an active backrest shape-changing function of on fatigue reduction in lumbar muscles. 9th Interdisciplinary World Congress on Lower Back and Pelvic Girdle Pain, 201611.
- 23) 平野恵健, 新田 收, 林 健, 高橋秀寿, 宮崎泰広, 木川浩志: 回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中重度片麻痺患者の身体特性の類型化とその予後. 第 59 回脳循環代謝学会, 20161111.
- 24) 平野恵健, 新田 收, 林 健, 高橋秀寿, 宮崎泰広, 木川浩志: 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中重度片麻痺患者のための Prognostic Scale の開発. 第 59 回脳循環代謝学会, 20161111.
- 25) 平野恵健, 高橋秀寿, 本田哲三, 新田 收, 畑一成, 林健, 山内早紀, 丸野希和子, 野口夏紀, 西尾大祐, 大森信行, 北沢俊二, 柳澤光宏, 木崎秀臣, 内藤守, 木川浩志: 脳卒中重度片麻痺患者のための四脚ノルディックボールの開発. 第 4 回日本支援工理学療法学会学術集会, 20161126.
- 26) 内尾優, 楠田聡, 内山温, 新田 收: 極低出生体重児の自発運動の特徴. 第 61 回日本新生児成育医学会・学術集会, 20161201.
- 27) 松田雅弘, 田上未来, 楠本泰士, 新田 收: 子どもロコモティブシンドロームの現状把握と疼痛・転倒の関連性の調査. 第 68 回日本体力医学会関東地方会, 20161203.
- 28) 松尾達彦, 新田 收, 信太奈美, 古川順光: 脊髄損傷患者における車椅子スポーツ時の心拍数変化—頸髄損傷と胸腰髄損傷の比較—. 日本理学療法学術大会(Web), 20170512.

- 29) 大塚匠, 新田 收, 信太奈美, 古川順光: 脊髄損傷者における, 車いすスポーツ活動現場での体表温度変化
頸髄レベル・胸髄レベルの比較. 日本理学療法学会(Web), 20170512.
- 30) 松田雅弘, 松田雅弘, 大山隆人, 石井真夢, 宮島恵樹, 田上未来, 新田 收: 子どもの検診事業の取り組みから子どものロコモ予防についての一考察 平成 28 年度千葉県理学療法士会スポーツ健康増進支援部の取り組み. 日本理学療法学会(Web), 20170512.

論文

- 1) 万行里佳, 山田拓実, 新井武志、有田真己:介護予防事業参加者を対象とした運動機能評価と基本チェックリストとの関連について. 日本保健科学学会誌, 19(4):195-203, 201703.
- 2) 池田登顕, 山田拓実:地域在住のフレイルおよび軽度要介護度認定高齢者における社会参加指標原案の開発. 日本老年医学会雑誌, 54(2):154-164, 201704.

Misc

- 1) 佐藤義尚, 山田拓実, 大見武弘, 島村亮太:高齢者と若年者の歩行開始動作における股関節・距腿関節・足部・足趾の関節パワーの検討. 第 51 回日本理学療法士学会, 201605.
- 2) Yamada T:Effect of surface interference current in pelvic floor muscle training for stress urinary incontinence in women: a pilot study. 13th Asian Confederation for Physical Therapy 2016 Congress 201610.
- 3) Yamada T:Development of Scale of Social Participation for Community-Dwelling Frail Older Adults -A Preliminary Survey-. 13th Asian Confederation for Physical Therapy Congress 2016, 201610.
- 4) Yamada T:Effect of 1-year participation of health enhancing exercise program for physically handicapped persons and frail elderly. 13th Asian onfederation of Physical Therapy 2016 Congress, 201610.
- 5) Yamada T:Relative and absolute reliability of ultrasonographic measurement of the thickness of soft tissue around the glenohumeral joint. 13th Asian Confederation of Physical Therapy 2016 Congress, 201610.
- 6) Yamada T:Comparison of Foot Kinetics in the Frontal Plane during Gait Initiation between Young and Elderly Subjects. 13th Asian Confederation of Physical Therapy 2016 Congress, 201610.
- 7) Yamada T:Hip Joint Reaction Force in the Single Leg Standing and Kneeling Postures. 13th Asian onfederation of Physical Therapy 2016 Congress, 201610.
- 8) Yamada T:Simulation of the effect of decreasing lateral component of floorground reaction force during walking on mechanical stress of knee joint. 13th Asian Confederation of Physical Therapy 2016 Congress, 201610.
- 9) 万行里佳, 山田拓実:女性二次予防事業対象者における 5m 通常歩行時間と基本チェックリストとの関連. 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 201610.
- 10) 山田拓実, 蘭牟田洋美:荒川ばん座位体操の参加による身体機能, 健康関連 QOL に対する 1 年および 2 年効果. 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 201610.
- 11) Yamada T:Effect of 1-year and 2-year participation in a health-enhancing exercise program for physically handicapped persons and the frail elderly. 14th International Congress of Behavioral Medicine, 201612.
- 12) Yamada T:Factors Influencing Changes in Frail Elderly Females' Motor Function Levels after Exercise. 14th International Congress of Behavioral Medicine, 201612.
- 13) 大見武弘, 山田拓実, 美崎定也, 島村亮太, 諸澄孝宜, 佐藤義尚, 信太奈美, 杉本和隆:ローテーティング型人工膝関節一患者の歩行解析. 第 47 回日本人工関節学会, 201702.

競争的資金等の研究課題

- 1) 山田拓実: 日本学術振興会 科研費「膝関節軟骨力学的ストレスとMRI・T2 マッピング早期軟骨変性度の関連性の検討」, 201504-201803.

Misc

- 1) 池田由美:コラム「運動学習」についてわかりやすく教えてください。「運動学習」と「身体で覚える」ことは同じですか?理学療法 NAVI. ここで差がつく“背景疾患別”理学療法 Q&A. 高橋哲也編. P180, 医学書院, 201609.

講演・口頭発表等

- 1) 諸澄孝宜, 池田由美, 田中友也, 山本尚史, 他:人工膝関節置換術術後早期に歩行機能が術前よりも改善する症例の身体的・精神的機能の特徴と自主的病棟歩行練習の実施頻度. . 第 51 回日本理学療法学会大会, 201605.
- 2) 森川健史, 池田由美:段階的に増加する外乱がその後の運動適応に与える影響. 第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 201606.
- 3) 諸澄孝宜, 池田由美, 田中友也, 山本尚史, 他:人工膝関節置換術術後早期の自己効力感に影響する精神的要因と病棟自主トレーニング実施状況について. . 第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 201606.
- 4) 後藤圭介, 齋藤翠, 池田由美, 猪飼哲夫:被殻出血により Pushing 症状を呈した一症例 急性期における身体正中軸の情報構築へのアプローチ. 日本認知神経リハビリテーション学会学術集会, 201607.
- 5) 星川希洋, 池田由美:結果の知識と自己評価が協応運動課題学習に及ぼす影響. 第 35 回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 201610.
- 6) 川住美喜, 池田由美:ビデオ映像を手掛かりとした運動学習における思考過程の違いが動作獲得までの所要時間に及ぼす影響. 第 35 回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 201610.
- 7) 酒井克也, 山中誠一郎, 野口隆太郎, 池田由美:振動刺激とミラーセラピーの併用により麻痺側上肢機能の改善を試みた一症例. 第 14 回日本神経理学療法学術集会, 201611.

社会貢献活動

- 1) 池田由美:いきいき脳トレ教室～頭も身体もリフレッシュ. 10, 20161025-20170322.

論文

- 1) Usa H, Matsumura M, Ichikawa K, Takei H: A Maximum Muscle Strength Prediction Formula Using Theoretical Grade 3 Muscle Strength Value in Daniels et al.'s Manual Muscle Test, in Consideration of Age: An Investigation of Hip and Knee Joint Flexion and Extension. Rehabilitation research and practice, 2017:3985283-, 2017.

著書

- 1) Luigi Stecco, Carla Stecco: 内部機能障害への筋膜マニピュレーション 理論編. 4, 医歯薬出版, 201702.

講演・口頭発表等

- 1) Usa H: Intraoperator reliability of MRI-based area measurement of intervertebral foramina in the cervical spine.. IFOMPT CONFERENCE 2016, 201607.
- 2) 宇佐英幸: 「Kaltenborn-Evjenth OMT における腰椎の評価と治療」. ソウル市理学療法学会大会, 20160904.

社会貢献活動

- 1) 宇佐英幸: 上肢・下肢の触診機能解剖. 10, 20160716-20160718.
- 2) 宇佐英幸: 姿勢の評価と治療 - Stability & Mobility -. 10, 20160923-20160925.
- 3) 宇佐英幸: Muscle Pain Relief (体幹編). 10, 20161022-20161023.

論文

- 1) 新井光男、白谷智子、来間弘展: The Effects of Different Force Directions and Resistance Levels during Unilateral Resistive Static Contraction of the Lower Trunk Muscles on the Ipsilateral Soleus H-reflex in the Side-lying Position. Journal of Novel Physiotherapies, 201611.

Misc

- 2) 富岡美恵, 来間弘展, 尾池純太, 三浦祐介: マイクロカレント治療とストレッチングが遅発性筋痛に及ぼす影響. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, (JARM2016):1353-1353, 201606.
- 3) 古川順光, 信太奈美, 来間弘展, 新田収: 呼吸筋トレーニングと静止立位時身体重心動揺の関係. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, (JARM2016):1353-1353, 201606.
- 4) Yusuke Miura, Kuruma Hironobu, Junta Oike, Mie Tomioka, Misaki Kashiwagi: EFFECTS OF MASSAGE BEFORE STRETCHING ON MUSCLE HARDNESS AND RANGE OF MOTION. IFOMPT2016, 201607.
- 5) 山内智之, 来間弘展, 雨宮耕平, 小川真広: Shear Wave Elastography を用いた Quad setting における筋硬度測定 of 検者内信頼性の検討. 日本保健科学学会誌, 19:17-17, 201609.
- 6) 来間弘展: 肩関節不安定症の EBPT. 徒手の理学療法, 16(2):91-95, 201610.

社会貢献活動

- 1) 来間弘展: スペシャリストを訪ねて: 山内正雄先生へのインタビュー. 8, 201704.
- 2) 日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ)スケート競技

講演・口頭発表等

- 1) 村主梓, 小野塚梨奈, 塚畑美里, 古川順光: 静的ストレッチングが6分間歩行試験前後の循環応答に与える影響. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, (JARM2016):I346-I346, 201606.
- 2) 古川順光, 信太奈美, 来間弘展, 新田収: 呼吸筋トレーニングと静止立位時身体重心動揺の関係. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, (JARM2016):I353-I353, 201606.
- 3) 山形李歩, 依田万波, 辻夕貴, 古川順光: 腹式呼吸を意識した歌唱練習が呼吸機能に与える影響. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, (JARM2016):I355-I355, 201606.
- 4) 神尾博代, 古川順光, 信太奈美, 竹井仁, 新田収: 健康成人における骨盤底筋群の随意収縮と脊柱の可動性についての検討. 日本体力医学会大会, 71th:P-1-128, 201609
- 5) 古川順光, 神尾博代, 信太奈美, 中俣修, 来間弘展, 新田収: 姿勢変化による吸気筋力発生の違いについて. 日本体力医学会大会, 71th:P-1-141, 201609

委員暦

- 1) 公益社団法人東京都理学療法士協会 新人教育部長(201004-)

講演・口頭発表等

- 1) 古川順光, 神尾博代, 信太奈美, 中俣修, 来間弘展, 新田収: 姿勢変化による吸気筋力発生の違いについて. 第 71 回日本体力医学会大会, 201609.
- 2) 神尾博代, 古川順光, 信太奈美, 竹井仁, 新田収: 健常成人における骨盤底筋群の随意収縮と脊柱の可動性についての検討. . 第 71 回日本体力医学会大会, 201609.

講演・口頭発表等

- 1) 神尾博代, 古川順光, 信太奈美, 竹井仁, 新田収: 健康成人における骨盤底筋群の随意収縮と脊柱の可動性についての検討. 第71回日本体力医学会大会, 201609.
- 2) 古川順光, 神尾博代, 信太奈美, 中俣修, 来間弘展, 新田収: 姿勢変化による吸気筋力発生の違いについて. 第71回日本体力医学会大会, 201609.
- 3) 信太奈美, 西村和夫, 橘高義典, 原和泉, 木下正信: 車いすスポーツでの使用が体育館の床材に与える影響. 日本障害者スポーツ学会, 20170121.
- 4) 古川順光, 信太奈美, 来間弘展, 新田収: 呼吸筋トレーニングと静止立位時身体重心動揺の関係. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, (JARM2016): I353-I353, 201606.
- 5) 松尾達彦, 新田 収, 信太奈美, 古川順光: 脊髄損傷患者における車椅子スポーツ時の心拍数変化—頸髄損傷と胸腰髄損傷の比較—. 日本理学療法学会大会(Web), 20170512.
- 6) 大塚匠, 新田 収, 信太奈美, 古川順光: 脊髄損傷者における車いすスポーツ活動現場での体表温度変化 頸髄レベル・胸髄レベルの比較. 日本理学療法学会大会(Web), 20170512.

Misc

- 1) 信太奈美: 障害者スポーツの可能性. 月刊事業構想, 2016(11): 50-51, 201611.
- 2) 信太奈美: 障がい者スポーツの特性とアンチ・ドーピングの取り組み. 理学療法ジャーナル, 51(1): 59-, 201701.
- 3) 信太奈美: 障がい者スポーツと理学療法士. JPTA NEWS No.303: 10-11, 201610.
- 4) 信太奈美: 障がい者スポーツと理学療法士. JPTA NEWS No.303: 10-11, 201612.

競争的資金等の研究課題

- 1) 信太奈美: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「車いすスポーツにおける基本的スキルと競技用車いすセッティングの関係」, 2015-2017.
- 2) 信太奈美, 古川順光, 首都大学東京人間健康科学研究科: 平成 28 年度傾斜的研究費。「ウイルチェアラグビー選手の競技中の身体活動量と体温変化」

社会貢献活動

- 1) 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会・日本パラリンピック委員会医科学委員会(アンチ・ドーピング部会): 201703-
- 2) 日本パラリンピック委員会医科学情報サポート事業(バイオメカニクス): 201104-
- 3) 日本理学療法士協会 障がい者スポーツ推進部: 201604-

作 業 療 法 学 科

論文

- 1) 竹内幸子, 大嶋伸雄, 石井良和, 小林隆司:在宅脳血管障害者の「人生を物語ること」による意味ある作業への気づき. 作業療法, 35(3):276-288, 201606.
- 2) 古賀誠, 石井良和, 長雄眞一郎:統合失調症クライアントのセルフスティグマに焦点を当てた作業療法介入. 作業行動研究, 20(2):83-92, 201609.
- 3) 神保洋平, 石井良和:作業適応の危機を経験しながらも大切な作業を継続している高齢者の作業の意味生成様式の探索的研究. 作業療法, 36(1):53-63, 201702.

講演・口頭発表等

- 1) 長崎重信, 石井良和, 山田孝:筋萎縮性側索硬化症患者の生活の質と「作業に関する自己評価」. 第26回日本作業行動学会学術集会, 201606.
- 2) 永井貴士, 山田孝, 石井良和, 市田博子:わが国における家族介護者への作業療法に関連する文献レビュー. 第26回日本作業行動学会学術集会, 201606.
- 3) 谷村厚子, 石井良和:精神保健サービス利用者を対象としたワークライフバランス尺度の経時的変化の検討. 第26回日本作業行動学会学術集会, 201606.
- 4) 中村直子, 森元隆文, 石井良和:うつ病と統合失調症の中高年女性入院患者を対象とした作業機能の比較～人間作業モデルスクリーニングツール(MOHOST)を使用して～. 第50回日本作業療法学会, 201609.
- 5) 馬場順子, 石井良和, 谷村厚子:精神障害領域の就労支援事例における心理社会的・環境側面について～勤労者役割面接を用いた検討～. 第50回日本作業療法学会, 201609.
- 6) 古御門幸奈, 谷村厚子, 石井良和:対象者の作業に関連する考えが表現された作業療法場面－過去5年間の文献研究より－. 第50回日本作業療法学会, 201609.
- 7) 岡田直純, 石井良和:実作業を介したナラティブな関わりを通じて, 記憶力低下が著明な認知症高齢者の大切にしている文脈が把握できた事例. 第26回日本保健科学学会学術集会, 201610.

論文

- 1) 竹内幸子, 大嶋伸雄, 石井良和, 小林隆司:在宅脳血管障害者の「人生を物語ること」による意味ある作業への気づき. 作業療法, 35:276-288, 201606.
- 2) Ryoko Tomizawa, Mayumi Yamano, Mitue Osako, Naotugu Hirabayashi, Nobuo Ohshima, Masahiro Sigeta & Scott Reeves: Validation of a scale to assess the quality of interprofessional teamwork in mental health setting. Journal of Mental Health, 27(JUL):1-8, 201607.
- 3) 山本正浩, 大嶋伸雄, 浦上裕子, 中川雅樹:着衣障害と障害の気づきに対する適応的アプローチによって福祉的就労に至った低酸素脳症例—認知行動療法の理論を利用して—. リハビリテーション医学, 53(4):324-327, 201609.

著書

- 5) 編・著:二木淑子・能登真一, 著者:吉川ひろみ, 石橋英恵, 山崎せつ子, 大嶋伸雄, 他 5 名:標準作業療法学・作業療法学概論(第3版). 9, 多職種連携による チームアプローチ:100-111:, 医学書院, 201606.
- 6) 編・著:大嶋伸雄, 本間武蔵, 濱口豊太, 高島千敬, 宮本礼子, 他 15 名:クリニカル作業療法シリーズ 身体領域の作業療法・第2版. 7, 巻頭言, 身体領域作業療法の構成概念:2-11, ボトムアップ・アプローチとトップダウン・アプローチ:22-35, 一般的患者心理とアプローチの基本:36-47, 作業療法評価の概要:48-56, 評価結果の包括的なまとめ方:57-63, トップダウン・アプローチによる作業療法評価:108-114, 関節運動学に基づく徒手療法:155-159, 筋骨格系と運動機能障害の診方・考え方:160-165, トップダウン・アプローチによる介入の対象と方法:182-189, クライエントの行動変容を促す作業療法アプローチ:190-20:, 中央法規出版, 201609.

講演・口頭発表等

- 1) 大嶋伸雄:理学療法学生のキャリアアップを支援する多職種連携教育(IPE). 第80回理学療法科学学会・学術大会 特別講演, 201601.
- 2) 大嶋伸雄:患者力を引き出す作業療法 in 北海道 -認知作業療法-. 第47回北海道作業療法学会, 201606.
- 3) 大嶋伸雄:「対象者の生きる力を引き出し自立させる多職種連携の取組 -英国の地域ケアの現場から-」. 第18回日本在宅医学会・第21回日本在宅ケア学会学術集会 メインシンポジウム3「チームアプローチ新時代」, 201607.
- 4) 大嶋伸雄, 藤井博之, 由井和也, 吉浦輪, 小川孔美, 根岸裕司:多職種連携(IPW)研修前後における地域医療現職者の意識変化に関する研究 -Reflection Sheet によるアンケート結果から-. 第9回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 201608.
- 5) 大嶋伸雄:認知行動療法の応用による高次脳機能障害へのアプローチ. 第2回東京都総合高次脳機能障

害研究会・講演, 20160803.

- 6) 大嶋伸雄, 下岡隆之, 中本久之, 稲熊成憲, 山本正浩: 認知作業療法による臨床実践と効果に関する研究. 第 50 回日本作業療法学会, 201609.
- 7) 大嶋伸雄: PT・OT・ST のための認知行動療法入門～連携による新しいリハビリテーションアプローチとその効果～. 専門リハビリテーション研究会・第 16 回学術研究会, 201611.
- 8) 大嶋伸雄: 「PT・OT・ST のための認知行動療法入門」～連携による新しいリハビリテーションアプローチとその効果～. 専門リハビリテーション研究会主催・第 16 回研修会, 201612.
- 9) 大嶋伸雄: 認知作業療法の基礎. 岩手県作業療法士会主催・平成 28 年度臨床技術研修会(身体障害), 201612.
- 10) 大嶋伸雄, 高橋章朗, 下岡隆之, 中本久之: 認知作業療法 in 長野. 長野県認知作業療法研究会主催研修会, 201612.

論文

- 1) Sensui H, Nagamatsu T, Senoo A, Miyamoto R, Noriuchi M, Fujimoto T, Kikuchi Y: The effect of hip-hop dance training on neural response to emotional stimuli. Bulletin of the Physical Fitness Research Institute, 114, 20-29, 2016.
- 2) (総説) (感性・脳科学研究部会 特別企画) 則内まどか、菊池吉晃: マターナル・ブレインーその適応的メカニズムー, 日本生理人類学会誌, 21; 135-140, 2016.
- 3) (総説) 菊池吉晃: 「資本主義の教養学」ドーパミン(dopamine)脳と資本主義ー人間にとっての「報酬」とはー, 生存科学, 27-2; 147-165, 2016. (total 197 page)
- 4) 月本洋, 松原剛文, 菊池吉晃, 妹尾淳史: 交差検証法を用いた fMRI データ解析法、電子情報通信学会、情報・システムソサイエティ和文論文誌、J100-D No.4; 570-579, 2016. DOI: 10.14923/transinfj.2016JDP7105. (total 197 page)

著書

- 1) Kikuchi Y, Noriuchi M: Neural Basis of Maternal Love as A Vital Human Emotion. In Emotional Engineering Volume 4 (Fukuda S, eds), Springer International Publishing, 189-198, 2016. Print ISBN 978-3-319-29432-2, Hardcover. (total 240 page)
- 2) Kikuchi Y, Noriuchi M: Neural Basis of Maternal Love as A Vital Human Emotion. In Emotional Engineering Volume 4 (Fukuda S, eds), Springer International Publishing, 189-198, 2016. Online ISBN 978-3-319-29433-9, eBook. (total 240 page)
- 3) Kikuchi Y, Noriuchi M: The Nostalgic Brain: Its Neural Basis and Positive Emotional Role in Resilience. In Emotional Engineering Volume 5 (Fukuda S, eds), 43-53, Springer International Publishing, 2017. Print ISBN 978-3-319-53194-6, Hardcover.
- 4) Kikuchi Y, Noriuchi M: The Nostalgic Brain: Its Neural Basis and Positive Emotional Role in Resilience. In Emotional Engineering Volume 5 (Fukuda S, eds), 43-53, Springer International Publishing, 2017. Online ISBN 978-3-319-53195-3, eBook.

競争的資金等の研究課題

- 1) 菊池吉晃: 「RPPI法による愛情神経基盤としての報酬系と内受容系との因果的機能連関の研究」, 平成28年度傾斜的研究費(一般)(部局分・部局競争経費).
- 2) 菊池吉晃: 「化粧行為の認知神経科学的研究」, 資生堂共同研究.
- 3) 菊池吉晃: 科研費基盤(B)「超高磁場 fMRI を用いたヒト身体不安定性における「全身的協関」メカニズムの研究」, 201304-201703.

その他

- 1) 菊池吉晃: 【研究室紹介】首都大学東京脳機能解析科学研究室. PANews 26; 3-4, 2016
- 2) 菊池吉晃: (制作協力)最新科学でハッピー子育て。教養・文化シリーズ NHK スペシャル ママたちが非常事態!?, NHK 出版、20161021
- 3) 菊池吉晃: (制作協力)DVD: NHK スペシャル ママたちが非常事態! ? NHK エンタープライズ、20161123
- 4) 菊池吉晃: (制作協力)ママは悪くない!ー最新科学が教えてくれる子育ての新極意、主婦と生活社、201612
- 5) 菊池吉晃: (制作協力)ママたちが非常事態! ?ー最新脳科学で読み解くニッポンの子育てー、ポプラ社、201612

- 6) 菊池吉晃: 日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同計算機シミュレーションと工学設計分科会「心と脳など新しい領域検討小委員会」幹事, 2016.
- 7) 菊池吉晃: 日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同計算機シミュレーションと工学設計分科会「心と脳など新しい領域検討小委員会」委員, 2016.
- 8) 菊池吉晃: 日本学術振興会 特別研究員関連専門委員, 2016.
- 9) 菊池吉晃: 日本学術振興会 国際事業関連委員会委員, 2016.
- 10) Kikuchi Y: Editor, Journal of Ophthalmology Forecast, ScienceForecast Publications, USA
- 11) Kikuchi Y: Editor, Journal of Neurology Forecast, ScienceForecast Publications, USA
- 12) Kikuchi Y: Editor, Journal of Clinical Psychiatry and Neuroscience, PULSUS, UK
- 13) Kikuchi Y: Editor, Journal of Neurology and Neuroscience, iMedPub, UK
- 14) Kikuchi Y: Editorial Board, the World Journal of Psychiatry, USA
- 15) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Physiological Anthropology, JPN
- 16) Kikuchi Y: Editorial Board, Science Postprint, JPN
- 17) Kikuchi Y: Editorial Board, Epigenetics Diagnosis & Therapy, UAE
- 18) Kikuchi Y: Editorial Board, International Journal of Physiatry, USA
- 19) Kikuchi Y: Editorial Board, Neuroscience Communications, USA
- 20) Kikuchi Y: Editorial Board, Neurology, Brain and Psychiatry, USA
- 21) Kikuchi Y: Editorial Board, International Journal of Radiology and Radiation Oncology, India
- 22) Kikuchi Y: Editorial Board, American Journal of Psychiatry and Neuroscience, USA
- 23) Kikuchi Y: Editorial Board, Neurology & Neurosciences, USA
- 24) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Clinical Neurology, USA
- 25) Kikuchi Y: Reviwer, Universal Journal of Public Health, USA
- 26) Kikuchi Y: Editorial Board, Clinical Neurology, Remedy Open Access Journal, USA
- 27) Kikuchi Y: Editorial Board, Annals of Psychiatry and Treatment, India
- 28) Kikuchi Y: Editorial Board, Clinical and Medical Imaging: Cases and Reviews, USA.
- 29) Kikuchi Y: Editorial Board, Annals of Neurodegenerative Disorders, USA
- 30) Kikuchi Y: Editorial Board, Neurology and Neurosciences, USA.
- 31) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Neurology, Neurosurgery and Spine, USA.
- 32) Kikuchi Y: Editorial Board, Neurology and Neuroscience, SciTz Neurology and Neurosciences, USA.
- 33) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Radiology and Oncology, USA
- 34) Kikuchi Y: Editorial Board, Austin Neurology & Neurosciences, USA
- 35) Kikuchi Y: Editorial Board, Sports Medicine and Rehabilitation Journal, USA
- 36) Kikuchi Y: Editorial Board, Clinical and Medical Imaging, USA
- 37) Kikuchi Y: Editorial Board, Psychiatry Case Reports -Annals of Clinical Case Reports, USA
- 38) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Autism and Epilepsy, USA
- 39) Kikuchi Y: Editorial Board, Archives of Sports Medicine and Physiotherapy, India
- 40) Kikuchi Y: Editorial Board, International Journal of Physitry, USA
- 41) Kikuchi Y: Editorial Board, International Journal of Sleep Disorders, USA
- 42) Kikuchi Y: Editorial Board, Neurology, USA

- 43) Kikuchi Y: Editorial Board, Annals of Clinical Case Reports, Remedy, USA.
- 44) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of neurology and Neuro Toxicology, USA
- 45) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Physiotherapies, USA
- 46) Kikuchi Y: Editorial Board, SM Journal of Forensic Research and Criminology, USA
- 47) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Neuroscience and Cognitive Studies, USA
- 48) Kikuchi Y: Editorial Board, International Journal of Psychological and Brain Sciences, USA
- 49) Kikuchi Y: Editorial Board, Clinical Psychiatry, USA
- 50) Kikuchi Y: Editorial Board, JSM Clinical and Medical Imaging, USA
- 51) Kikuchi Y: Editorial Board, Austin Journal of Clinical Neurology, USA
- 52) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Bioanalysis and Biomedicine, USA
- 53) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Psychiatry and Cognitive Behaviour, USA
- 54) Kikuchi Y: Editorial Board, Editorial Board, Neurology Case Reports, USA
- 55) Kikuchi Y: Editorial Board, Brain and Nerves, UK
- 56) Kikuchi Y: Editorial Board, World Journal of Psychiatry and Mental Health Research, USA
- 57) Kikuchi Y: Editorial Board, Physical Medicine and Rehabilitation Case Reports, India
- 58) Kikuchi Y: Editorial Board, Sensory Research: Neuroscience and Modelling, UK
- 59) Kikuchi Y: Editorial Board, International Journal of Brain Disorders & Therapy, USA
- 60) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Juvenile Psychology and Behavioural Sciences, UK
- 61) Kikuchi Y: Editorial Board, Editorial Board, Neurophysiology Research, UK
- 62) Kikuchi Y: Editorial Board, World Journal of Psychiatry and Mental Health Research, Remedy Publications, USA
- 63) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Novel Physiotherapies, OMICS international
- 64) Kikuchi Y: Editorial Board, Psychiatry Open Access, Edelweiss Publications, USA
- 65) Kikuchi Y: Editorial Board, Annals of Neurology and Neurological Sciences, MedDocs Publishers, USA
- 66) Kikuchi Y: Editorial Board, International Journal of Alzheimers & Neurological Disorders, USA
- 67) Kikuchi Y: Editorial Board, Journal of Depression and Anxiety Forecast, USA

論文

- 1) 安永雅美, 小林法一, 坂井泰: デイケア活動中の高齢者のストレスマーカーの変動に関する予備的研究. ストレス科学: 日本ストレス学会誌, 30(3):239-242, 2016.
- 2) Honnke T, Yamada T, Ishii H, Kobayashi N: Reliability and validity of the Japanese Elderly version of Leisure Activity Enjoyment Scale. Journal of Japan Academy of Health Sciences, 19(3):129-139, 2016.

Misc

- 1) 小林法一: 臨床研究講座 わかりやすい論文を書くために: 文献の読み方・使い方(第2回)問いを育てる. 作業療法. 35(2):107-112, 2016.
- 2) 小林法一, 村井千賀(編著): 総合事業における効果的な IADL 改善プログラム実践マニュアル. 1-156, 2017.
- 3) 小林法一, 石橋裕: 平成28年度老人保健健康増進等事業「介護予防・日常生活支援総合事業における効果的な IADL 改善プログラムの開発に関する研究」報告書, 1-65, 2016

講演・口頭発表等

- 1) 浅野葉子, 佐藤和彦, 小林法一: 住民主体の「通いの場」に関与するための文献レビュー. 第47回北海道作業療法学会, 北海道作業療法. 33(suppl):62, 2016.
- 2) 岡義広, 小林法一: 卒後教育における人間作業モデルスクリーニングツールを用いた事例検討の有用性. 第26回日本作業行動学会学術集会, 作業行動研究. 20(特):67-68, 2016.
- 3) 二村元気, 篠原和也, 小林法一, 山田 孝: 臨床実習で人間作業モデルを用いた指導を行うことの意味. 第26回日本作業行動学会学術集会, 作業行動研究. 20(特):66-67, 2016.
- 4) 山田孝, 小林法一, 篠原和也, 會田玉美: 認知症高齢者に作業を実施した群と作業を実施しなかった群の比較 前向きコホート研究. 第26回日本作業行動学会学術集会, 作業行動研究. 20(特):25-26, 2016.
- 5) 野本潤矢, 楠木直紀, 小林法一: 意味のある作業への従事を支援できた認知症高齢者の事例 認知症高齢者の絵カード評価法を用いて. 第26回日本作業行動学会学術集会, 作業行動研究. 20(特):22-23, 2016.
- 6) Inomata E, Kobayashi N, Kawakita A: SUPPORT OF THE LIFESTYLE IN COMMUNITY-DWELLING ELDERLY LIVING ALONE: FOCUS ON HOUSEHOLD TASKS. COTEC-ENOTHE Congress, Ireland, Galway, June 15th - 19th, 2016.
- 7) 田中秀宜, 小林法一: 作業療法士の熟達の要素とコンピテンシーの比較. 第50回日本作業療法学会抄録集, 2016.
- 8) 二村元気, 小林法一, 篠原和也: 生活行為向上マネジメントツールを用いた情報共有による介護職員の自律性と自己効力感の変化. 第50回日本作業療法学会抄録集, 2016.
- 9) 中村美歌, 小林法一: 回復期リハビリテーション病棟に入院中の脳卒中者の妻の不安 自宅退院に向けた不安と対処のプロセス. 第50回日本作業療法学会抄録集, 2016.
- 10) 嶋崎寛子, 小林法一, 小野田修一: 生活課題が健康関連 QOL に及ぼす影響 大震災後の仮設住宅での調

査から. 第 50 回日本作業療法学会抄録集, 2016.

- 11) 渡辺陵介, 小林法一: 老年期作業療法における有益な情報獲得手段としての色カルタ(クオリア・ゲーム)の可能性. 第 50 回日本作業療法学会抄録集, 2016.
- 12) 安永雅美, 小林法一, 後藤與四人, 瀧村友貴: デイサービス利用者の自宅活動と QOL フローモデルに基づく調査. 第 50 回日本作業療法学会抄録集, 2016.
- 13) 野尻亜希, 山本麻子, 小林法一, 大嶋伸雄: 訪問リハビリテーションにおける"1 日の生活の振り返り"の効果 作業バランス自己診断後の半構造化面接の質的分析から. 第 50 回日本作業療法学会抄録集, 2016.
- 14) 横井安芸, 大嶋伸雄, 小林隆司, 小林法一: 高齢者の生活期リハビリテーションに携わる作業療法士のコンピテンシーに関する研究 デルファイ調査による内容の妥当性の検討. 第 50 回日本作業療法学会抄録集, 2016.
- 15) 江口悠樹, 小林法一: 外来・通所リハにおける短期集中的リハビリテーションの効果 脳血管障害者の IADL 能力に着目して. 第 50 回日本作業療法学会抄録集, 2016.
- 16) 山田孝, 小林法一, 篠原 和也: 認知症で作業を実施した群と実施しなかった群のランダム化比較試験 予備的研究. 第 50 回日本作業療法学会抄録集, 2016.
- 17) 兒玉夏実, 小林法一: 回復期リハビリテーション病棟における色カルタの効果に関する検討 色カルタ実施経験のある作業療法士へのインタビューを通して. 第 50 回日本作業療法学会抄録集, 2016.
- 18) 嶋崎寛子, 小林法一, 谷村厚子: 仮設住宅長期入居者の生活課題と QOL の関連. 第 27 回日本保健科学学会学術集会, 日本保健科学学会誌, 19(suppl):10, 2016.
- 19) 兒玉夏実, 小林法一: 色カルタ(クオリア・ゲーム)を用いた回復期リハビリテーション病棟における認知機能の低下した高齢者への効果に関する研究 試行結果の報告. 第 27 回日本保健科学学会学術集会, 日本保健科学学会誌, 19(suppl):8, 2016.
- 20) Shimazaki H, Kobayashi N: Elderly residents in temporary housing have different problems in their daily life depending on collapse level of their original home. 21th WONCA World conference of family doctors, 2016.
- 21) 二村元気, 小林法一: MTDLP の使用が施設内での連携を促進させ買い物を再開することができた事例. 東京作業療法, 201707.
- 22) 小林法一: 東京都における地域包括ケアシステムの課題と解決への糸口. 平成 28 年度 区東部地域リハビリテーション支援センター研修会. ティアラこうとう, 201605.

競争的資金等の研究課題

- 1) 小林法一: 平成28年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)「介護予防・日常生活総合支援事業における効果的なIADL改善プログラムの開発に関する研究」, 2016(代表).
- 2) 本家寿洋: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「LAES を使用して高齢障害者が余暇活動を主観的に楽しむプログラムの開発」, 2015-2018. (分担)
- 3) 小林法一: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「認知症の BPSD 低減に有効な個人固有の役割活動を特定する評価マニュアルの作成」, 2015-2017. (代表)
- 4) 川越雅弘: 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学政策研究事業)「要介護高齢者の生活機能向上に資する効果的な生活期リハビリテーション/リハビリテーションマネジメントのあり方に関する総合的研究」, 2015-2018. (分担)
- 5) ペイター ボンジェ: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「Development and efficacy of community-based

integrated care system interprofessional program for care prevention (kaigo-yobou) based in social-innovation.J , 2016-2019.
(分担)

論文

- 1) 吉田一平, 美馬寛子, 野中哲士, 小林隆司, 平尾一樹: 高齢者の作業に対する主観的評価の分析フローモデルを基にした検討. 作業療法, 35(2):113-122, 20160415.
- 2) 竹内幸子, 大嶋伸雄, 石井良和, 小林隆司: 在宅脳血管障害者の「人生を物語ること」による意味のある作業への気づき. 作業療法 = Japanese occupational therapy research, 35(3):276-288, 20160615.
- 3) 小林隆司: 実践に役立つ! 生活行為向上マネジメント 第1章 総論 3 生活行為とは. 作業療法ジャーナル, 50(8):737-741-, 20160720.
- 4) 鈴木優喜子, 長澤明, 小林隆司: 認知症治療病棟におけるアルツハイマー病患者の認知症重症度と行動・心理症状の関連. 日本作業療法研究学会雑誌, 19(1):1-6-6, 20160906.
- 5) 吉田一平, 平尾一樹, 小林隆司, 野中哲士: 作業療法プロセスにおけるフローモデルに基づく「挑戦水準」・「能力水準」バランス調整の効果 デイケアの2症例への使用経験を通して. 作業療法ジャーナル, 50(11):1239-1246, 20161015.
- 6) 鎌田小百合, 小林隆司: わが国の医療系学生の学習動機に対する一考察 動機付けモデルと成人学習(アンドラゴジー)の視点より. 東京作業療法, 5:37-44, 201702.
- 7) 小林隆司, 伊藤祐子, 石橋裕: 学童保育における障害をもつ児童の受け入れ状況とりハビリテーション専門職による支援ニーズ-岡山県 2015 年度アンケート調査より~. 作業療法, 36(1):109-112-112, 20170215.
- 8) 宇佐美好洋, 宇佐美好洋, 小川恵子, 西田裕介, 小林隆司: 特別養護老人ホームにおける作業療法士と介護職の「情報の共有化」に関する認識. 作業療法, 36(2):170-182-182, 20170415.

著書

- 1) 小林隆司: 第7章地域包括ケアシステムにおけるマネジメント. 澤田辰徳・編, 作業で結ぶマネジメント: 作業療法士のための自分づくり・仲間づくり・組織づくり, 医学書院, 20160909.
- 2) 小林隆司: 生活行為向上マネジメント. 大嶋伸雄・編, 身体領域の作業療法 第2版(臨床作業療法シリーズ), 中央法規出版, 20160923.
- 3) 小林隆司: 作業療法の記録と報告. 矢谷令子・編, 作業療法学概論 第3版(標準作業療法学 専門分野), 医学書院, 20161207.

講演・口頭発表等

- 1) 小林隆司: Acceptance of elementary school students with developmental disorder and needs for rehabilitation specialist support at after school childcare program. 10th International society of physical and rehabilitation medicine world congress, 20160529.
- 2) 篠田昭, 南征吾, 小林隆司, 兼松まどか: 作業が思考の整理に役立った高次脳機能障害を有する頭部外傷患者(事例報告). The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 201606.

- 3) 南征吾, 小林隆司:生活行為の実現に向けた訪問作業療法の実践構造 質的研究 生活行為の自働的構築に向けた患者支援. 作業行動研究, 20160601.
- 4) 宇佐美好洋, 中本久之, 小林隆司, 大嶋伸雄, 菊池恵美子:養成校における作業療法臨床実習教育の現状と課題 2009~2013 年の学会抄録レビュー. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 5) 鎌田小百合, 伊丹麻美, 中村晃一, 小林隆司:作業療法学生による認知症予防講座に対する一考察 学生自身に与える教育的効果. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 6) 古川絵美, 篠田昭, 南征吾, 小林隆司:作業創発的臨床推論法を用いて計画段階でのエラーを修正することで作業適応に至った事例. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 7) 中本久之, 宇佐美好洋, 大嶋伸雄, 小林隆司, 菊池恵美子:作業療法臨床実習教育における実習施設と学生の現状と課題 2009~2013 年の学会抄録レビュー. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 8) 長尾宗典, 小林隆司:脳梗塞右片麻痺男性が趣味活動を獲得・再開していく主観的経験プロセス 複線径路・等至性モデルに基づく事例研究. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 9) 土屋景子, 金山祐里, 小野健一, 小林隆司:選択された ADL 満足感の評価法の有用性について. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 10) 南征吾, 小林隆司:訪問作業療法の実践構造 質的研究 生活行為目標の共同的構築について. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 11) 篠田昭, 南征吾, 小林隆司:ナラティブスロープに基づく語りから得られた人生に対する作業の影響 質的研究. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 12) 金山祐里, 土屋景子, 小野健一, 小林隆司:通所リハビリテーション利用者を対象とした ADL の主観的満足と QOL の関係. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 13) 小林隆司, 伊藤祐子, 石橋裕:学童保育における障害をもつ児童の受入状況とリハビリテーション専門職による支援ニーズ 岡山県 2015 年度アンケート調査より. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 14) 佐々木露葉, 小林隆司, 小内友紀子:尿失禁のある地域在住中年女性の作業に関する自己評価と主観的健康観の変化について. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 15) 横井安芸, 大嶋伸雄, 小林隆司, 小林法一:高齢者の生活期リハビリテーションに携わる作業療法士のコンピテンシーに関する研究 デルファイ調査による内容的妥当性の検討. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 16) 齋藤みのり, 安田洋子, 梅原彩, 佐野伸之, 小林隆司:現実的な「作業」を通してファンタジー没頭による生活障害が軽快した事例. 日本作業療法学会抄録集, 201609.
- 17) 長尾宗典, 小林隆司:脳梗塞左片麻痺男性が通所リハビリテーション利用を経て自助グループ立ち上げに至った主観的経験プロセス 複線径路等至性アプローチに基づく事例研究. 日本保健科学学会誌, 20160926.
- 18) 中本久之, 中本久之, 宇佐美好洋, 宇佐美好洋, 大嶋伸雄, 小林隆司, 菊池恵美子:作業療法臨床実習における現状と課題 2009-2013 年の学会抄録レビュー. 東京作業療法, 20170225.
- 19) 宇佐美好洋, 宇佐美好洋, 宇佐美好洋, 加藤享子, 田山慶大, 中村幸輝, 中村幸輝, 小林隆司:脳卒中後のリハビリテーションに対し強い不満を持った症例に対する作業療法—合意目標を設定して支援計画を立案することの重要性の検討—. 東京作業療法, 20170225.
- 20) 中村恵理子, 中村恵理子, 小林隆司:「我が国における作業療法教育研究の傾向」—1963 年~2016 年の文献レビュー—. 東京作業療法, 20170225.
- 21) R.Kruijne, 小林隆司, M. v Hartingsveldt, 井上薫, M.Pol, 伊藤祐子, P.Bontje:Exploring Dutch and Japanese Perspectives on Healthcare Technology. Jubileum Congres Ergotherapie, Bunnik, 20170324.

競争的資金等の研究課題

- 1) 井上薫:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究 B)「ランダム化比較試験による認知症等を有する高齢者に対するロボットパロの効果」, 201604-201903.

受賞

- 1) 糸山智栄、小林隆司、宇野京子:第23回岡山県保健福祉学会 保健福祉部長賞「放課後児童クラブ指導員と作業療法士による発達障害児支援の試み」, 201701.

社会貢献活動

- 1) 小林隆司:中学校評議員. 14, 201504-201703.
- 2) 小林隆司:日本における作業行動の起源と歴史的背景. 4, 20160618-.
- 3) 小林隆司:東京作業療法・査読員. 18, 20160626-20180625.
- 4) 小林隆司:予防給付における通称リハビリテーション・訪問リハビリテーションのあり方に関する調査研究. 16,17, 20160701-20170331.
- 5) 小林隆司:障害者によるボランティア活動のあり方検討. 18, 20160728-20160729.
- 6) 小林隆司:生活行為向上マネジメント. 14, 20160807-.
- 7) 小林隆司:作業療法士からのヒント?. 10, 20160920-.
- 8) 小林隆司:セラピストと学生教育のための臨床クラークシップ. 10, 20161212-.
- 9) 小林隆司:地域で、チームで、長い目で. 4, 20161228-.
- 10) 小林隆司:学童保育における発達障害を持つ児童の支援. 10, 20170128-.
- 11) 小林隆司:臨床実習を変えていくために必要なこと. 2, 20170212-.
- 12) 小林隆司:臨床クラークシップを導入すると起きること. 10, 20170303-.
- 13) 小林隆司:地域包括ケアシステムにおける国や地域から求められるセラピストの役割. 10, 20170307-.

論文

- 1) N. Nagao, Y. Tamura, P. Bontje, Y. Takimoto, M. Hirai & Y. Ishikawa: Different views on treatment decisions by first-year interprofessional healthcare students. Journal of Interprofessional Care, 31:3:407-409, 201702.

Misc

- 1) ボンジェ ペイター: 作業科学セミナー20年の振り返り. 作業科学研究, 10(1):17-19, 201612.

講演・口頭発表等

- 1) Peter Bontje, Sissel Alsaker, Staffan Josephsson: Unfolding familiarity: Resuming daily occupation by older persons with physical disabilities, in Japan.. 2016 COTEC-ENOTHE Congress, Galway, Ireland, 20160616.
- 2) 坂根勇輝, ボンジェ ペイター: わが国における作業療法士-クライアント関係についての研究状況と課題 2005年~2015年の文献レビュー. 第50回日本作業療法学会, 20160910.
- 3) ボンジェペイター, Sissel Alsaker, Eric Asaba, Anders Kottorp, Staffan Josephsson: 馴染みになる: 高齢者における身体障害を有した後、日々の作業を再開する過程のナラティブ的ケース・スタディ研究. 第50回日本作業療法学会, 20160910.
- 4) ボンジェ ペイター: 高齢者における身体障害を有した後の日常生活の取戻し. EUx日本、研究者x留学生x高校生の異色コラボ, 20161106.
- 5) 上村真美, 南山七瑚美, ボンジェ ペイター: 障がい者にとって活力のある社会とは. 第20回作業科学セミナー, 20161203.
- 6) 坂根勇輝, ボンジェ ペイター: Co-occupation としての作業療法におけるクライアントと担当作業療法士の相互理解のプロセス. 第20回作業科学セミナー, 20161203.
- 7) R. Kruijn, 小林隆司, M v Hartingsveldt, 井上薫, M Pol, 伊藤祐子, P. Bontje. Exploring Dutch and Japanese Perspectives on Healthcare Technology. Ergotherapie Nederland Congress, Bunnik, the Netherlands, 20170324

競争的資金等の研究課題

- 1) ボンジェ ペイター: 日本学術振興会 基盤研究(C)(一般)「Development and efficacy of community-based intergrated care system interprofessional program for care prevention (kaigo-yobou) based in social-innovation」, 201604-201903.

論文

- 1) 小林隆司, 伊藤祐子, 石橋 裕: 学童保育における障害をもつ児童の受け入れ状況とリハビリテーション専門職による支援ニーズ 岡山県 2015 年度アンケート調査より. 作業療法, 36(1):109-112, 201702.

著書

- 1) 石橋 裕(大嶋伸雄編集): 身体領域の作業療法 第 2 版 (臨床作業療法シリーズ), 中央法規出版, 20160923.
- 2) 石橋 裕(菊池恵美子編集): 作業療法を観る, シービーアール, 20170401.

講演・口頭発表等

- 1) 麓文太, 石橋 裕: 脳卒中早期に作業を経験したことで肯定的な展望を描けた事例.. 第 26 回日本作業行動学会学術集会, 201606.
- 2) Reiko Miyamoto Yu Ishibashi: LONGITUDINAL STUDY ABOUT THE CHANGE OF SELF-EFFICACY AND SELF-KNOWLEDGE FOR ADJUSTABILITY RELATED TO PRACTICAL PLACEMENT OF OCCUPATIONAL THERAPY STUDENTS. COTEC-ENOTHE2016, 201606.
- 3) 麓文太, 石橋 裕: 急性期脳血管障害患者の心身機能と作業有能性との関連性. 第 50 回日本作業療法学会, 201609.
- 4) 石橋 裕, 宮本礼子: 要支援者からデイスサービスに対する生活行為の相談・支援依頼の現状. 予備調査. 第 50 回日本作業療法学会, 201609.
- 5) 小林隆司, 伊藤祐子, 石橋 裕: 学童保育における障害を持つ児童の受け入れ状況とリハビリテーション専門職による支援ニーズ 岡山県 2015 年度アンケート調査より.. 第 50 回日本作業療法学会, 201609.
- 6) 宮本礼子, 石橋 裕: 作業療法学生の実習適応能力と自己効力感の認識変化に関する縦断研究. 第 50 回日本作業療法学会, 201609.

競争的資金等の研究課題

- 1) ボンジェペイター: 日本学術振興会 科学研究費補助金「Development and efficacy of community-based integrated care system interprofessional program for care prevention (kaigo-yobou) based in social-innovation.」, 201604-202003 (分担).
- 2) 石橋裕・石橋仁美: メイクアップによる障害者支援方法の確立のための基礎研究, 花王株式会社共同研究.
- 3) 小林法一: 介護予防・日常生活総合支援事業における効果的な IADL 改善プログラムの開発に関する研究, 厚生労働省老人保健健康増進等事業.
- 4) 石橋 裕: 日本学術振興会 科学研究費補助金「介護予防事業におけるサービス提供最適化のためのアルゴリズム開発」

委員暦

- 1) 東京都荒川区介護予防アドバイザー 委員(201304-)

Misc

- 1) 立山清美, 伊藤祐子, 有川真弓, 赤松めぐみ, 山田孝, 山西葉子:【効果研究】総説 感覚統合療法の効果研究の現状と効果研究に用いる指標. 感覚統合研究, 16:1-7, 201603.
- 2) 伊藤祐子:おてだまあそび. 発達教育, 35(4):23-25, 20160325.
- 3) 伊藤祐子:積み木あそび. 発達教育, 35(5):23-25, 20160425.
- 4) 伊藤祐子:玉であそぶおもちゃ. 発達教育, 35(6):23-25, 20160525.
- 5) 伊藤祐子, 立山清美, 有川真弓, 赤松めぐみ, 山田孝:発達障害児に対する感覚統合療法の効果 コミュニケーションと交流技能評価(ACIS)を用いた検討. 作業行動研究, 20(特別号):32-33, 201606.
- 6) 有川真弓, 立山清美, 伊藤祐子, 赤松めぐみ, 山田孝:発達障害児に対する感覚統合療法の効果 小児版意志質問紙(PVQ)を用いた検討. 作業行動研究, 20(特別号):33-34, 201606.
- 7) 有川真弓, 立山清美, 伊藤祐子, 赤松めぐみ, 山田孝:発達障害児に対する感覚統合療法の効果 2)小児版意志質問紙(PVQ)を用いた検討～. 作業行動研究, 20:33-34-, 20160601.
- 8) 伊藤祐子, 立山清美, 有川真弓, 赤松めぐみ, 山田孝:発達障害児に対する感覚統合療法の効果 1)コミュニケーションと交流技能評価(ACIS)を用いた検討～. 作業行動研究, 20:32-33-, 20160601.
- 9) 伊藤祐子:道具を使ったおもちゃ. 発達教育, 35(7):23-25, 20160625.
- 10) 伊藤祐子:くみあわせるおもちゃ. 発達教育, 35(8):23-25, 20160725.
- 11) 伊藤祐子:そつとあそぶおもちゃ. 発達教育, 35(9):23-25, 20160825.
- 12) 八重樫貴之, 八重樫貴之, 伊藤祐子:保護者が抱く子育てにおける困りごとの分析—東京都内 A 保健所の 1 歳半, 3 歳児健診に来所した保護者を対象に—. 日本作業療法学会抄録集(CD-ROM), 50th:ROMBUNNO.OI-6-2-6, 201609.
- 13) 小林隆司, 伊藤祐子, 石橋裕:学童保育における障害をもつ児童の受入状況とリハビリテーション専門職による支援ニーズ—岡山県 2015 年度アンケート調査より—. 日本作業療法学会抄録集(CD-ROM), 50th:ROMBUNNO.PI-5-1A-5, 201609.
- 14) 伊藤祐子:楽器のおもちゃ. 発達教育, 35(10):23-25, 20160925.
- 15) 池田知美, 伊藤祐子:わが国における M-ABC の使用目的と有用性に関する文献レビュー. 日本保健科学学会誌, 19:12-12, 20160926.
- 16) 立山清美, 伊藤祐子, 有川真弓, 赤松めぐみ, 山田孝:発達障がい児に対する感覚統合療法の効果～ゴール達成スケーリングおよび日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査を用いた検討～. 日本感覚統合学会研究大会プログラム抄録集, 34th:30-30, 201611.
- 17) 小林隆司, 伊藤祐子, 石橋裕:学童保育における障害をもつ児童の受け入れ状況とリハビリテーション専門職による支援ニーズ～岡山県 2015 年度アンケート調査より～. 作業療法, 36(1):109-112-112, 20170215.
- 18) 伊藤祐子:特別支援学校におけるコーディネーター教員が外部支援専門家としての作業療法士に期待すること～平成 27 年度子ども委員会による調査より～. 東京作業療法, 5:7-10-10, 20170225.
- 19) 伊藤祐子:子ども委員会カフェ～特別支援について語ろう～. 東京作業療法, 5:67-68-67, 20170225.
- 20) 岩永竜一郎, 加藤寿宏, 伊藤祐子, 仙石泰仁, 徳永瑛子, 東恩納拓也, 樫川亜衣, 上田茜:学校版運動スキルアセスメントの因子分析研究. 日本発達系作業療法学会誌, 5(1):15-23-23, 20170228.

競争的資金等の研究課題

- 1) 立山清美:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「幼児期の自閉症スペクトラム児に対する感覚統合療法の効果～非ランダム化比較試験」, 201404-201603.
- 2) 岩永竜一郎:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「学校版協調運動検査の作成に関する研究」, 201504-201803.

社会貢献活動

- 1) 伊藤祐子:国立障害者リハビリテーションセンター主催研究プロジェクト“ニーズアンドアイデアフォーラム”. 3,11,13, 201504-.
- 伊藤祐子:第5回日本発達系作業療法学会学術大会大会長. 13, 20170326-.

論文

- 1) 井上 薫:【ロボットテクノロジーと作業療法】認知症の人に対するセラピー用ロボット・パロの実践 暮らしをより豊かにするための支援. 作業療法ジャーナル, 51(1):38-46, 201701.

著書

- 1) 白澤正和, 岡田進一, 他編集:介護支援専門員現任者研修テキスト第 1 巻, 専門研修課程Ⅰ, 第 6 章リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例:, 中央法規, 201611.
- 2) 白澤正和, 岡田進一, 他編集:介護支援専門員現任者研修テキスト第 2 巻, 専門研修課程Ⅱ, 第 2 章リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例:, 中央法規, 201611.
- 3) 白澤正和, 岡田進一, 他編集:介護支援専門員現任者研修テキスト第 4 巻, 主任介護支援専門員更新研修, 第 2 章リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例:, 中央法規, 201612.

講演・口頭発表等

- 1) 柴田崇徳, 井上 薫, 福井貴弘:地域包括医療ケアにおける、アザラシ型ロボット・パロによる認知症ケアと介護負担の軽減化. 第 17 回日本認知症ケア学会, 20160404.
- 2) 井上 薫, 山本昇志, 本田秀明, 佐々木千寿, 佐久間尚実, 岡田麻衣子, 河野光伸:「観察」に焦点を当てた認知症早期発見に関する和文献の計量テキスト分析. 第 17 回日本認知症ケア学会, 20160404.
- 3) 井上 薫:ロボットとロボット用玩具の違いとそれらの有効活用のために. TIRI クロスミーティング 2016, 20160609.
- 4) 齋藤一実, 佐々木千寿, 井上 薫:What should school teachers take care for their students before they have clinical training? - Differences in instructors' training views and roles due to differences in their experience ?. COTEC-ENOTHE, 20160615.
- 5) 山本昇志, 本田秀明, 井上 薫, 原直人, 津村徳道:視線挙動測定による状況判断能力の評価. 第 52 回日本交通科学学会総会学術講演会, 20160618.
- 6) 竹嶋理恵, 井上 薫, 近藤知子:移動手段としてのハンドル形電動車椅子の可能性. 第 50 回日本作業療法学会, 20160909.
- 7) 矢筈原隆史, 井上 薫, 佐々木千寿:日本作業療法学会抄録集第 50 回, 介護保険制度における福祉用具に関する文献研究. 第 50 回日本作業療法学会, 20160909.
- 8) 井上 薫, 佐久間尚実, 佐々木千寿, 田邊由紀江:介護拒否を訴える認知症をもつ在宅高齢者に対するメンタルコミット・ロボット・パロの活用 ヘルパーによる観察記録のテキスト分析. 第 50 回日本作業療法学会, 20160910.
- 9) R.Kruijine, 小林隆司, M. v Hartingsveldt, 井上 薫, M.Pol, 伊藤祐子, P.Bontje:Exploring Dutch and Japanese Perspectives on Healthcare Technology. Jubileum Congres Ergotherapie, 20170324.

競争的資金等の研究課題

- 1) 井上 薫:独立行政法人日本学術振興会 科学研究費補助金(B)「ランダム化比較試験による認知症等を有する高齢者に対するロボットパロの効果」, 201604-201903.
- 2) 井上 薫:首都大学東京 学部傾斜配分研究費「特別養護老人ホームに入所している認知症高齢者に対する作業療法」, 201605-201702.

その他

- 1) フィナンシャルポスト取材, Are Western nursing homes ready for Japan's humanoid robots?
<http://business.financialpost.com/executive/smart-shift/are-western-nursing-homes-ready-for-japans-humanoid-robots>,
Are Western nursing homes ready for Japan's humanoid robots? <http://business.financialpost.com/executive/smart-shift/are-western-nursing-homes-ready-for-japans-humanoid-robots>, 201609.

委員歴

- 1) 日本生活支援工学会 編集委員(200504-)
- 2) 日本保健科学学会 編集委員(200704-)
- 3) 日本リハビリテーション工学協会 代議員(201604-)
- 4) 東京都作業療法査読員(201304-)
- 5) 東京都作業療法士会 福祉用具部会委員 他

論文

- 1) 山崎幸子、藤田幸司、蘭牟田洋美、安村誠司:外出に対する自己効力感を高める訪問型支援の効果—高齢者の閉じこもり改善に向けた試み—。日本応用老年学会, 10(1):1-10, 201608.
- 2) Yamazaki S, Imuta H, Yasumura S: Depression in older adults: Do close family members recognize it? Geriatrics & gerontology international, 16(12):1350-1351, 201612.

著書

- 1) 蘭牟田洋美:新・発達心理学ハンドブック. 9, 28 章 老年期:, 福村出版, 201607.
- 2) 蘭牟田洋美:心理学叢書 8 超高齢社会を生きる 第 5 章 高齢者の閉じこもり——その予防と支援. 0, 第 5 章 高齢者の閉じこもり——その予防と支援:, 誠信書房, 201612.

Misc

- 1) 山崎幸子, 山崎幸子, 藤田幸司, 蘭牟田洋美, 安村誠司:外出に対する自己効力感を高める訪問型支援の効果—高齢者の閉じこもり改善に向けた試み—. 応用老年学, 10(1):27-36-, 20160831.
- 2) 山田拓実, 蘭牟田洋美:荒川ばん座位体操の参加による身体機能、健康関連 QOL に対する 1 年および 2 年効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集, 75 回:641-641, 201610.
- 3) 山田拓実, 蘭牟田洋美:荒川ばん座位体操の参加による身体機能、健康関連 QOL に対する 1 年および 2 年効果. 日本公衆衛生学会総会抄録集, 75th:641-, 20161015.
- 4) 蘭牟田洋美:ライフレビューで閉じこもり高齢者の心を理解する: 閉じこもる理由を理解し、外出につなげる支援(特集 外出支援で楽しみの多い生活を). ふれあいケア, 23(2):16-19, 201702.
- 5) 蘭牟田洋美:外出支援で楽しみの多い生活を ライフレビューで閉じこもり高齢者の心を理解する—閉じこもる理由を理解し、外出につなげる支援—. ふれあいケア, 23(2):16-19-, 20170201.

講演・口頭発表等

- 1) 蘭牟田洋美:臨床発達心理学の基礎に関する科目:評価と支援. 2016 年度第2回指定科目取得講習会, 20160626.
- 2) 蘭牟田洋美:聴くことでできる社会貢献 高齢者の閉じこもりを理解するために. 傾聴ボランティアグループダンボの会, 20161015.
- 3) 蘭牟田洋美:葛飾区震災復興マニュアル職員研修. 葛飾区震災復興マニュアル職員研修, 20170221.
- 4) 蘭牟田洋美:こもりがちな高齢者の方々へ向けて、地域でできること. ふれあい粋・活サロン交流会, 20170306.
- 5) 蘭牟田洋美:閉じこもりを予防してイキイキ生活. 介護予防教室(江戸川区), 20170309.
- 6) 蘭牟田洋美:傾聴がもたらす効果. ケアマネージャーネットワーク荒川定例会, 20170316.

競争的資金等の研究課題

- 1) 山崎幸子:日本学術振興会 科学研究費「閉じこもりの心理的バリア解消に向けた家族と共に取り組む包括的支援プログラムの開発」, 201604-202003.
- 2) 蘭牟田洋美:文部科学省 科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「介護予防から災害弱者へのパラダイム転換-効果的な閉じこもり高齢者支援を目指して-」, 2015-2017.
- 3) 和泉比佐子:日本学術振興会 科学研究費「青壮年期のメタボリックシンドローム予防の自己効力感尺度と介入プログラムの開発」, 201404-201703.

社会貢献活動

- 1) 蘭牟田洋美:閉じこもりと心身の健康との関連. 10,12, 20160717-.
- 2) 蘭牟田洋美:高齢者 気楽に外へ. 6, 20161214-20161214

講演・口頭発表等

- 1) 谷村厚子, 石井良和:精神保健サービス利用者を対象としたワークライフバランス尺度の経時的変化の検討. 第26回日本作業行動学会学術集会, 201606.
- 2) 古御門幸奈, 谷村厚子, 石井良和:対象者の作業に関連する考えが表現された作業療法場面ー過去5年間の文献研究よりー. 第50回日本作業療法学会, 201609.
- 3) 山本麻子, 山根(野尻)亜希, 楠本直紀, 岩本薫, 谷村厚子:子育てとOTを両立する母親の成長と必要な支援ー座談会「子育てしながらOTしよう!」の質的データ分析からー. 第50回日本作業療法学会, 201609.
- 4) 馬場順子, 石井良和, 谷村厚子:精神障害領域の就労支援事例における心理社会的・環境側面についてー勤労者役割面接を用いた検討ー. 第50回日本作業療法学会, 201609.
- 5) 古御門幸奈, 谷村厚子:「こころの天気」描画法で表現された対象者の価値ある作業. 第26回日本保健科学学会学術集会, 201610.

競争的資金等の研究課題

- 1) 谷村厚子:独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(基盤研究(C)(一般)))「精神障害をもつ当事者対象ワークライフバランス向上プログラム効果評価システムの構築」, 201504-201803.

社会貢献活動

- 1) 谷村厚子:社会福祉法人あゆみ 理事. 11, 200904-201703.
- 2) 谷村厚子:一般社団法人 日本作業療法士協会 学術部部員. 14, 201106-.
- 3) 谷村厚子:社会福祉法人 あゆみ 評議員. 11, 201109-.
- 4) 谷村厚子:学術誌「東京作業療法」編集長. 4,6,7, 201202-.
- 5) 谷村厚子:一般社団法人 東京都作業療法士会 学術部担当理事. 14, 201406-.

論文

- 1) 澤田有希, 橋本美芽: 作業療法発の住環境整備のための記録用紙の開発. 作業療法, 35(4):347-358, 201608.

著書

- 1) 橋本美芽: 福祉機器選び方・使い方 はじめての住宅改修、入浴、トイレ. 住宅改修方法の基礎知識:, 保健福祉広報協会, 201609.
- 2) 橋本美芽: 自立支援のための住環境整備～福祉用具専門職のための建築基礎知識～公益財団法人テクノエイド協会, 201612.

講演・口頭発表等

- 8) 橋本美芽: 住宅改修の実践向け基礎知識－環境評価と部屋別のポイント. 荒川リハネット講習会, 20160621.
- 9) 橋本美芽: 住宅改修を行う際の基本的な考え方と住宅改修計画書の意義. 高齢者向け住宅改修関連事業者研修, 20160713.
- 10) 橋本美芽: はじめての住宅改修. 第43回国際福祉機器展, 20161012.
- 11) 橋本美芽: 転倒予防の住まいの工夫. 転倒予防サポーター養成講座, 20161019.
- 12) 橋本美芽: 高齢者の住宅改修－環境評価と各室のポイント－. 住宅改修施工事業者研修会, 20161128.
- 13) 長野博一, 藤井敬宏, 橋本美芽: Study on Consensus Building Processes by Proposal of Short-Term Maintenance Program for Crowded Urban Areas, Considered Disaster Prevention and UD. The 6th International Conference for Universal Design 2016, 20161212.
- 14) 橋本美芽: 地域・自宅で生活をつづけるためには～安全と自立支援の住まいづくり～. 練馬区パワーアップカレッジ, 20170314.
- 15) 橋本美芽, 鈴木基恵, 成田すみれ: 認知症高齢者の住環境支援に関する専門職の意識 介護支援専門員と福祉用具専門相談員の調査から. 日本認知症ケア学会誌, 201704.

競争的資金等の研究課題

- 6) 橋本美芽: 日本学術振興会 学術研究助成基金助成金「認知症高齢者を対象とした住環境整備の支援手法と整備項目に関する研究」, 201504-201803.

委員暦

- 1) 横浜市福祉局 横浜市福祉のまちづくり推進会議委員(200604-)
- 2) 日本リハビリテーション工学協会 SIG 住まいづくり 代表(200808-)
- 3) 日本リハビリテーション工学協会 代議員(201308-)
- 4) 一般社団法人シルバーサービス振興会 介護保険における住宅改修の工程管理認定制度基準認定委員会(201310-)
- 5) 日本認知症ケア学会 関東2地域部会委員(201406-)
- 6) 横浜市建築局 横浜市都市計画審議会委員(201411-)
- 7) 荒川区バリアフリー基本構想推進協議会 委員長(201503-)
- 8) 日本建築学会建築計画委員会高齢者・障がい者等居住小委員会 委員(201504-)
- 9) 荒川区図書館 ゆいの杜あらかわ 設計アドバイザー(201504-201703)
- 10) 日本生活支援工学会 理事(201604-)
- 11) 一般社団法人シルバーサービス振興会 住宅改修における価格の見える化に関するモデル事業検討委員会 委員(201609-201703)
- 12) 荒川区尾久図書館 設計アドバイザー(201704-)

論文

- 1) Hiroomi Sensui, Toshiya Nagamatsu, Atsushi Senoo, Reiko Miyamoto, Madoka Noriuchi, Toshihiko Fujimoto, and Yoshiaki Kikuchi: The effect of hip-hop dance training on neural response to emotional stimuli. Bulletin of the physical fitness research institute, (114):20-29, 201604.
- 2) 石川哲也, 横井安芸, 宮本礼子: 記憶障害の気づきを促すー失敗を再認する課題と心理的ストレスに配慮した関わり方ー. 神奈川作業療法研究, 7(1):21-26, 201703.

Misc

- 4) 宮本礼子: 作業療法における脳画像情報の活用と課題. 作業療法ジャーナル, 50(6):522-529, 201606.
- 5) 大嶋伸雄, 宮本礼子: 前頭葉損傷者の評価と生活支援. Journal of Clinical rehabilitation, 26(3):10-19, 201703.

講演・口頭発表等

- 1) 宮本礼子, 石橋裕: longitudinal study about the change of self-efficacy and self-knowledge for adjustability related to practical placement of occupational therapy students. COTEC2016, 20160617.
- 2) 宮本礼子: 私と家族のための認知症講座. 荒川徳寿大学講演, 20160722.
- 3) 石橋裕, 宮本礼子: 要支援者におけるデイサービスへの生活行為の相談・支援依頼の現状(予備調査). 第50回日本作業療法学会(札幌), 20160908.
- 4) 北村新, 宮本礼子: 日本の作業療法領域におけるグラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた研究に関する概観. 第50回日本作業療法学会(札幌), 20160909.
- 5) 宮本礼子, 石橋裕: 作業療法学生の実習適応能力と自己効力感の認識変化に関する縦断的研究. 第50回日本作業療法学会(札幌), 20160909.
- 6) 宮本礼子: 脳と心の不思議な関係ー認知症の理解と支援の鍵ー. 東京都作業療法士会 認知症セミナー, 20161009.
- 7) 山口亮祐, 宮本礼子: 他者の表情観察を通じた認知的共感と情動的共感の神経基盤ー成人女性を対象としてー. 日本ヒト脳機能マッピング学会(京都)20170310.

競争的資金等の研究課題

- 1) 宮本礼子:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究 C)「内省能力の変化が意思決定時の脳活動に及ぼす影響」, 20140401-20170331.
- 2) 伏見清秀:厚生労働省 厚生労働省科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「医療従事者の需給に関する研究」, 20160401-20170331(分担).
- 3) ペイターボンジェ:文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究 C)“Development and efficacy of community-based integrated care system interprofessional program for care prevention (kaigo-yobou) based in social-innovation“(分担).20160401-20200331

社会貢献活動

- 1) 宮本礼子:作業遂行勉強会東京 監事. 14, 20120401-
- 2) 宮本礼子:東京都作業療法士会 学会演題査読委員. 18, 20120610-
- 3) 宮本礼子:東京都作業療法士会 学術誌「東京作業療法」査読委員. 18, 20130201-
- 4) 宮本礼子:日本保健科学学会誌 査読委員. 18, 20141200-
- 5) 宮本礼子:日本作業療法学会 学会演題査読委員. 18, 20141201-

その他

- 1) 豊島区立心身障害者福祉センター 非常勤作業療法士(20130401-)

委員歴

- 1) 作業遂行勉強会東京 監事(201204-)
- 2) 東京都作業療法士会 学会演題査読委員(201206-)
- 3) 東京都作業療法士会 学術誌「東京作業療法」査読委員(201407-)
- 4) 日本保健科学学会誌 査読委員(201412-)

放 射 線 学 科

論文

- 1) Le VT, Inoue K, Fujisawa M, Arai M, Fukushi M. Impact on Absorbed Dose Rate in Air from Asphalt Pavement Associated with Transport Infrastructure Developments on Phu Quoc Island, Vietnam. Radiation Environment and Medicine, 6(2),88-93,2017.
- 2) Inoue K, Arai M, Fukushi M. Dispersion of radiocesium-contaminated bottom sediment caused by heavy rainfall in Joso City, Japan. PLoS ONE, 12(2): e0171788, 2017.
- 3) Inoue K, Arai M, Fujisawa M, Saito K, Fukushi M. Detailed distribution map of absorbed dose rate in air in Tokatsu area of Chiba Prefecture, Japan, constructed by car-borne survey 4 years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. PLoS ONE, 12(1): e0171100, 2017.
- 4) Inoue K, Fukushi M. External dose estimation on expressways and main roads of Fukushima Prefecture after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. Japanese Journal of Education for Radiological Technology, (5)7-14,2017
- 5) Showler K, Nishimura M, Daino K, Imaoka T, Nishimura Y, Morioka T, Blyth BJ, Kokubo T, Takabatake M, Fukuda M, Moriyama H, Kakinuma S, Fukushi M, Shimada Y. Analysis of genes involved in the PI3K/Akt pathway in radiation- and MNU-induced rat mammary carcinomas. Journal of Radiation Research, 189-194, 201610.
- 6) Takabatake M, Blyth BJ, Daino K, Imaoka T, Nishimura M, Fukushi M, Shimada Y. DNA Methylation Patterns in Rat Mammary Carcinomas Induced by Pre- and Post-Pubertal Irradiation. PLoS ONE, 11(10): e0164194, 20161000.
- 7) Imaoka T, Nishimura M, Daino K, Morioka T, Nishimura Y, Uemura H, Akimoto K, Furukawa Y, Fukushi M, Wakabayashi K, Mutoh M, Shimada Y. A Rat Model to Study the Effects of Diet-Induced Obesity on Radiation-Induced Mammary Carcinogenesis. Radiation Research, 185(5):505-15, 201605.
- 8) Owaki Y, Inoue K, Narita H, Tsuda K, Fukushi M. Characteristic X-ray Imaging for Palliative Therapy Using Strontium-89 Chloride: Understanding the Mechanism of Nuclear Medicine Imaging of Strontium-89 Chloride. Radiological Physics and Technology, 2017. doi:10.1007/s12194-016-0388-8.
- 9) Hosokawa S, Inoue K, Kano D, Shimizu F, Koyama K, Nakagami Y, Muramatsu Y, Fukushi M. A simulation study for estimating scatter fraction in whole body 18F-FDG PET/CT. Radiological Physics and Technology, 10(2):204-212, 201612.
- 10) Inoue K, Fukushi M. Current Status of Absorbed Dose Rate in Air in Metropolitan Tokyo due to Radionuclide Deposition in Asphalt Pavements after the Fukushima Nuclear Power Plant Accident. Geoinformatics & Geostatistics: An Overview, 4(3), 2016.
- 11) Inoue K, Tsuruoka H, Le VT, Arai M, Saito K, Fukushi M. Impact on ambient dose rate in metropolitan Tokyo from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. Journal of Environmental Radioactivity, 158-159, 1-8, 201607.

- 12) Hosokawa S, Inoue K, Hashimoto K, Yazawa Y, Hori K, Sugino M, Fukushi M. Ambient dose rate on Mikurashima Island after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. Japanese Journal of Education for Radiological Technology, 4(1), 1-6, 2016.
- 13) Inoue K, Tsuruoka H, Le VT, Fukushi M. Contribution Ratios of Natural Radionuclides to Ambient Dose Rate in Air After the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry, 307(1), 507-512, 2016.
- 14) Maedera F, Inoue K, Sugino M, Sano R, Furue M, Shimizu H, Tsuruoka H, Le VT, Fukushi M. Natural Variation of Ambient Dose Rate in Air of Izu-Oshima Island After the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. Radiation Protection Dosimetry, 168(4), 561-564, 2016.
- 15) Tsuruoka H, Inoue K, Hosokawa S, Fukushi M. Measurement of radon and thoron concentrations in the Tokyo Metropolitan University Arakawa Campus building. Journal of Japan Academy of Health Sciences, 19(1), 40-48, 2016.
- 16) 清水秀雄, 石田和雄, 前寺郁彦, 窪岡大, 井上一雅, 福士政広. 福島第一原子力発電所周辺における空間線量率とモクズガニ甲殻へのセシウム集積との関連性の検討. 医療保健学研究, 7, 1-6, 2016.
- 17) 清水秀雄, 津田啓介, 中里一久, 福士政広. OSL 線量計を使用した頭部単純 CT 撮影における患者皮膚線量の検討, 診療放射線学教育, 5(1)35-39, 2017.
- 18) 福士政広: 放射線安全管理の Q&A. 医療放射線防護 76. 47-49. 2017.2

著書

- 1) 福士政広, 井上一雅. 放射線安全管理学 第2版, 医療科学社, 東京, 2017.
- 2) 福士政広, 齋藤秀敏, 藤崎達也, 布施拓, 橋本光康, 浦橋信吾, 入船寅二, 井上一雅, 三枝健二. 放射線機器学(II) 改訂新版, コロナ社, 東京, 2017.
- 3) 福士政広編著. 診療放射線技師ポケット・レビュー帳, 東京, 2017.

Misc

- 1) 山口正太郎, 井上一雅, 福士政広, 北村秀秋, 光野譲, 井原完有, 麻生智彦: 金属のアーチファクトによる PET/CT 画像への影響. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):37-37, 201604.
- 2) 橋本海, 井上一雅, 福士政広: 御蔵島における土壌中放射性セシウム濃度の測定. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):34-34, 201604.
- 3) 荒井萌子, 井上一雅, 福士政広: 茨城県全域における福島第一原子力発電所事故後の空間線量率. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):33-34, 201604.
- 4) 津田啓介, 福士政広: ともに伸ばす核医学: 各職種の核医学診療への取り組み 医学物理士

として. 核医学技術, 36(2):160-161, 20160430.

- 5) リ・ヴァン・タン, 井上一雅, 窪岡大, 荒井萌子, 細川翔太, 福士政広: ベトナム・ホーチミン市およびタイニン省における環境放射線量の調査(Terrestrial Gamma Radiation Dose Rate in Ho Chi Minh City and Tay Ninh Province, Vietnam). 日本保健物理学会研究発表会講演要旨集, 49 回:134-134, 201606.
- 6) 井上一雅, 細川翔太, 荒井萌子, 窪岡大, リ・ヴァン・タン, 福士政広: 東京都全域における福島原発事故後の空間線量率の変化. 日本保健物理学会研究発表会講演要旨集, 49 回:115-115, 201606.
- 7) 窪岡大, 井上一雅, 荒井萌子, Le Van Tan, 細川翔太, 福士政広: 東京都奥多摩地区における福島第一原発事故後のスギ花粉中セシウム量の推移. 日本保健物理学会研究発表会講演要旨集, 49 回:122-122, 201606.
- 8) 井上一雅, 細川翔太, 荒井萌子, 窪岡大, リ・ヴァン・タン, 福士政広: 東京都全域における福島原発事故後の空間線量率の変化. 日本保健物理学会研究発表会講演要旨集, 49 回:115-115, 201606.
- 9) 大鷹豊, 砂岡史生, 梶原宏則, 佐藤敬, 井上一雅, 福士政広, 奥山康男: PET/CT におけるデータ収集法の基礎検討—リストモード収集とスタティック収集の比較—. 核医学技術, 36(予稿集):455-455, 20160930.
- 10) 片岡萌, 井上一雅, 福士政広: 荒川における希土類元素の濃度調査. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):25-26-26, 20170430.
- 11) 山本周平, 井上一雅, 福士政広: 伊豆大島における福島第一原子力発電所事故後の土壌中放射能濃度. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):28-28, 20170430.
- 12) 藤澤真, 荒井萌子, 井上一雅, 福士政広: ベトナムフーコック島における環境放射線量の測定. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):29-29, 20170430.
- 13) 横溝真哉, 井上一雅, 福士政広, 森岡孝満, 西村まゆみ, 柿沼志津子, 島田義也: 環境エンリッチメントは放射線影響を抑制するか—条件設定および基礎データの構築—. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):25-25, 20170430.
- 14) 増田翔, 井上一雅, 福士政広: 三宅島における環境放射線(能)調査. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):29-29, 20170430.
- 15) 塚野遼, 井上一雅, 福士政広: 伊豆大島における福島第一原子力発電所事故由来の空間線量率の推移. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):28-29-29, 20170430.

講演・口頭発表等

- 1) 大鷹豊, 島添健次, 小山晃広, 三好寿顕, 飯本武志, 高橋浩之, 井上一雅, 福士政広. 酸化物半導体の X 線耐性の基礎研究, 第 64 回応用物理学会春季学術講演会, 2017.3 (神奈川県).

- 2) 藤田新志, 大貫和信, 濱道修正, 井上一雅, 梅田泉, 福士政広, 藤井博史. ^{99m}Tc -フチン酸コロイドとインドシアニングリーン混合プローブによるセンチネルリンパ節イメージング. 第 56 回日本核医学会学術総会, 2016.11(愛知県).
- 3) 阪間稔, 藤本憲市, 松本(川口)絵里佳, 井上一雅, 福士政広, 今城裕介, 福原隆宏, 松浦貢. PHITS と DLNN を組み合わせた In-situ 多チャンネル放射能濃度深度分布測定器 (Depth Distribution Spectrometer)の放射能濃度決定, 日本放射線安全管理学会学術大会, 2016.11(岡山).
- 4) 大鷹豊, 砂岡史生, 梶原宏則, 佐藤敬, 井上一雅, 福士政広, 奥山康男. PET/CTにおけるデータ収集法の基礎検討 —リストモード収集とスタティック収集の比較—, 第 36 回日本核医学技術学会総合学術大会, 2016.11(愛知県).
- 5) 蒲地雄大, 今岡達彦, 臺野和広, 細木彩夏, 西村まゆみ, 西村由希子, 高畠賢, 井上一雅, 福士政広, 島田義也. ラット乳腺における放射線応答の年齢と線質による違い, 日本放射線影響学会第 59 回大会 2016.10(広島県).
- 6) 森山ひとみ, 臺野和広, 今岡達彦, 西村まゆみ, 西村由希子, 森岡孝満, 柿沼志津子, 井上一雅, 福士政広, 島田義也. γ 線・中性子線誘発ラット乳がんにおけるゲノム変異とサブタイプの解析, 日本放射線影響学会第 59 回大会 2016.10(広島県).
- 7) Kamochi Y, Imaoka T, Daino K, Hosoki A, Nishimura M, Nishimura Y, Takabatake M, Inoue K, Fukushi M, Shimada Y. Age- and LET-dependent DNA damage responses in rat mammary gland. Radiation Research Society's 62nd Annual International Meeting, 2016.10 (Hawaii, USA).
- 8) Moriyama H, Daino K, Imaoka T, Takabatake M, Nishimura Y, Nishimura M, Morioka T, Kakimura S, Inoue K, Fukushi M, Shimada Y. Genomic alterations and subtypes of rat mammary carcinomas induced by gamma rays or neutrons. Radiation Research Society's 62nd Annual International Meeting, 2016.10 (Hawaii, USA).
- 9) Hosokawa S, Inoue K, Fukushi M. A simulation study for estimating scatter fraction of human body in FDG-PET/CT. European Association of Nuclear Medicine 2016.10 (Barcelona, Spain).
- 10) 山口正太郎, 我妻慧, 三輪建太, 石井賢二, 井上一雅, 福士政広. BSREM 法によるベイズ型画像再構成のエッジアーチファクトの改善効果. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会 2016.10(埼玉県).
- 11) 横溝真哉, 柿沼志津子, 西村まゆみ, 森岡孝満, 山崎隼輔, 尚奕, 鶴岡千鶴, 西村由希子, 福士政広, 島田義也:放射線影響に対する環境エンリッチメントの効果・エンリッチメント環境の設定, 日本宇宙生物科学会 30 周年記念シンポジウム及び日本宇宙生物科学会第 30 回大会 2016.10(愛知県).
- 12) Imaoka T, Nishimura M, Daino K, Takabatake M, Nishimura Y, Kamochi Y, Moriyama H, Kokubo T, Fukushi M, Kakinuma S, Shimada Y. Distinct age dependence of radiation-induced rat mammary carcinogenesis between radiation types. Radiation Protection Week 2016, Mathematical Institute, 2016.10 (Oxford, UK).

- 13) 阪間稔, 藤本憲市, 松本絵里佳, 井上一雅, 福士政広, 今城祐介, 福原隆宏, 松浦貢. PHITS と DLNN を組み合わせた In-situ 多チャンネル放射能濃度深度分布測定 of 放射能濃度決定への取り組み. 第 12 回 PHITS 定期講習会/研究会 2016.9(静岡県).
- 14) 阪間稔, 藤本憲市, 松本絵里佳, 井上一雅, 福士政広, 今城祐介, 福原隆宏, 松浦貢. PHITS と DLNN による放射能濃度深度分布測定に関わる検出効率シミュレーションの試み. プラズマシミュレータシンポジウム 2016 2016.9(岐阜県).
- 15) 森山ひとみ, 臺野和広, 今岡達彦, 高畠賢, 西村由希子, 西村まゆみ, 森岡孝満, 柿沼志津子, 井上一雅, 福士政広, 島田義也, 線質の異なる放射線誘発ラット乳がんにおけるゲノム変異とサブタイプ解析, 若手放射線生物学研究会平成 28 年度専門研究会 2016.9 (東京都).
- 16) 延澤忠真, 小川雅之, 菅和雄, 加藤真一, 寺西幸光, 今尾仁, 田口好晃, 首藤由衣, 中里一久, 中谷儀一郎, 福士政広. 東京都地下鉄線の線量率の変動, 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 沖縄, 2016.9.
- 17) 高畠賢, 臺野和広, 今岡達彦, 小久保年章, 西村由希子, 西村まゆみ, 福士政広, 島田義也. 放射線被ばく後の妊娠・出産経験によるラット乳がんリスク変化とそのサブタイプの関係, 第 25 回乳癌基礎研究会 2016.7(奈良県).
- 18) 杉野雅人, 矢島有里恵, 堀謙太, 橋本海, 矢澤祐典, 井上一雅, 福士政広. 東京都御蔵島村における空間線量率とセシウムの分布状況. 日本保健物理学会第 49 回研究発表会 2016.6(青森県).
- 19) Le VT, Inoue K, Tsuruoka H, Arai M, Fukushi M. Terrestrial Gamma Radiation Dose Rate in Ho Chi Minh City and Tay Ninh Province, Vietnam. 日本保健物理学会第 49 回研究発表会 2016.6(青森県).
- 20) 霍岡大, 荒井萌子, 井上一雅, Le VT, 福士政広. 東京都奥多摩地区における福島第一原発事故後のスギ花粉中セシウム量の推移. 日本保健物理学会第 49 回研究発表会 2016.6(青森県).
- 21) 井上一雅, 荒井萌子, 霍岡大, Le VT, 福士政広. 東京都全域における福島原発事故後の空間線量率の変化. 日本保健物理学会第 49 回研究発表会 2016.6(青森県).
- 22) 福士政広, 井上一雅, 荒井萌子, 霍岡大, Le VT. 常総市における関東・東北豪雨による災害後の空間線量率の変化. 日本保健物理学会第 49 回研究発表会 2016.6(青森県).
- 23) 矢澤祐典, 井上一雅, 福士政広. 御蔵島における空間線量率と島民への影響. 日本放射線技術学会第 70 回東京支部春期学術大会 2016.5(東京都).
- 24) 山口正太郎, 井上一雅, 福士政広, 北村秀秋, 光野譲, 井原完有, 麻生智彦. 金属のアーチファクトによる PET/CT 画像への影響. 日本放射線技術学会第 70 回東京支部春期学術大会 2016.5(東京都).
- 25) 荒井萌子, 井上一雅, 福士政広. 茨城県全域における福島第一原子力発電所事故後の空間線量率. 日本放射線技術学会第 70 回東京支部春期学術大会 2016.5(東京都).

- 26) 橋本海, 井上一雅, 福士政広. 御蔵島における土壤中放射性セシウム濃度の測定. 日本放射線技術学会第70回東京支部春期学術大会 2016.5(東京都).
- 27) 細川翔太, 井上一雅, 加納大輔, 村松禎久, 中神佳宏, 福士政広. FDG-PET/CTにおける散乱フラクシオンの推定. 第72回日本放射線技術学会総会学術大会 2016.4(神奈川県).
- 28) 津田啓介, 福士政広. とともに伸ばす核医学: 各職種の核医学診療への取り組み医学物理士として, 核医学技術 36(2), 2016.4.

競争的資金等の研究課題

- 1) 福士政広: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「生物試料と深度分布測定を用いた河川の放射性セシウムの環境影響と人体影響の調査」, 2015-2017.
- 2) 福士政広(分担): 科学研究費補助金(基盤研究(B))「結晶シンチレータによる医療用高感度 γ 線コンプトンカメラの開発」, 2015-2019.
- 3) 福士政広(研究代表者): 創成ワールド(株)共同研究助成「放射性物質の除去に関する研究」, 2016-2017.
- 4) 福士政広(分担): 環境研究総合推進費: 環境省・独立行政法人環境再生保全機構「多チャンネル放射能深度分布測定器の実用化とIn-situ測定法の確立」2016～2017.
- 5) 福士政広(分担): 医健エンジニアリング株式会社共同研究助成「放射線防護材の開発」, 2012-2017.
- 6) 福士政広: 首都大学東京傾斜的研究費「可搬型放射線深度分布スペクトルメータの防水型及び多チャンネル化の開発・改良」2016.

委員暦

- 1) 国際協力機構技術専門委員
- 2) 日本医学物理士会会長
- 3) 診療放射線学教育学会会長
- 4) 関東診療放射線技師研究会会長
- 5) 日本エステティック機構理事長
- 6) 日本保健科学学会理事
- 7) 大学等放射線施設協議会理事
- 8) 医学物理士認定機構理事
- 9) 国公立大学病院診療放射線技師研修幹事
- 10) 保健物理学会監事など

講演・口頭発表等

- 1) 小倉 泉:簡易形線量計の製作とその動作特性. 日本放射線技術学会第 72 回総会学術大会, 20160416.
- 2) 小倉 泉:レーザー光を用いた教育用模擬CTの逐次近似による画像再構成の検討. 電気学会 A部門大会, 20160905.
- 3) 小倉 泉:第 3 回簡易形線量計作製セミナー(県立茨城医療大). 日本放射線技術学会計測部会, 20160910.
- 4) 小倉 泉:レーザー光を用いた教育用模擬ヘリカル CT 装置の逐次近似法による画像再構成の検討. 電気学会光応用・視覚研究会, 20160921.
- 5) 小倉 泉:第 4 回簡易形線量計作製セミナー(名古屋大学). 日本放射線技術学会計測部会, 20160924.
- 6) 小倉 泉:日常管理を目的とした乳房用簡易形線量計の管電圧補正. 日本放射線技術学会第 44 回秋季学術大会, 20161013.
- 7) 小倉 泉:異なるターゲット・フィルタに対するマンモグラフィ領域用簡易形線量計を用いた線量測定の精度評価. 日本放射線技術学会第 44 回秋季学術大会, 20161013.

競争的資金等の研究課題

- 1) 小倉 泉:日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「マルチスライス形ヘリカル X 線 CT 装置の教育用模擬システムの開発と学生実験への導入」, 201504-201803.

受賞

- 2) 小倉 泉:日本放射線技術学会 技術奨励賞 計測分野「X 線装置の日常管理を目的とした簡易形測定器システムの開発」, 201604.

論文

- 1) Sekimoto M, Kato Y: Derivation of total filtration thickness for diagnostic x-ray source assembly. Physics in medicine and biology, 61(16):6011-6024, 201608.

Misc

- 1) 秋葉保奈美, 関本道治, 加藤 洋, 森岡美英: 散乱線を利用した乳房用 X 線装置の出力測定の可能性. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):840-840, 201609.
- 2) 庄司友和, 梁野伸貴, 栗山和, 川井田洋一, 平川英慈, 樋口壮典, 加藤 洋, 柴田公望: 小児腹部放射線治療計画 CT における適正撮影条件の検討. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):872-872, 201609.
- 3) 栗山和, 庄司友和, 梁野伸貴, 飯嶋恵, 後藤里加, 中川大輔, 柴田公望, 加藤 洋: CTDIvol の実測値、コンソール表示値から算出した SSDE の比較. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):903-903, 201609.
- 4) 柳澤宏樹, 関本道治, 加藤 洋, 松下修: ステレオ撮影原理を用いた深部吸収線量算出のための基礎的検討. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):909-909, 201609.
- 5) 西航平, 加藤 洋, 関本道治: 蒸留および電解濃縮法によるトリチウム濃縮. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):909-910, 201609.
- 6) 細沼宏安, 坂本泰一郎, 澤口政人, 田口裕章, 加藤 洋, 木村純一: X 線室の設計における撮影台の遮へい能力に対する考察. 病院設備, 58(6):135-135, 201610.
- 7) 加藤 洋: 【診断参考レベル(DRL)トリセツ〜現場ですぐ実践できる!!〜】(Part 3)完全解剖!簡易線量計作成セミナー 簡易線量計作製セミナー. Rad Fan, 14(15):59-61, 201611.
- 8) 栗山和, 庄司友和, 梁野伸貴, 飯嶋恵, 後藤里加, 柴田公望, 加藤 洋: 患者体型の取得方法の違いによる SSDE の比較. 日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73 回:192-193, 201703.
- 9) 根本道子, 関本道治, 山根誉久, 加藤 洋: マンモグラフィ透視撮影の基礎検討. 日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73 回:207-207, 201703.
- 10) 柳澤宏樹, 関本道治, 西航平, 加藤 洋: 視差情報を用いたステレオ画像の深さの定量化. 日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73 回:274-274, 201703.
- 11) 西航平, 関本道治, 加藤 洋, 柳澤宏樹, 森岡美英: 融点を利用したトリチウム濃縮. 日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73 回:287-287, 201703.

委員暦

- 1) 日本放射線技術学会 学術委員会(201505-)
- 2) 厚生労働省 診療放射線技師国家試験委員(201509-)

論文

- 1) 片寄哲朗, 河内徹, 宮阪遼平, 兒玉匠, 高瀬信宏, 入山絵梨, CHANG Weishan, 齋藤秀敏: Flattening Filter Free ビームにおける水吸収線量計測に関する提案. 医学物理, 36(2): 79-84-, 201608.
- 2) CHANG Weishan, CHANG Weishan, Koba Yusuke, FUKUDA Shigekazu, WAKABAYASHI Genichiro, SAITOH Hidetoshi, SHINSHO Kiyomitsu: Absorbed dose estimation using LET dependence in glow curve of thermoluminescent phosphor $\text{Li}_3\text{B}_7\text{O}_{12}:\text{Cu}$ in therapeutic carbon beams. Journal of Nuclear Science and Technology, 53(11-12):2028-2033-, 201611.

講演・口頭発表等

- 1) 明上山温, 齋藤秀敏: 電子線モードにより取得した画像のエネルギースペクトル. 第 111 回日本医学物理学会学術大会, 201604.
- 2) 千葉貴仁, 齋藤秀敏, 明上山温: 格子ボルツマン法を用いた光子輸送の計算精度の向上. 第 111 回日本医学物理学会学術大会, 201604.
- 3) 横浜亘, 齋藤秀敏, 明上山温: 部分分割再構成法による kV CBCT のアーチファクト低減処理. 第 111 回日本医学物理学会学術大会, 201604.
- 4) 針生将嗣, 明上山温, 齋藤秀敏: 低解像度ボクセル法による GPU 光子輸送モンテカルロシミュレーションの試み. 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 201609.
- 5) 山下直樹, 齋藤秀敏: イオン再結合補正のためのフォトンカウンタによるビームパルス計測. 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 201609.
- 6) 横浜亘, 齋藤秀敏, 明上山温: kV CBCT における低密度領域自動抽出法の検討. 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 201609.
- 7) 岩崎 翼, 清水森人, 森下雄一郎, 河内徹, 齋藤秀敏: 水吸収線量一次標準による Farmer 形電離箱の線質変換係数の決定. 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 201609.
- 8) 泉孔之, 齋藤秀敏, 久世真裕美: 高エネルギー光子線治療における体内高原子番号物質近傍の線量変化に関する研究. 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 201609.
- 9) 入山絵梨, 齋藤秀敏, 片寄哲朗: フラットニングフィルタフリービームでの水吸収線量計測における阻止能比についての基礎的検討. 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 201609.
- 10) 秋丸 里奈, 藤田幸男, 齋藤秀敏, 明上山温: ビームハードニング補正によるコンベーム CT 再構成画像の画質改善の試み. 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 201609.
- 11) CHANG Weishan, Koba Yusuke, FUKUDA Shigekazu, WAKABAYASHI Genichiro, SAITOH Hidetoshi, SHINSHO Kiyomitsu: Evaluation of diametric characteristic of an alumina based ceramics TLD for high energy photon and proton beams. International Conference on Medical Physics 2016, 201612.

- 12) HARIU Masatsugu, MYOJOYAMA Atusi, SAITOH Hidetoshi: Development of photon transport calculation method using voxel based Boltzmann transport equation. International Conference on Medical Physics 2016, 201612.
- 13) KATAYOSE Tetsuro, SAITOH Hidetoshi: Evaluation of the scanning and micro ionization chambers for standard dosimetry in photon beam. International Conference on Medical Physics 2016, 201612.
- 14) CHANG Weishan, CHANG Weishan, Koba Yusuke, SHINSHO Kiyomitsu, SAITOH Hidetoshi, ANDO Takayuki: The LET dependence of radiophotoluminescence glass dosimeter and Al₂O₃ ceramic type TLD in proton beam. 応用物理学会春季学術講演会講演予稿集(CD-ROM), 201703.

競争的資金等の研究課題

- 1) 齋藤秀敏(研究代表者), 清水森人, 河内徹: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「リニアック X 線による新たな電離箱線量計校正法と水吸収線量計測に関する研究」, 201404-201703.

論文

- 1) Takako Shirakawa, Muneki Tomita, Tetsuo Yamaguchi, Yoshihito Yamada, Eleni Testempassi. Differential diagnosis of pulmonary masses: enlarging mass size on deep expiration CT. International Journal of Pharmaceutical and Medical Research 2016; 4 (3) : 1-4
- 2) Takako Shirakawa, Taiki Fukuda, Kunihiro Fukuda, Current status and future perspective of undergraduate radiology education: results from the worldwide questionnaire survey Japanese Journal of Diagnostic Imaging (Jpn J of Diagn Imaging) 2016; 34(2):153-163
- 3) 古川 顕, 白川崇子, 井上明星, 他. “急性腹症に於ける画像検査の選択”画像診断 2016;36: 1369-1377.

著書

- 1) 白川崇子: 体表臓器超音波診断ガイドブック. 尾本きよか(編集)リンパ節 pp71-84: 南江堂, 201604.

講演・口頭発表等

- 1) 白川崇子: 超音波診断講習会 リンパ節疾患. 日本超音波医学会主催 講習会, 20161113.
- 2) 白川崇子: Sonographic diagnosis of lymphadenopathy. ベトナム放射線医学会 教育講演, 20170327.

委員暦

- 1) 日本超音波医学会 学会誌「超音波医学」査読(201301-)
- 2) 日本超音波医学会 学会誌「Journal of Medical Ultrasonics」査読(201301-)
- 3) 日本超音波医学会 菊池賞 審査員(201405-)
- 4) 日本超音波医学会 伊東賞 審査員(201405-)
- 5) 超音波検査士認定試験委員会委員(201406-)

論文

- 1) Hiroomi Sensui, Nagamatsu Toshiya, Senoo A, Miyamoto Reiko, Noriuchi Madoka, Fujimoto Toshihiko, Kikuchi Yoshiaki: 感情刺激への神経応答におけるヒップホップダンストレーニングの効果(The effect of hip-hop dance training on neural response to emotional stimuli). 体力研究, (114):20-29, 201604.
- 2) 妹尾淳史, 上田亮, 山田尚基, 安保雅博: Comparison of FA and GFA with pre and post therapeutic intervention for chronic stroke patients. Education for Radiological Technology, 5(1), 201703.
- 3) 月本洋, 松原剛文, 菊池吉晃, 妹尾淳史: 交差検証法を用いた fMRI データ解析法. 電子情報通信学会論文誌 D(Web), J100-D(4):570-579 (WEB ONLY)-, 20170206

Misc

- 1) 木下一雄, 平野和宏, 中山恭秀, 佐藤信一, 妹尾淳史, 渡辺賢, 河合良訓: Magnetic Resonance Imaging(MRI)を用いた単一運動課題における内閉鎖筋,外閉鎖筋の筋活動動態の検討. 日本理学療法学会大会(Web), 51st(1):O-KS-23-3(J-STAGE)-153, 201605.
- 2) Misaki Nakazawa, Akifumi Hagiwara, Christina Andica, Masaaki Hori, Ryo Ueda, Nao Takano, Sho Murata, Shuji Sato, Nozomi Hamasaki, Hideo Kawasaki, Haruyoshi Houshito, Shigeki Aoki, Atsushi Senoo: Synthetic MRI を用いたガドリニウム濃度マップの確度と精度についての評価. 第44回日本磁気共鳴医学会大会抄録集, 36:338-338, 20160900.
- 3) Ryo Ueda, Naoki Yamada, Masahiro Abo, Atsushi Senoo: 脳卒中後上肢片麻痺患者を対象とした rTMS・集中的 OT 併用療法前後の機能と構造の再編成. 第44回日本磁気共鳴医学会大会抄録集, 36:304-304, 201609.
- 4) Kojiro Ono, Kazuhiro Shiraga, Takumi Okubo, Hirofumi Watanabe, Hiromichi Nakajima, Atsushi Senoo, Akira Shirayama: Fontan 循環肝臓の Intravoxel incoherent motion(IVIM)-DWI: 正常循環との比較. 第44回日本磁気共鳴医学会大会抄録集, 36:300-300, 201609.
- 5) Kojiro Ono, Takayuki Sakai, Yasuhiro Oikawa, Akira Shirayama, Atsushi Senoo: Low-RFA STIR-PROPELLER 法と T2FSE IDEAL 法における腕神経叢描出の比較検討. 第44回日本磁気共鳴医学会大会抄録集, 36:294-294, 201609.
- 6) Toshiki Wakayama, Masahiro Ida, Katsutoshi Murata, Kenji Saitou, Takashi Ueda, Fumiaki Kawakami, Toshiyuki Onodera, Atsushi Senoo, Akira Yamashita: 悪性転化した脳腫瘍の CEST APTImage. 第44回日本磁気共鳴医学会大会抄録集, 36(9):261-261, 20160900.
- 7) Mika Mori, Shigehide Kuhara, Kuninori Kobayashi, Masahisa Yamada, Atsushi Senoo: Ultra-short TE による乾燥木材の年輪年代計測の試み. 第44回日本磁気共鳴医学会大会抄録集, 36():289-289, 201609.

- 8) 櫻井瑞紀, 新田收, 松田雅弘, 妹尾淳史: サイドブリッジ持久カテストにおける T2 値を用いた体幹筋疲労解析. 日本保健科学学会誌, 19:27-27, 20160926.
- 9) 小野浩二郎, 坂井上之, 大久保巧, 渡邊裕文, 白山明, 及川泰宏, 妹尾淳史: Low Refocusing Flip Angle STIR-PROPELLER 法による腕神経叢描出の基礎検討. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):821-822, 201610.
- 10) 平野和宏, 木下一雄, 妹尾淳史, 河合良訓, 渡辺賢: 肉眼解剖と Magnetic Resonance Imaging(MRI)による内転筋機能の検討. 体力科学, 66(1):122-123, 201702.

講演・口頭発表等

- 1) 妹尾淳史: グラフ理論を応用した大脳白質神経回路網の可視化による DAI・MTBI 鑑別診断への挑戦(教育講演). 第 40 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 201611.

競争的資金等の研究課題

- 1) 山田拓実: 文部科学省 科学研究費補助金基盤研究(C)「膝関節軟骨力学的ストレスと MRI・T2 マッピング早期軟骨変性度の関連性の検討」, 201504-201803. (分担)
- 2) 川島友和: 文部科学省 科学研究費基金(基盤研究(C))「術後伝導障害回避のための臨床解剖学的基盤構築と 3D シミュレーションモデルの作製」, 201604-202003. (分担)
- 3) 妹尾淳史: 文部科学省 科学研究費基金(基盤研究(C))「木材を利用した MRI 拡散テンソル解析用定量評価ファントムの開発」, 201604-201903. (代表)

特許

- 1) 妹尾淳史, 相馬努, 寺岡悟見: 特許 5911234, 20160408, 特開 2013-040830, 20130228 特願 2011-177255, 20110812 「ボリュームデータ処理装置及び方法」公立大学法人首都大学東京, 富士フイルム RI ファーマ株式会社.

論文

- 1) 古川 顕, 白井崇子, 井上明星, 他. “急性腹症に於ける画像検査の選択” 画像診断 2016;36: 1369-1377.
- 2) 古川 顕. “モンゴルの案内” ラジオロジー.
- 3) 井上明星, 古川 顕, 高木海, 今井勇伍, 上村諒, 友澤裕樹, 渡辺尚武, 村上陽子, 園田明永, 大田信一, 新田哲久, Tulyeubai Syerikjan, Nguyen Linh, 井本勝治, 山崎道夫, 村田喜代史. “消化管出血、腸間膜出血のIVR” 救急医学 40(2): 207-214 (2016).
- 4) 井上明星, 大田信一, 古川 顕, 山本麻子, 古市健治, 山崎道夫, 新田哲久, 村田喜代史. “腸回転異常と消化管ヘルニア” 画像診断 36(10): 980-994 (2016).

講演・口頭発表等

- 1) 古川 顕. 従事者講習会“放射線が人体に与える影響” 東京. 20160401.
- 2) 井上明星, 古川 顕, 大田信一, 岩井崇泰, 佐藤滋高, 桑原遼, 古市健治, 山崎道夫, 新田哲久, 村田喜代史. 虫垂の画像診断. 第 75 回日本医学放射線学会総会 2016.4.14-17 横浜市.
- 3) 井上明星, 古川 顕, 大田信一, 山本寛, 貝田佐知子, 山口剛, 村田聡, 小幡徹, 谷眞至, 村田喜代史. シネMRIによる大建中湯内服時の小腸運動評価. 第 75 回日本医学放射線学会総会 2016.4.14-17 横浜市.
- 4) 古川 顕. 救急放射線プレミアム主催. 京都. 20160514.
- 5) 古川 顕. 救急IVR検討会主催 京都. 20160514.
- 6) 古川 顕. 日本IVR学会総会 救急止血セッション司会 名古屋. 20160526-20160528.
- 7) 古川 顕. 滋賀医科大学 放射線医学講義 大津、滋賀. 20160609.
- 8) 古川 顕. 前期研修医セミナー主催 京都. 20160611.
- 9) 古川 顕. 帝京大学放射線学科 放射線医学講義 東京. 20160622.
- 10) 古川 顕. 九州大学 放射線医学講義 博多. 20160701.
- 11) 古川 顕. 放射線科専門医会ミッドサマーセミナー主催 神戸. 20160816-20160817.
- 12) 古川 顕. 日本救急放射線研究会主催 東京. 20160918.
- 13) 第 48 回兵庫県画像診断研究会学術講演会“救急消化管疾患の画像診断” 神戸. 20161001.
- 14) 古川 顕. 救急放線講演会 特別発言 那覇. 20161022.
- 15) 古川 顕. 第6回広島放射線診断フォーラム “腹部救急疾患の CT 診断:消化管を中心に” 広島. 20161028.
- 16) Kanasaki S, Furukawa A, Hamanaka Y, et.al. Endovascular Management for Bowel Ischemia: Current Technique

- and Key CT Findings of Judgment of Treatment Option. RSNA 2016 2016.11.27-12.2 Chicago, USA.
- 17) Tanaka E, Takeyama N, Furukawa A. CT Findings of Drug-induced Gastrointestinal Tract Disorders. RSNA 2016 2016.11.27-12.2 Chicago, USA.
 - 18) Inoue A, Ohta S, Furukawa A, Iwai T, Kuwahara R, Sato S, Furuichi K, Yamasaki M, Nitta N, Murata K. Imaging Diagnosis of Various Appendiceal Disease: Beyond Acute Appendicitis. RSNA 2016 2016.11.27-12.2 Chicago, USA.
 - 19) Inoue A, Ohta S, Furuichi K, Matsuo H, Yamasaki M, Tomozawa Y, Watanabe S, Furukawa A, Nitta N, Murata K. Imaging of the Greater Omentum: Protective Mechanism and Pathologic Condition. RSNA 2016 2016.11.27-12.2 Chicago, USA.
 - 20) 古川 顕. 帝京大学医学部医学科 放射線医学講義. 20161221.
 - 21) 古川 顕. 放射線科専門医会ミッドウィンターセミナー主催 博多. 20170128-20170129.
 - 22) 古川 顕. 日本腹部救急医学会主催 横浜. 20170302-20170303.
 - 23) 古川 顕. Furukawa A. Cho-Ray Hospital - Japan college of Radiology “Acute abdominal condition; learning from illustrative cases.” ホーチミン、ベトナム. 20170327.

競争的資金等の研究課題

- 1) 学術研究助成基金助成金:基盤研究(C) 課題番号 16K10324(研究代表者)(平成 28-30 年度)高磁場 MRI を用いた腸管ぜん動運動の定量評価:自動解析と臨床応用の研.
- 2) 学術研究助成基金助成金:基盤研究(C) 課題番号 25461839(研究代表者)(平成25-27年度)高速核磁気共鳴シネ画像を用いた腸管ぜん動運動機能評価の臨床応用.
- 3) 科学研究費補助金:基盤研究(C)課題番号 22591328 (研究代表者)(平成22-24年度)高速核磁気共鳴画像を用いた腸管蠕動運動の定量解析および腸管機能診断への臨床応用.
- 4) 科学研究費補助金:基盤研究(B):課題番号: 2130007 (研究分担者)一般化N次元PCAに基づく人体臓器の統計ボリュームモデリングと診断支援への応用.

論文

- 1) 細川翔太, 小山和也, 井上一雅:4D-PETにおける新たな呼吸同期収集法の最適化. 日本保健科学学会誌, 19(1):33-39, 201606.
- 2) Tsuruoka H, Inoue K, Hosokawa S, Fukushi M:Measurement of radon and thoron concentrations in the Tokyo Metropolitan University Arakawa Campus building. Journal of Japan Academy of Health Sciences, 19(1):40-48, 201606.
- 3) Inoue K, Tsuruoka H, Le VT, Arai M, Saito K, Fukushi M:Impact on ambient dose rate in metropolitan Tokyo from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident.Journal of Environmental Radioactivity, 158-159:1-8, 201607.
- 4) Hosokawa S, Inoue K, Hashimoto K, Yazawa Y, Hori K, Sugino M, Fukushi M:Ambient dose rate on Mikurashima Island after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. Japanese Journal of Education for Radiological Technology, 4(1):1-6, 201609.
- 5) Inoue K, Arai M, Fujisawa M, Saito K, Fukushi M:Detailed Distribution Map of Absorbed Dose Rate in Air in Tokatsu Area of Chiba Prefecture, Japan, Constructed by Car-Borne Survey 4 Years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. PLOS ONE, 12(1):e0171100, 20170127.
- 6) Inoue K, Arai M, Fukushi M:Dispersion of radiocesium-contaminated bottom sediment caused by heavy rainfall in Joso City, Japan. PLOS ONE, 12(2):e0171788, 20170224.

著書

- 1) 井上一雅:診療放射線技師 ポケット・レビュー帳 3rd edition. メジカルビュー社, 201703.
- 2) 福士政広, 井上一雅:放射線安全管理学 第2版〈付録〉関係法規・測定機器. 医療科学社, 20170321.
- 3) 齋藤秀敏, 福士政広, 藤崎 達也, 布施拓, 橋本光康, 浦橋信吾, 入船寅二, 井上一雅, 三枝健二:改訂新版 放射線機器学(II)- 放射線治療機器・核医学検査機器. コロナ社, 20170428.

Misc

- 1) 荒井萌子, 井上一雅, 福士政広:茨城県全域における福島第一原子力発電所事故後の空間線量率. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):33-34, 201604.
- 2) 橋本海, 井上一雅, 福士政広:御蔵島における土壌中放射性セシウム濃度の測定. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):34-34, 201604.

- 3) 荒井萌子, 井上一雅, 福士政広: 茨城県全域における福島第一原子力発電所事故後の空間線量率. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):33-34, 201604.
- 4) 橋本海, 井上一雅, 福士政広: 御蔵島における土壌中放射性セシウム濃度の測定. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):34-34, 201604.
- 5) 山口正太郎, 井上一雅, 福士政広, 北村秀秋, 光野譲, 井原完有, 麻生智彦: 金属のアーチファクトによる PET/CT 画像への影響. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):37, 201604.
- 6) 山口正太郎, 井上一雅, 福士政広, 北村秀秋, 光野譲, 井原完有, 麻生智彦: 金属のアーチファクトによる PET/CT 画像への影響. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):37, 20160430.
- 7) 橋本海, 井上一雅, 福士政広: 御蔵島における土壌中放射性セシウム濃度の測定. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):34, 20160430.
- 8) 荒井萌子, 井上一雅, 福士政広: 茨城県全域における福島第一原子力発電所事故後の空間線量率. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (129):33-34, 20160430.
- 9) 杉野雅人, 矢島有里恵, 堀謙太, 橋本海, 矢沢祐典, 井上一雅, 福士政広: 東京都御蔵島村における空間線量率とセシウムの分布状況. 日本保健物理学会 49 回研究発表会講演要旨集:86-86, 201606.
- 10) 井上一雅, 細川翔太, 荒井萌子, 窪岡大, リ・ヴァン・タン, 福士政広: 東京都全域における福島原発事故後の空間線量率の変化. 日本保健物理学会 49 回研究発表会講演要旨集:115-115, 201606.
- 11) 福士政広, 井上一雅, 荒井萌子, 窪岡大, Le Van Tan, 細川翔太: 常総市における関東・東北豪雨災害後の空間線量率の変化. 日本保健物理学会 49 回研究発表会講演要旨集:115-115, 201606.
- 12) 窪岡大, 井上一雅, 荒井萌子, Le Van Tan, 細川翔太, 福士政広: 東京都奥多摩地区における福島第一原発事故後のスギ花粉中セシウム量の推移. 日本保健物理学会 49 回研究発表会講演要旨集:115-115, 201606.
- 13) Le Van Tan, 井上一雅, 窪岡大, 荒井萌子, 細川翔太, 福士政広: ベトナム・ホーチミン市およびタイニン省における環境放射線量の調査(Terrestrial Gamma Radiation Dose Rate in Ho Chi Minh City and Tay Ninh Province, Vietnam). 日本保健物理学会 49 回研究発表会講演要旨集:115-115, 201606.
- 14) 細川翔太, 細川翔太, 小山和也, 小山和也, 井上一雅: 4D-PET における新たな呼吸同期収集法の最適化. 日本保健科学学会誌, 19(1):33-39, 20160625.
- 15) 山口正太郎, 我妻慧, 三輪建太, 石井賢二, 井上一雅, 福士政広: Block Sequential Regularized Expectation Maximization 法によるベイズ型画像再構成のエッジアーチファクトの改善効果. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):878, 201609.
- 16) 大鷹豊, 砂岡史生, 梶原宏則, 佐藤敬, 井上一雅, 福士政広, 奥山康男: PET/CT におけるデータ収集法の基礎検討 リストモード収集とスタティック収集の比較. 核医学技術, 36(予稿集):

455, 201609.

- 17) 荒井萌子, 井上一雅, 福士政広: 茨城県全域における福島第一原子力発電所事故後の空間線量率. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (130):41, 20161020.
- 18) 山口正太郎, 井上一雅, 福士政広, 北村秀秋, 光野譲, 井原完有, 麻生智彦: 金属のアーチファクトによる PET/CT 画像への影響. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (130):49, 20161020.
- 19) 橋本海, 井上一雅, 福士政広: 御蔵島における土壌中放射性セシウム濃度の測定. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (130):42, 20161020.
- 20) 阪間稔, 藤本憲市, 松本(川口)絵里佳, 井上一雅, 福士政広, 今城裕介, 福原隆宏, 松浦貢: PHITS と DLNN を組み合わせた In-situ 多チャンネル放射能濃度深度分布測定器(Depth Distribution Spectrometer)の放射能濃度決定. 日本放射線安全管理学会 15th 学術大会講演予稿集:75, 20161130.
- 21) 阪間稔, 藤本憲市, 井上一雅, 福士政広, 荒井萌子, 今城裕介, 福原隆宏, 松浦貢, 矢島辰雄, 松本(川口)絵里佳: PHITSとDLNNを組み合わせた新しい放射能強度決定の試み: In-situ 多チャンネル放射能濃度深度分布測定器の開発. 日本保健物理学会 50th 研究発表会講演要旨集:162, 2017.
- 22) 荒井萌子, 井上一雅, 藤澤真, 福士政広: 福島第一原子力発電所事故後の栃木県全域における空間線量率調査. 日本保健物理学会 50th 研究発表会講演要旨集:136, 2017.
- 23) 藤澤真, 井上一雅, 荒井萌子, 福士政広: 福島第一原子力発電所事故後における周辺河川の環境動態調査. 日本保健物理学会 50th 研究発表会講演要旨集:138, 2017.
- 24) 大鷹豊, 大鷹豊, 島添健次, 小山晃広, 三好寿顕, 飯本武志, 高橋浩之, 井上一雅, 福士政広: 酸化物半導体のX線耐性の基礎研究. 応用物理学会 64th 春季学術講演会講演予稿集(CD-ROM):14, 20170301.
- 25) 片岡萌, 井上一雅, 福士政広: 荒川における希土類元素の濃度調査. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):25-26, 20170430.
- 26) 山本周平, 井上一雅, 福士政広: 伊豆大島における福島第一原子力発電所事故後の土壌中放射能濃度. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):28, 20170430.
- 27) 藤澤真, 荒井萌子, 井上一雅, 福士政広: ベトナムフーコック島における環境放射線量の測定. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):29, 20170430.
- 28) 横溝真哉, 井上一雅, 福士政広, 森岡孝満, 西村まゆみ, 柿沼志津子, 島田義也: 環境エンリッチメントは放射線影響を抑制するか—条件設定および基礎データの構築—. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):25, 20170430.
- 29) 増田翔, 井上一雅, 福士政広: 三宅島における環境放射線(能)調査. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):29, 20170430.
- 30) 塚野遼, 井上一雅, 福士政広: 伊豆大島における福島第一原子力発電所事故由来の空間線量率の推移. 日本放射線技術学会東京支部雑誌, (131):28-29, 20170430.

競争的資金等の研究課題

- 1) 井上一雅: 日本学術振興会 科学研究費補助金(若手研究(B))「複合分子イメージングを駆使したセンチネルリンパ節同定検査の確立」, 201404-201703. (研究代表者)
- 2) 井上一雅: 環境省 環境研究総合推進費「多チャンネル放射能深度分布測定器の実用化とIn-situ 測定法の確立」, 201604-201903. (研究代表者)
- 3) 細川翔太, 井上一雅: 日本核医学技術学会 平成 28 年度研究助成「PET/CT における画質評価指標の精度向上に向けた各被写体の散乱フラクシヨンの推定」, 201604-201703. (研究分担者)
- 4) 井上一雅: とうきゅう環境財団 研究助成金「多摩川水域における希土類元素の存在分布とその起源に関する研究」, 201704-201903. (研究代表者)
- 5) 井上一雅: 首都大学東京 傾斜的研究費「ベトナム中部における環境放射線量のベースラインの確立」20160601-20170331. (研究代表者)
- 6) 福士政広, 井上一雅: 首都大学東京 傾斜的研究費「可搬型放射線深度分布スペクトルメータの防水型及び多チャンネル化の開発・改良」20160601-20170331. (研究分担者)

社会貢献活動

- 1) 日本医学物理士会, 医学物理士ミニマム講習会講師 201406-

委員暦

- 1) 原子力規格委員会 放射線管理分科会委員, 201508-
- 2) 日本保健物理学会 編集委員会幹事, 201508-
- 3) X 線 CT 認定技師認定試験実行委員, 201508-

論文

- 1) Shinsho K, Kawaji Y, Yanagisawa S, Otsubo K, Koba Y, Wakabayashi G, Matsumoto K, Ushiba H: X-ray imaging using the thermoluminescent properties of commercial Al_2O_3 ceramic plates. Applied radiation and isotopes : including data, instrumentation and methods for use in agriculture, industry and medicine, 111: 117-123, 201605.
- 2) Weishan Chang, Weishan Chang, Yusuke Koba, Shigekazu Fukuda, Genichiro Wakabayashi, Hidetoshi Saitoh, Kiyomitsu Shinsho: Absorbed dose estimation using LET dependence in glow curve of thermoluminescent phosphor $\text{Li}_3\text{B}_7\text{O}_{12}:\text{Cu}$ in therapeutic carbon beams. Journal of Nuclear Science and Technology 1-6, 20160501.
- 3) Yusuke Koba, Weishan Chang, Kiyomitsu Shinsho, Shin Yanagisawa, Genichiro Wakabayashi, Kazuki Matsumoto, Hiroaki Ushiba, Takayuki Ando: Yusuke Koba, Weishan Chang, Kiyomitsu Shinsho, Shin Yanagisawa, Genichiro Wakabayashi, Kazuki Matsumoto, Hiroaki Ushiba, Takayuki Ando: Response of Alumina-Based Ceramic Thermoluminescence Detector to Charged Particles. Sensors and Materials, 28 (8): 881-886, 201608.
- 4) Kiyomitsu Shinsho, Keisuke Otsubo, Yusuke Koba, Kazuki Matsumoto, and Hiroaki Ushiba : Thermoluminescence Glow Curve Analysis of Thermoluminescent Na-Doped BeO Phosphor Using a Postannealing Method with Very Low Heating Rate. Sensors and Materials, 28(8): 917-925, 201608.
- 5) Shin Yanagisawa, Kiyomitsu Shinsho, Mitsuhiro Inoue, Yusuke Koba, Kazuki Matsumoto, Hiroaki Ushiba, Takayuki Ando: Applicability of two-dimensional thermoluminescence slab dosimeter based on $\text{Al}_2\text{O}_3:\text{Cr}$ for the quality assurance of robotic radiosurgery. Radiation Measurements, In Press 20160919.
- 6) Akihiro Nohtomi, Ryosuke Kurihara, Hiroyuki Kinoshita, Soichiro Honda, Masaaki Tokunaga, Heita Uno, Kiyomitsu Shinsho, Genichiro Wakabayashi, Yusuke Koba, Junichi Fukunaga, Yoshiyuki Umezaki, Yasuhiko Nakamura, Saiji Ohga: An application of CCD read-out technique to neutron distribution measurement using the self-activation method with a CsI scintillator plate. Nuclear Instruments and Methods in Physics Research, Section A: Accelerators, Spectrometers, Detectors and Associated Equipment, 832: 21-23, 20161001.
- 7) 眞正浄光, 柳澤伸, 古場裕介, 井上光広, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: TLD による線量分布測定の高精度化～放射線治療の線量検証システムを目指して～. 放射線, 43 (1): 13-17-, 20170427.

Misc

- 1) 相澤若奈, 眞正浄光, 古場裕介, 齋藤雄介, 柳澤伸: $\text{CaSO}_4:\text{Tm}, ^6\text{Li}$ と $\text{CaSO}_4:\text{Tm}, ^7\text{Li}$ の X 線に対する高線量域での線量応答性. 応用物理学会秋季学術講演会講演予稿集 (CD-ROM), 77th:

ROMBUNNO.15p-P14-52-, 20160901.

- 2) 岡納竜之介, 真正浄光, 古場裕介, CHANG Weishan, CHANG Weishan, 柳澤伸, 佐々木大地, 安藤隆之: $\text{Al}_2\text{O}_3\text{:Cr}$ セラミック板の LET 依存性. 応用物理学会秋季学術講演会講演予稿集(CD-ROM), 77th:ROMBUNNO.15p-P14-51-, 20160901.
- 3) 真正浄光, 柳澤伸, 古場裕介, 齋藤雄介, 角田瑞季, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: TLD による線量分布測定の高精度化～放射線治療の線量検証システムを目指して～. 応用物理学会秋季学術講演会講演予稿集(CD-ROM), 77th:ROMBUNNO.14p-B9-4-, 20160901.
- 4) 鈴木柚香, 真正浄光, 古場裕介, 齋藤雄介, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: $\text{Al}_2\text{O}_3\text{:Cr,B}$ セラミック板の X 線に対する熱蛍光特性. 応用物理学会秋季学術講演会講演予稿集(CD-ROM), 77th:ROMBUNNO.15p-P14-50-, 20160901.
- 5) 齋藤雄介, 真正浄光, 古場裕介, 田中浩基, 若林源一郎, 納富昭弘, 安藤隆之, 松本和樹, 牛場洋明: $\text{Al}_2\text{O}_3\text{:Cr}$ セラミック TL スラブの中性子感度の検討. 応用物理学会秋季学術講演会講演予稿集(CD-ROM), 77th:ROMBUNNO.15p-P14-49-, 20160901.
- 6) 白山卓, 真正浄光, 柳澤伸, 古場裕介, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: X 線に対する $\text{Al}_2\text{O}_3\text{:Cr}$ セラミック板の線量応答性. 応用物理学会秋季学術講演会講演予稿集(CD-ROM), 77th:ROMBUNNO.15p-P14-53-, 20160901.
- 7) 柳澤伸, 真正浄光, 古場裕介, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: $\text{Al}_2\text{O}_3\text{:Cr}$ セラミックスの熱ルミネセンス及びフォトルミネセンス特性. 応用物理学会春季学術講演会講演予稿集(CD-ROM), 64th:ROMBUNNO.16p-P9-52-, 20170301.
- 8) 齋藤雄介, 真正浄光, 古場裕介, 田中浩基, 若林源一郎, 納富昭弘, 安藤隆之, 松本和樹, 牛場洋明: $\text{Al}_2\text{O}_3\text{:Cr}$ セラミック TL スラブを用いた熱蛍光の中性子線・ γ 線弁別解析. 応用物理学会春季学術講演会講演予稿集(CD-ROM), 64th:ROMBUNNO.14p-E204-10-, 20170301.
- 9) 角田瑞季, 真正浄光, 柳澤伸, 古場裕介, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: 乳房 X 線撮影装置における 2 次元熱蛍光スラブ線量計を用いた半価層測定の測定精度の検討. 応用物理学会春季学術講演会講演予稿集(CD-ROM), 64th:ROMBUNNO.16p-P9-54-, 20170301.
- 10) 相澤若奈, 真正浄光, 古場裕介, 齋藤雄介, 若林源一郎, 納富昭弘: 中性子- γ 線混在場における $\text{CaSO}_4\text{:Tm}$, ^6Li と $\text{CaSO}_4\text{:Tm}$, ^7Li の精密グローブ曲線. 応用物理学会春季学術講演会講演予稿集(CD-ROM), 64th:ROMBUNNO.16p-P9-53-, 20170301.

講演・口頭発表等

- 1) 湊麻美, 納富昭弘, 若林源一郎, 古場裕介, 真正浄光: Csl 板と CCD カメラを用いた簡易中性子分布測定手法の開発. 第 28 回放射線夏の学校, 201608.
- 2) 徳永将瑛, 納富昭弘, 福永淳一, 梅津芳幸, 中村泰彦, 大賀才路, 若林源一郎, 古場裕介, 真正浄光: Csl の 自己放射化を用いた中性子強度分布測定への CCD 読み出しの応用と解析. 第 28 回放射線夏の学校, 201608.

- 3) Shin Yanagisawa, Kiyomitsu Shinsho, Yusuke Koba, Mitsuhiro Inoue, Kazuki Maysumoto, Hiroaki Ushiba, Takayuki Andoh: Depth dependence of TL response of Al₂O₃ ceramic TLSD for 6 MV X-ray beam. 第 111 回日本医学物理学会学術大会, 201608.
- 4) 相澤若奈, 真正浄光, 古場裕介, 齋藤雄介, 柳澤伸: CaSO₄:Tm, ⁶Li と CaSO₄:Tm, ⁷Li の X 線に対する高線量域での熱蛍光特性. 第 28 回放射線夏の学校, 201608.
- 5) 角田瑞季, 真正浄光, 柳澤伸, 古場裕介, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: 6MV X 線に対する Al₂O₃:Cr セラミック TLSD の厚さ依存性. 第 28 回放射線夏の学校, 201608.
- 6) 佐々木大地, 真正浄光, 古場裕介, 張維珊, 安藤隆之: Al₂O₃ セラミックス板を用いた炭素線の線量分布測定に向けた事前検討. 第 28 回放射線夏の学校, 201608.
- 7) 柳澤伸, 真正浄光, 古場裕介, 井上光広, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: 2 次元熱蛍光スラブ線量計を用いた線量分布の検証. 第 28 回放射線夏の学校, 201608.
- 8) 山本祥太郎, 真正浄光, 古場裕介: 熱蛍光特性を有する Al₂O₃ セラミックによる積層型半価層測定法の検討. 第 28 回放射線夏の学校, 201608.
- 9) 齋藤雄介, 真正浄光, 若林源一郎, 田中浩基, 古場裕介, 納富昭弘, 安藤隆之, 松本和樹, 牛場洋明: 中性子線及び γ 線混在照射に対する Al₂O₃:Cr セラミック TL スラブの熱蛍光特性. 第 28 回放射線夏の学校, 201609.
- 10) Mizuki Kakuta, Kiyomitsu Shinsho, Shin Yanagisawa, Yusuke Koba, Kazuki Matsumoto, Hiroaki Ushiba, Takayuki Andoh: Examination of half-value layer measurement using two-dimensional thermoluminescence slab dosimeter in mammography. 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 201609.
- 11) Shin Yanagisawa, Kiyomitsu Shinsho, Yusuke Koba, Mitsuhiro Inoue, Kazuki Maysumoto, Hiroaki Ushiba, Takayuki Andoh: Quality assurance of robotic radiosurgery using two-dimensional thermoluminescence slab dosimeter. 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 201609.
- 12) Shotaro Ymamoto, Kiyomitsu Shinsho, Yusuke Koba: Precision improvement of the HVL measurement using stacked Al₂O₃ ceramic TLD. 第 112 回日本医学物理学会学術大会, 20160900.
- 13) 正田真菜, 真正浄光, 山本祥太郎, 古場裕介, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: Al₂O₃ ceramic TLSD のエネルギー依存性. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 201610.

競争的資金等の研究課題

- 1) 真正浄光: 文部科学省 科学研究費補助金(基盤研究(C))「人体模型線量計による放射線診断・治療時の人体内 3 次元線量分布評価システムの開発」, 201604-202003.

受賞

- 1) 齋藤雄介, 真正浄光, 古場裕介, 田中浩基, 若林源一郎 納富昭弘, 安藤隆之, 松本和樹, 牛場 洋明: 応用物理学会放射線分科会 2016 年秋季学術講演会 学生ポスター賞「Al₂O₃:Cr

セラミック TL スラブの中性子感度の検討」, 201609.

- 2) 角田瑞季, 真正浄光, 柳澤伸, 古場裕介, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: 応用物理学会 第 64 回応用物理学会春季学術講演会 Poster Award「乳房 X 線撮影装置における 2 次元熱蛍光スラブ線量計を用いた半価層測定 of 測定精度の検討」, 201703.
- 3) 柳澤伸, 真正浄光, 古場裕介, 松本和樹, 牛場洋明, 安藤隆之: 応用物理学会放射線分科会 第 64 回応用物理学会春季学術講演会 学生ポスター賞「 $\text{Al}_2\text{O}_3:\text{Cr}$ セラミックスの熱ルミネセンス及びフォトルミネセンス特性」, 201703.

特許

- 1) 真正浄光, 古場裕介: 特願 2016-031994, 20160801 「中性子線量測定用素子及び中性子線量の測定方法」.
- 2) 真正浄光, 古場裕介: 特願 2016-151517, 20160801 「中性子線・ γ 線弁別測定用の熱蛍光体及び中性子線・ γ 線弁別測定法」.
- 3) 真正浄光, 柳澤伸: 特開 2016-050258, 20160411 特願 2014-176381, 20140829 「積層型熱蛍光体」公立大学法人首都大学東京, 株式会社千代田テクノル.
- 4) 真正浄光, 古場裕介: 特開 2016-050859, 20160411 特願 2014-176380, 20140829 「LET 非依存性ピーク検出法、線量分布測定法、並びに、熱蛍光特性の判定法」公立大学法人首都大学東京, 株式会社千代田テクノル.
- 5) 真正浄光, 大坪圭介: 特開 2016-145826, 20160812 特願 2016-017991, 20160202 「吸収線量の解析方法」公立大学法人首都大学東京.

委員暦

- 1) 応用物理学会 放射線分科会幹事(201404-)
- 2) 応用物理学会 講演奨励賞審査委員(201602-)
- 3) 日本診療放射線技師会 業務拡大に伴う統一講習会実行委員(201605-)
- 4) 日本医学物理学会 プログラム委員および学術賞審査委員(201608-)

講演・口頭発表等

- 1) 関根紀夫, 妹尾淳史, 長又新, 松木直也, 三ツ木直樹, 宮本知佳 ICT を用いた撮影実習教育の有用性、第 10 回日本診療放射線学教育学会学術集会 東京 20160824.
- 2) 関根紀夫, 他職種国家試験画像問題の診療放射線技師教育への活用、第 10 回日本診療放射線学教育学会学術集会 東京 20160824.
- 3) 名川友紀子, 関根紀夫, Impacts of difference of transparency reagents on mouse brain 透明化試薬の違いによるマウス脳への影響, 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会 大宮 20160909-20160911.
- 4) 関根紀夫, 森浩一, 大久保知幸, 小原弘道 X線位相コントラスト画像法の軟組織における解像特性評価の試み、第 26 回日本保健科学学会学術集会 東京 20161008.
- 5) 森浩一, 関根紀夫, 小原弘道, 大久保知幸 放射光 X 線を用いた位相コントラスト画像法による肝末梢血管系の描画、第 26 回日本保健科学学会学術集会 東京 20161008.

特許

- 1) X線撮影学習システム(特開2016-145978)関根紀夫, 長又新, 松木直也, 大平康德, 宮本知佳, 中世古和真(首都大学東京)201608.

Misc

- 1) 乳井嘉之: トモシンセシスの簡易的教育用補助ツールの試作. 第 26 回日本保健科学学会学術集会抄録集, (19):26-26, 201609.

競争的資金等の研究課題

- 1) 小倉 泉: 日本学術振興会 基盤研究(C)「マルチスライス形ヘリカルX線CT装置の教育用模擬システムの開発と学生実験への導入」, 20150400-201803.
- 2) 乳井嘉之: 日本学術振興会 基盤研究(C)「教育用画像再構成補助ツールキットの開発」, 201704-201903.

論文

- 1) Fujihara Y, Nitta N, Misawa M, Hyodo K, Shirasaki Y, Hayashi K, Kosaka R, Homma K, Numano T, Kuribayashi S, Watanabe Y, Sato J, Ohtomo K, Takato T, Hoshi K: T2 and Apparent Diffusion Coefficient of MRI Reflect Maturation of Tissue-Engineered Auricular Cartilage Subcutaneously Transplanted in Rats. Tissue engineering. Part C, Methods, 22(5):429-438, 201605.
- 2) Ito D, Numano T, Mizuhara K, Takamoto K, Onishi T, Nishijo H: A new technique for MR elastography of the supraspinatus muscle: a gradient-echo type multi-echo sequence. Magnetic resonance imaging, 34(8):1181-1188, 201606.
- 3) 伊東大輝, 沼野智一, 水原和行, 高本孝一, 大西孝明, 西条寿夫: 棘上筋 MR エラストグラフィ(MRE)に適応した振動システムの開発. 日本放射線技術学会雑誌, 72(12):1222-1229, 201612.

Misc

- 1) 沼野智一, 伊東大輝, 大西孝明, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 三澤雅樹, 新田尚隆: 汎用 MR Elastography の振動感度を増強させる方法. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):855-855, 201609.
- 2) 波部哲史, 沼野智一, 五十嵐佳佑, 植木貴道, 伊東大輝, 大西孝明, 水原和行, 高本孝一: MR Elastography における加振装置ホース長による振動強度変化. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):855-856, 201609.
- 3) 伊東大輝, 沼野智一, 大西孝明, 水原和之, 高本孝一, 西条寿夫, 三澤雅樹: 棘上筋 MR elastography における振動周波数の最適化. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):856-856, 201609.
- 4) 植木貴道, 沼野智一, 伊東大輝, 大西孝明, 五十嵐佳佑, 波部哲史, 水原和行, 高本孝一: 梨状筋 MR Elastography における加振パッドの配置位置の決定. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):856-856, 201609.
- 5) 大西孝明, 沼野智一, 伊東大輝, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 新田尚隆: 大腰筋 MRE における加振パッドの設置部位の検証. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):856-857, 201609.
- 6) 五十嵐佳佑, 沼野智一, 波部哲史, 植木貴道, 大西孝明, 伊東大輝, 水原和行: 再現性良く MR Elastography を行うための加振パッド開発. 日本放射線技術学会雑誌, 72(9):857-857, 201609.
- 7) 新田尚隆, 三澤雅樹, 沼野智一: 軟骨評価用ファントムにおける組成と音響特性との関係. 電子情報通信学会技術研究報告, 116(465(US2016 120-128)):1-5-, 20170214.
- 8) 中村真紀, 黒岩輝代子, 大矢根綾子, 三澤雅樹, 沼野智一, 小菅寿徳: 医療用注射液を用

いた磁性酸化鉄含有リン酸カルシウムナノ粒子の作製．日本セラミックス協会年会講演予稿集 (CD-ROM), 2017:ROMBUNNO.1G23-, 20170301.

- 9) 植木貴道, 沼野智一, 伊東大輝, 大西孝明, 五十嵐佳佑, 渡部哲史, 水原和行: 梨状筋 MR Elastography に適切な加振パッドの配置位置の検討．日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73rd:189-190-, 20170321.
- 10) 伊東大輝, 沼野智一, , 水原和行, 水原和行, 鷲尾利克, 三澤雅樹, 新田尚隆: MR Elastography 特有のパーシャルボリューム効果の存在．日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73rd:205-206-, 20170321.
- 11) 沼野智一, 伊東大輝, 大西孝明, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 三澤雅樹: 汎用 MR Elastography 技術と Dixon 法の融合．日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73rd:190-, 20170321.
- 12) 五十嵐佳佑, 沼野智一, 伊東大輝, 波部哲史, 植木貴道, 大西孝明, 水原和行: MR Elastography において異なる振動位相画像を得るための新しい手法．日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73rd():189-, 20170321.
- 13) 沼野智一, 清野真也, 金沢勉, 金澤崇史, 野島佑太, 五十嵐佳佑, 水原和行: MR Elastography 用標準ファントムに適応した加振パッドの運用．日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73rd:264-, 20170321.
- 14) 大西孝明, 沼野智一, 伊東大輝, 伊東大輝, 水原和行, 高本孝一, 波部哲史, 西条寿夫: MR Elastography(MRE)による大腰筋の弾性率測定．日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73rd:190-, 20170321.
- 15) 波部哲史, 沼野智一, 大西孝明, 伊東大輝, 伊東大輝, 水原和行, 五十嵐佳佑, 植木貴道: MR Elastography におけるホース長変化による生体内での振動強度変化．日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, 73rd:189-, 20170321.

講演・口頭発表等

- 1) 伊東大輝, 沼野智一, 大西孝明, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 三澤雅樹: 肩部 MR Elastography に適応した振動パッドの開発．第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20160415.
- 2) 沼野智一, 大西孝明, 伊東大輝, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 新田尚隆: 汎用 MR Elastography の梨状筋への適用．第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20160415.
- 3) Ito D, Numano T, Oonishi T, Mizuhara K, Takamoto K, Nishijyo H, Misawa M: The Influence of Skeletal Muscle Anisotropy on Magnetic Resonance Elastography．第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20160415.
- 4) 大西孝明, 沼野智一, 伊東大輝, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 新田尚隆: 大腰筋 MR Elastography における効率的な大腰筋の加振方法の検証．第 72 回日本放射線技術学会総会

学術大会, 20160415.

- 5) 沼野智一, 金澤崇史, 高濟英彰, 清野真也, 伊東大輝, 大西孝明, 水原和行: MR Elastography 用標準ファントムに適応した加振パッドの開発. 第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20160416.
- 6) 沼野智一, 伊東大輝, 大西孝明, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 三澤雅樹, 新田尚隆: MR elastography と 脂肪/水 画像の同時収集. 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 20160909.
- 7) 伊東大輝, 沼野智一, 大西孝明, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 三澤雅樹: 棘上筋 MR Elastography における撮像位置の最適化. 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 20160909.
- 8) 伊東大輝, 沼野智一, 水原和行, 三澤雅樹, 大西孝明, 鷺尾利克, 新田尚隆: MR Elastography におけるパーシャルボリューム効果の影響. 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 20160909.
- 9) 大西孝明, 沼野智一, 伊東大輝, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 新田尚隆: 大腰筋 MRE において効率的に大腰筋にせん断波を加える方法. 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 20160909.
- 10) 沼野智一, 伊東大輝, 大西孝明, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 三澤雅樹, 新田尚隆: 汎用 MR Elastography の振動感度を増強させる方法. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 20161014.
- 11) 波部哲史, 沼野智一, 五十嵐佳佑, 植木貴道, 伊東大輝, 大西孝明, 水原和行, 高本孝一: MR Elastography における加振装置ホース長による振動強度変化. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 20161014.
- 12) 伊東大輝, 沼野智一, 大西孝明, 水原和之, 高本孝一, 西条寿夫, 三澤雅樹: 棘上筋 MR elastography における振動周波数の最適化. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 20161014.
- 13) 植木貴道, 沼野智一, 伊東大輝, 大西孝明, 五十嵐佳佑, 波部哲史, 水原和行, 高本孝一: 梨状筋 MR Elastography における加振パッドの配置位置の決定. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 20161014.
- 14) 大西孝明, 沼野智一, 伊東大輝, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 新田尚隆: 大腰筋 MRE における加振パッドの設置部位の検証. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 20161014.
- 15) 五十嵐佳佑, 沼野智一, 波部哲史, 植木貴道, 大西孝明, 伊東大輝, 水原和行: 再現性良く MR Elastography を行うための加振パッド開発. 第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 20161014.
- 16) 沼野智一, 伊東大輝, 大西孝明, 水原和行, 高本孝一, 西条寿夫, 三澤雅樹: 汎用 MR elastography 技術と Dixon 法の融合. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20170414.
- 17) 伊東大輝, 沼野智一, 水原和行, 鷺尾利克, 三澤雅樹, 新田尚隆: MR Elastography 特有のパーシャルボリューム効果の存在. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20170414.

- 18) 大西孝明, 沼野智一, 伊東大輝, 水原和行, 高本考一, 波部哲史, 西条寿夫: MR Elastography (MRE)による大腰筋の弾性率測定. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20170414.
- 19) 植木貴道, 沼野智一, 伊東大輝, 大西孝明, 五十嵐佳佑, 波部哲史, 水原和行: 梨状筋 MR Elastography に適切な加振パッドの配置位置の検討. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20170414.
- 20) 波部哲史, 沼野智一, 大西孝明, 伊東大輝, 水原和行, 五十嵐佳佑, 植木貴道: MR Elastography におけるホース長変化による生体内での振動強度変化. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20170414.
- 21) 五十嵐佳佑, 沼野智一, 伊東大輝, 波部哲史, 植木貴道, 大西孝明, 水原和行: MR elastography において異なる振動位相画像を得るための新しい手法. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20170414.
- 22) 沼野智一, 清野真也, 金澤勉, 金澤崇史, 野島佑太, 五十嵐佳佑, 水原和行: MR Elastography 用標準ファントムに適応した加振パッドの運用. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 20170415.

特許

- 1) 沼野智一: 特開 2017-064309, 20170406 特願 2015-196828, 20151002 「磁気共鳴撮影装置」 公立大学法人首都大学東京.

社会貢献活動

- 1) 沼野智一: 日本磁気共鳴専門技術者認定機構(JMRTS) 理事, 201504-
- 2) 沼野智一: 平成 28 年度 ひらめき☆ときめきサイエンス KAKENHI 「磁場の力を使って人体内部を 見る・測る・診る。ー 磁場の力を利用する MRIー 2016edition」, 20160810-20160811

講演・口頭発表等

- 1) 横浜亘, 齋藤秀敏, 明上山 温:部分分割再構成法によるkV CBCTのアーチファクト低減処理. 第111回日本医学物理学会学術大会, 20160414.
- 2) 明上山 温, 齋藤秀敏:電子線モードにより取得した画像のエネルギースペクトル. 第111回日本医学物理学会学術大会, 20160414.
- 3) 千葉貴仁, 齋藤秀敏, 明上山 温:格子ボルツマン法を用いた光子輸送の計算精度の向上. 第111回日本医学物理学会学術大会, 20160415.
- 4) 小川龍史, 千葉貴仁, 明上山 温:低 MU 撮影時の MVCBCT 画質向上に関する研究. 第112回日本医学物理学会学術大会, 20160909.
- 5) 氏家義文, 千葉貴仁, 明上山 温:電磁石によるシンクロトン放射を用いた EPID 画像の取得. 第112回日本医学物理学会学術大会, 20160909.
- 6) 秋丸恵里奈, 藤田幸男, 明上山 温, 齋藤秀敏:ビームハードニング補正によるコーンビーム CT 再構成画像の画質改善の試み. 第112回日本医学物理学会学術大会, 20160910.
- 7) 針生将嗣, 明上山 温, 齋藤秀敏:低解像度ボクセル法によるGPU 光子輸送モンテカルロシミュレーションの試み. 第112回日本医学物理学会学術大会, 20160910.
- 8) 横浜亘, 齋藤秀敏, 明上山 温, 他3名:kV CBCTにおける低密度領域自動抽出法の検討. 第112回日本医学物理学会学術大会, 20160910.
- 9) 森田恭平, 千葉貴仁, 明上山 温:USB ビデオカメラ(UVC)を使用したエネルギースペクトルの測定. 第112回日本医学物理学会学術大会, 20160910.
- 10) Atsushi Myojoyama, Hidetoshi Saitoh:An image reconstruction method using electron beam mode of linear accelerator. ICMP 2016 Bangkok (Thailand), 20161210.
- 11) Masatsugu Hariu, Atsushi Myojoyama, Hidetoshi Saitoh:Feasibility study of parallel Monte Carlo photon transport using low-resolution voxel algorithm on the. ICMP 2016 Bangkok (Thailand), 20161210.
- 12) Takahito Chiba, Hidetoshi Saitoh, Atsushi Myojoyama:Development of photon transport calculation method using voxel-based Boltzmann transport equation. ICMP 2016 Bangkok (Thailand), 20161210.

競争的資金等の研究課題

- 1) 明上山 温:日本学術振興会 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「電子線とX線のハイブリッドによる新しい高エネルギー画像撮像法の開発」, 201604-201903.

首都大学東京 健康福祉学部 研究費評価・配分委員会部会

部会長	渡 邊	賢（学部長）
委 員	西 村	ユミ（看護学科長）
委 員	網 本	和（理学療法学科長）
委 員	石 井	良 和（作業療法学科長）
委 員	福 士	政 広（放射線学科長）